

< 本 編 >

1. はじめに

少子高齢化で成熟した社会には、観光の振興による交流人口を拡大し、需要の創出による経済の活性化が有効であるといわれています。

実際、平成 17 年度の国内旅行の消費額は 24.4 兆円、生産波及効果は 55.3 兆円で、これによる雇用効果は 469 万人(総就業者数の 7.4%)と推計され、日本経済の大きなウエイトを占めています。

福島市においては、以前から交流があった東京都荒川区の方を対象に「都市部といて湯とくだものの里ふくしまを行き交う新たなライフスタイルの創設によるビジネスモデルの確立」をテーマとして社会実験を起案しました。

福島市の社会実験は、特色ある滞在型農林漁業体験活動モデルの確立に関する調査として位置づけられたことから、「果樹栽培の農業体験活動の推進を軸に、農村側繁忙期の援農ニーズと都市側の災害時を見据えた協力関係確立に対するニーズを加味し、新たな滞在型農業体験活動の仕組みの構築」に向けた調査検討を行ってまいりました。

具体的には、援農作業により対価を得ることにより、格安の料金で参加できるモニターツアーを 3 回実施し、モニター、援農受け入れ農家、参加者受け入れ旅館からのアンケート調査をはじめとし、福島市内での関係者によるワークショップの開催や都市側(荒川区)住民へのアンケート調査等、ツアーがビジネスとして機能するかを中心とした検証を行いました。

併せて、モニターツアー参加者には、災害時の保険となる「震災疎開パッケージ」に加入するとともに、福島市の防災に関する考え方の説明や防災施設の見学等災害に対する意識の啓発を図ってまいりました。これらを通して、都市との交流人口拡大のためのシステム構築に向けた可能性を検討いたしました。

2. 社会実験実施地区の概要

(1) 福島市の特徴

ア 位置

首都圏から約250kmの福島県中通り北部に位置し、東北新幹線（約1時間30分）、東北自動車道（約3時間）の要衝であり、交通の便がよく、滞在時間が多く確保できる立地にある。

イ 自然条件

台風や地震等の自然災害が比較的少なく、四季にメリハリがあり、暖地性と寒地性の両方の果物（サクランボ、モモ、ブドウ、ナシ、リンゴ等）が豊富に収穫できる。

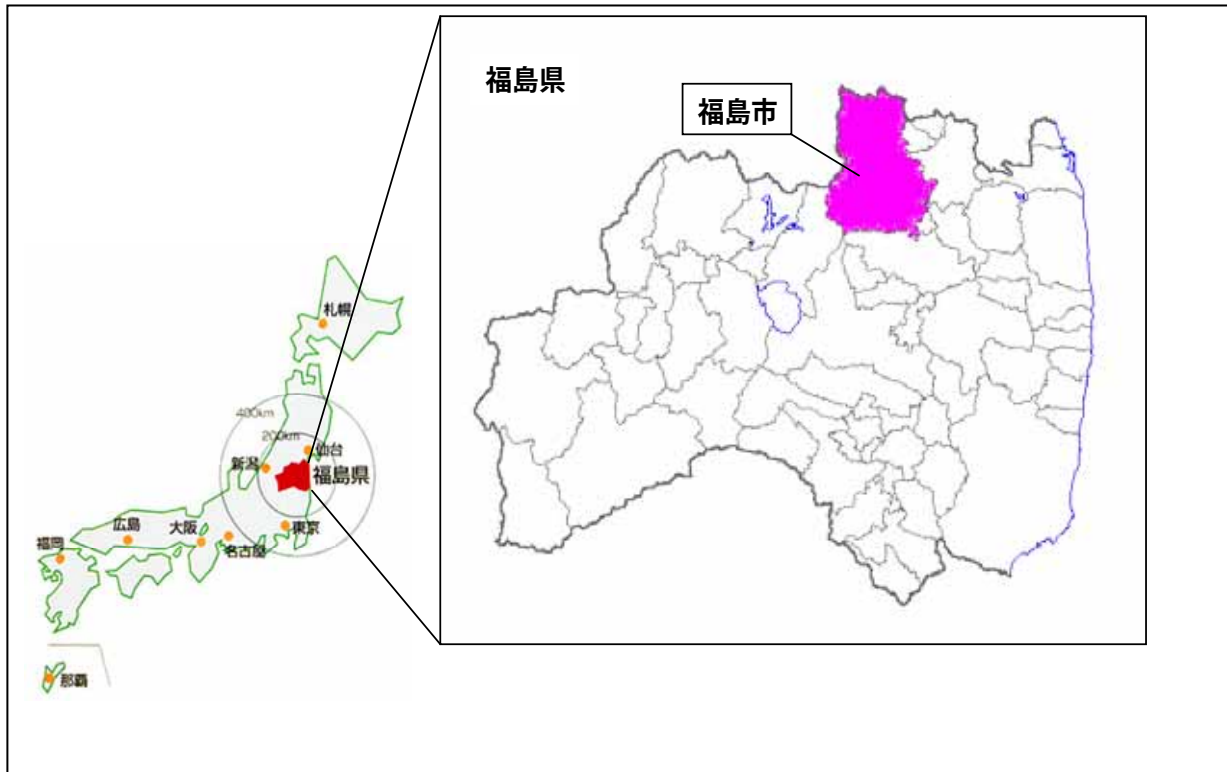
ウ 観光資源

飯坂、土湯、高湯等、湯量豊富で泉質の異なる多様な温泉地があり、磐梯吾妻国立公園をはじめとした豊かな自然環境を有している。

エ その他

人材や農産物等多様な資源の都市部への供給源として重要な役割を担っている。

(2) 福島市地図



(3) 福島市と荒川区の災害時における相互応援協定書

災害時における相互応援に関する協定書

荒川区と福島市は、災害時における相互応援について、次のとおり協定する。

(目的)

第1条 この協定は、いずれかの自治体の地域において、大規模な災害が発生し、被災した自治体独自では十分に被災者の救援その他の応援措置が実施できない場合に、災害対策基本法(昭和34年法律第223号)第67条の規定に基づき、相互に応援を行うことについて、必要な事項を定めるものとする。

(連絡担当部署)

第2条 両自治体は、あらかじめ相互応援に関する連絡担当部署を定め、災害が発生したときは、速やかに相互に連絡するとともに、必要な情報を提供するものとする。

(応援の内容)

第3条 応援の内容は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 食糧、飲料水及び生活必需品並びにこれらの供給に必要な資機材の提供
- (2) 被災者の救出、医療、防疫、施設の応急復旧その他の活動に必要な資機材及び物資の提供
- (3) 救援活動に必要な車両その他の提供
- (4) 救助及び応急復旧に必要な職員の派遣
- (5) 被災者の一時収容のための施設の提供と被災者の受け入れ
- (6) 前各号に掲げるもののほか、特に必要と認めて要請する事項

(応援要請の手続)

第4条 応援を受けようとする自治体は、次の各号に掲げる事項を明らかにし、電話その他の手段により応援を要請し、後日、速やかに文書で提出するものとする。

- (1) 被災者の状況及び要請理由
- (2) 必要とする資機材の品名並びに数量
- (3) 必要とする職員の職種別人員及び応援の期間
- (4) 応援場所及び応援場所への経路
- (5) 前各号に掲げるもののほか、応援を必要とする事項

(経費の負担)

第5条 応援に要した費用は、原則として応援を要請した自治体の負担とする。

- 2 応援を要請した自治体が前項に規定する費用を支弁するいとまがない場合、応援を行う自治体は、当該費用を一時立替支弁するものとする。
- 3 前2項の規定により難しい場合には、別途協議する。

(情報の交換)

第6条 両自治体は、この協定に基づく応援が円滑に行われるよう必要に応じ、相互に情報交換を行うものとする。

(協議)

第7条 この協定の実施に関し必要な事項又はこの協定に定めのない事項については、その都度、両自治体が協議して定めるものとする。

この協定の成立を証するため、本書2通を作成し、両自治体が署名のうえ、各1通を保有する。

平成18年4月17日

東京都荒川区荒川2丁目2番3号
荒川区長 **西村 大一郎**

福島県福島市五老内町3番1号
福島市長 **瀬戸 昌則**

荒川区長 **西村 大一郎**

福島市長 **瀬戸 昌則**

3. 社会実験の概要

(1) 社会実験のテーマ

都市部（荒川区）と「いで湯とくだものの里ふくしま」を行き交う新たなライフスタイルの創設によるビジネスモデルの確立

(2) 社会実験により解消すべき課題

- ア 家族単位の滞在費が一般的に高い（安くない）こと
- イ 長期滞在に対応した料金設定が一般にないこと
- ウ 交通費が高いこと 等

(3) 社会実験の事業内容

- ア 会議の開催（実行委員会、モニターツアー振返り、庁内打合せ）
- イ モニターツアー（計3回）の実施
- ウ 受け入れ基盤強化（ワークショップ、先進地視察～長野県飯田市）
- エ その他（援農受け入れ農家・加工業者アンケート、宿泊業者アンケート、荒川区民アンケート）

(4) 社会実験実施前に設定した特徴及び内容

- ア モニターツアー実施後、速やかに振返り及び実行委員会を開催し、モニターツアーの分析・評価を行うことにより、都市との交流人口拡大のためのシステム構築に向けた社会実験が可能である。
- イ 従来の観光に重点を置いた体験型農業から、対価を得られる農繁期の「援農」に重点を置いた「モニターツアー」の実施。
- ウ 「モニターツアー」参加者には、震災疎開パッケージ（保険）を付与し、防災意識を高め、災害時の安全や安心を考える内容とする。
- エ 実施中のグリーンツーリズムの内容や首都圏から新規就農した人の農地を見たり、体験談を聞くことにより、福島市の生活環境及び農業の現状について理解を深める。
- オ 3回通しての参加（予定：10名程度）と1回ごと（予定：各回30名程度）を対象とし、参加の選択ができるようなプログラムを設定し、参加する側から継続的援農、単発的援農を望むのかについて検証を行う。
- カ モニター、援農受け入れ農家、旅館・ホテル等「モニターツアー」関係者へのアンケートの実施及び分析。（事業として優れた点、改善すべき点を検証し、次年度以降の事業につなげる。）

キ 「モニターツアーに参加しない荒川区民へのアンケート調査」(都市部の住民が福島市とどのような共生・対流を望んでいるかの意識調査を実施する。)

ク 「モニターツアー」参加者に援農の対価として地域通貨(＝ももりんカード)を発行。地域通貨は、土産品の購入等に使用し、福島市の産品振興に寄与する。併せて、都市部の住民が行う援農作業が対価に見合うものとなりうるか等の検証を行う。

ケ ア～クの結果を踏まえ、社会実験全体としての分析・評価を行い、報告書を作成する。

(5) 実行委員会規約および委員名簿

都市との共生・対流を進めるための社会実験実行委員会設置要綱

(目的)

第1条 「都市と農山漁村の共生・対流を進めるための社会実験」(以下「社会実験」という。)を円滑に進め、都市との交流人口の拡大のためのシステムを構築するための調査・検討を進めるため、都市との共生・対流を進めるための社会実験実行委員会(以下「実行委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 実行委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 社会実験の実施
- (2) 必要な調査研究
- (3) 他団体との連絡調整
- (4) その他必要な事項

(構成)

第3条 実行委員会は、委員13名以内をもって組織する。

2 委員は、別表第1に掲げる者をもってあてる。

(役員及びその職務)

第4条 実行委員会に次の役員を置く。

会長 1名

副会長 1名

2 会長及び副会長は、委員の互選により選出する。

3 会長は、この会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、社会実験が終了し、国への報告が終了するまでの期間とする。

(実行委員会)

第6条 実行委員会は、必要に応じて会長が招集する。ただし、新たに組織された実行委員会の最初に開催される会議は、市長が招集する。

2 会長は、実行委員会の議長となる。

(ワーキンググループ)

第7条 実行委員会の職務を具体的に遂行するため、必要に応じて委員の代表からなるワーキンググループを組織する。ワーキンググループは、会長が招集することとし、会議の議長となる。

(実行委員会アドバイザー)

第8条 社会実験に関する総合的な施策の調査・研究・情報収集を行うため、実行委員会アドバイザーを置くことができる。

(庶務)

第9条 実行委員会の庶務は、福島市役所商工観光部観光課において処理する。

(委任)

第10条 この要綱に定めるもののほか、実行委員会の運営に関して必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成18年7月5日から施行する。

別表第1

団 体 名	氏 名
福島商工会議所	丹野 典之
JA新ふくしま	丹治 基春
ふくしまNPOネットワークセンター	佐藤 和子
福島観光協会	渡辺 和裕
飯坂温泉観光協会	大宮 行雄
土湯温泉観光協会	斎藤 建一郎
高湯温泉観光協会	永山 博昭
福島市旅館ホテル協同組合	板倉 時雄
ド田舎水原郷	立花 正清
ふくしまグリーンツーリズム実行委員会	安斎 さと子
(財) 福島経済研究所	星 効
くだものの木オーナー制度受入農家	安斎 忠作
花も“み”もある福島震災疎開交流会	林 克重

(1) モニターツアーの募集

モニターツアー専用の募集チラシを 70,000 部作成し、平成 18 年 10 月 8 日に荒川区内にて新聞折り込み広告を 1 回実施。

イ 新聞折り込み用モニターツアー募集チラシ（A3 版見開き両面カラー印刷）
表面



ウ 応募状況

1回目（平成18年10月22日（日）～24日（火）実施）	……	28名
内訳：3回通し参加	…	17名、1回目のみ参加 … 11名
2回目（平成18年11月20日（月）～22日（水）実施）	……	42名
内訳：3回通し参加	…	17名、2回目のみ参加 … 25名
3回目（平成19年3月13日（火）～15日（木）実施）	……	53名
内訳：3回通し参加	…	17名、3回目のみ参加 … 28名

エ モニターツアー参加状況

1回目（平成18年10月22日（日）～24日（火）実施）	……	28名
内訳：3回通し参加	…	17名、1回目のみ参加 … 11名
2回目（平成18年11月20日（月）～22日（水）実施）	……	37名
内訳：3回通し参加	…	17名、2回目のみ参加 … 20名
3回目（平成19年3月13日（火）～15日（木）実施）	……	36名
内訳：3回通し参加	…	16名、3回目のみ参加 … 8名

(2) モニターツアーの実施

ア 1回目のモニターツアー行程

最
終
ご
案
内
書

For Your Travel & Life

日本旅行株式会社

JTB東北福島支店
 福島県福島市本町5-26
 〒960-8035
 TEL : 024(523)3314
 FAX : 024(522)2980

**いで湯とくだものの里ふくしま
援農体験モニターツアー**

旅行期間 2006年10月22日(日)～2006年10月24日(火)
2泊3日(旅館・ホテル 2泊、船・車中 泊)

日次	月日(曜)	行程	宿 泊 地	食事
1	10/22 (日)	<u>ご集合：荒川区役所荒川公園内 7:50(別紙地図をご参照下さい)</u> ※区役所内自転車置き場が狭いためおいでになる際は自転車をご利用にならないようご協力下さい。 8:00 荒川区役所・・・・・・(首都高・東北道)・・・・・・ 12:3014:45 ・福島市「エスポアール」及びその周辺(約70分) 「営農者から見た福島市」・ ※昼食及び平成12年新規就農者永山乃里江様による体験談講和。 お食事後、園場見学及び「アイスバー」農産物加工所及び直売所見学 エスポアール：斉藤024-567-3234 永山090-4555-8519 15:4516:30 ・・・・福島市民家園ボランティアガイドによる施設ご案内・・・ ※江戸時代中期から明治時代初期にかけての福島県北地方の民家を 中心に、幕末から明治初期にかけての福島有数の割烹旅館で世良修蔵が 仙台藩士により運行された場所といわれている「客自軒(かくじけん)」や国 指定重要文化財の芝居小屋「旧広瀬座」、商人宿、会津地方の民家などが 移築、復原されています。当時の生活用具なども展示され当時の生活をかい ま見ることができます。 17:30 ・・・・飯坂温泉＜泊＞ 夕食18:30～	飯坂温泉 松島屋旅館 024-542-3155	昼 夕
2	10/23 (月)	9:00 9:30 16:00 16:30 飯坂温泉・・・・・・福島市飯坂地区・・・・・・飯坂温泉＜泊＞ ※援農受入農家にて農業体験 ※弁当 玉萬 524-2442 11時松島屋 18:00～20:00 関係者との交流夕食会	飯坂温泉 松島屋旅館 024-542-3155	朝 弁 夕
3	10/24 (火)	9:00 9:30 10:30 11:00 12:00 飯坂温泉・・・・・・「すりかみ浄水場」・・・・・・「堰上川ダム」・・・・・・ ※福島市の防災体制をご見学いただきます。 12:15 13:15 13:45 14:15 ・・・・福島市茂庭出張所(昼食弁当)・・・・・・福島県観光物産館・・・・・・ ※アンケート回収及び ※福島県内の名産展示販売 震災パッケージご案内 ※P高野部長 525-4031 ※弁当玉萬 11時松島屋 19:00 ・・・・(東北道・首都高)・・・・・・荒川区役所(解散)		朝 弁

●記入例／JR・・・・ 航空機・・・・ 私鉄・・・・ バス・・・・ 船・・・・ ケーブルカー・・・・ ロープウェイ・・・・ 徒歩・・・・

●お願い／このご旅程は運輸機関のダイヤ改正及び各地の道路状況により多少時間が変更になる場合がございますのでお手数でも現地でも出発時間をご確認下さい。

イ 2回目のモニターツアー行程

最終のご案内

For Your Travel & Life

JTB東北福島支店
福島県福島市本町5-26
〒960-8035
TEL : 024(523)3314
FAX : 024(522)2980

いで湯とくだものの里ふくしま 援農体験モニターツアー

旅行期間 2006年11月20日(月)～2006年11月22日(水) 2泊3日(旅館・ホテル 2泊、船・車中 泊)

日次	月日(曜)	行程	宿泊地	食事
1	11/20 (月)	ご集合：荒川区役所荒川公園内 7:50(別紙地図をご参照下さい) ※区役所内自転車置き場が狭いためおいでになる際は自転車をご利用にならないようご協力下さい。 8:00 12:00～12:30 荒川区役所・・・・・・(首都高・東北道)・・・・・・四季の里 須藤陽子様による体験談講話 14:30～15:00 ・・・・・・須藤農園にて圃場見学・・・・・・ お食事後、圃場見学を行います。 15:30～16:00頃 ・・・・・・土湯温泉 観山荘にて 夕食時 民話茶話の会の福島民話を行います。 *震災パッケージ未加入の方は観山荘にてご案内致します。	土湯温泉 観山荘 024-595-2026	昼 夕
2	11/21 (火)	9:00 9:30 16:00 16:30 土湯温泉・・・・・・福島市飯坂地区・・・・・・土湯温泉<泊> ※援農受入農家にて農業体験 農作業①りんごの収穫補助 ②もも漬物加工体験 18:00～20:00 関係者との交流夕食会	土湯温泉 観山荘 024-595-2026	朝 弁 夕
3	11/22 (水)	9:00 9:30 10:30 10:45 11:15 土湯温泉・・・・・・福島競馬場・・・・・・古関裕而記念館・・・・・・ ※福島市の防災体制をご見学いただきます。 12:15 13:15 13:45 ・・・・・・保険センター・昼食・・・・・・コラッセ福島・・・・・・ ※貯水槽見学 アンケート回収 19:00 ・・・・・・(東北道・首都高)・・・・・・荒川区役所(解散)		朝 弁

●記入例／JR・・・・ 航空機・・・・ 私鉄・・・・ バス・・・・ 船・・・・ ケーブルカー・・・・ ロープウェイ・・・・ 徒歩・・・・

● お願い／このご旅程は運輸機関のダイヤ改正及び各地の道路状況により多少時間が変更になる場合がございますのでお手数でも現地での出発時間をご確認下さい。

*
当日の交通状況による時間帯、天候によりコース内容が変更になることもございますので予めご了承願います。

ウ 3回目のモニターツアー行程

最終行程表

いで湯とくだものの里ふくしま
援農体験モニターツアー

JTB東北福島支店
福島県福島市本町5-26
〒960-8035
TEL : 024 (523) 3314
FAX : 024 (522) 2980

旅行期間 2007年3月13日(火)～2007年3月15日(木) 2泊3日(旅館・ホテル 2泊、船・車中 泊)

日次	月日(曜)	行程	宿泊地	食事
1	3/13 (火)	ご集合：荒川区役所荒川公園内 7:50 ※区役所内自転車置き場が狭いためおいでになる際は自転車をご利用にならないようご協力下さい。 8:00 荒川区役所・・・(首都高・東北道)・・・二本松IC・・・ ・・・狼ヶ森集会所(自然郷おいがもり)立花正清 昼食 その後 体験談講話(ド田舎水原郷) 17:00 ・・・花の写真館・・・飯坂温泉 叶や *夕食前 震災疎開パッケージ説 明 夕食：18:30～	飯坂温泉 叶や 024-542-3341	昼 夕
2	3/14 (水)	9:00 9:30 16:00 16:30 飯坂温泉・・・モモの摘蕾・・・飯坂温泉 叶や ※援農受入農家にて農業体験 (お弁当) 18:00～20:00 関係者との交流夕食会	飯坂温泉 叶や 024-542-3341	朝 弁 夕
3	3/15 (木)	9:00 飯坂温泉・・・あぶくま親水公園・・・花見山・・・ ・・・昼食 割烹万松・・・お土産購入(コラッセ福島)・・・ アンケート回収 19:00 ・・・(東北道・首都高)・・・荒川区役所(解散)		朝 昼

●記入例/JR・・・航空機・・・私鉄・・・バス・・・船・・・ケーブルカー・・・ロープウェイ・・・徒歩・・・

●お願い/このご旅程は運輸機関のダイヤ改正及び各地の道路状況により多少時間が変更になる場合がございますのでお手数でも現地での出発時間をご確認下さい。

ご 案 内

＜ご準備いただくもの＞

- ※ 服装(農業体験時):長袖シャツ、長ズボン、長靴、帽子、雨具(カッパ)、トレーナー、薄手のジャンパー、タオル(手ぬぐい)。以下気になる方は・日焼け止め、虫除けスプレー
- ※ 作業用手袋はこちらで準備いたします。
- ※ その他は通常旅行時の服装・装備にてご参加下さい。アンケート記入用筆記用具、常備薬、保険証の写しなどもご準備下さい。

＜参考:福島市の週間天気予報 10月23日(月) 最高気温 17℃、最低気温 10℃＞

- ※ 少々の雨天でも農業体験は実施する予定です。雨具は必ずご準備の上ご参加下さい。

＜雨天(大雨)の場合＞

- ※ 福島市内施設にて農産物加工体験を実施いたします。

＜バス・宿泊施設について＞

- ※ 移動のバス車内は全席指定、禁煙車両にて運行させていただきます。
- ※ 宿泊施設部屋割りについて:ご夫婦・グループ参加の方を除き男女別相部屋利用にてご案内いたします。部屋割りは当日発表いたします。

＜アンケートについて＞

- ※ 初日にアンケート用紙をお配りいたします。最終日、昼食時に回収いたしますのでご協力お願いいたします。

＜地域通貨について＞

- ※ アンケート記入謝礼、及び農業体験の対価として地域通貨(計 4,000 円分)をお渡しいたします。この通貨はディスカバリー農産物加工所、宿泊旅館売店、福島県物産館にてご利用いただけます。500円券にてお渡しいたしますが施設によってお釣りは出ませんのでご注意ください。

＜当日の緊急連絡先＞

＜旅行請負業者・問合せ先＞

(株) J T B 東北福島支店 国土交通大臣登録旅行業第 1573 号

〒960-8035 福島県福島市本町 5-26

TEL: 024-523-3314 FAX: 024-522-2980

営業時間: 平日 9:30~17:30

オ 参考

(ア) 震災疎開パッケージ

今回、モニターツアー参加者に震災疎開パッケージを付与している。

【震災疎開パッケージ】

平素からの人・物・情報の備えが震災時の備えになるとの考えに基づいて、全国商店街震災対策連絡協議会が商品化している地震保険の一種。保証期間 1 年間の間に、地震や噴火、津波を原因とする震災が発生した場合、疎開先として協力を申し出た地域に行く交通費と滞在費が保証される。震災が 1 年間発生しない場合、翌年も更新加入すれば、疎開先からその地方の特産品が加入者に届けられる。

- ・ 加入費：年間 1 人 5,000 円（小学生以下は 3,000 円）
- ・ 疎開費用：中学生以上 1 人につき上限 30 万円（小学生以下上限 15 万円）を保証

(イ) ももりんポイントカード（地域通貨）

今回の社会実験では、アンケート記入の謝礼に 2,000 円分、援農作業の対価として 2,000 円分、合計 4,000 円分の地域通貨を参加者に付与している。今回特別に旅館内での各自の飲料の精算や土産品購入、福島県観光物産館（コラッセ福島）、四季の里、ディスカバリー農産物加工所での商品購入に利用した。

【ももりんポイントカード】

平成 9 年 9 月に福島市中心部の活性化を目的に導入された共通ポイントカードシステム。現在、福島市内 145 店舗が加盟している。100 円の買い物で 1 ポイントが付与され、400 ポイント貯まると満点カードとなり、以下、様々な特典として利用できる。

- ・ 加盟店での買い物券：500 円分の金券として加盟店全店で使用可能。
- ・ 銀行への預金：福島市内の東邦銀行・福島銀行・福島信用金庫各本支店で、500 円として預金が可能。
- ・ 交通費：福島交通・阿武隈急行電車の定期券・回数券・乗車券購入、福島市内のタクシー及び個人タクシーの支払いが可能。
- ・ イベントの参加パスポート：（株）福島まちづくりセンター主催のももりん祭りにおいて、カード提示によりイベントに参加ができたり、賞品が付与される等の特典がある。

(3) モニターツアーの様子

ア 1回目 平成 18 年 10 月 22 日（日）～24 日（火） リンゴの葉摘み体験

10 月 22 日、荒川区役所前を 8:00 に出発して福島市へ向かう。参加者は 28 名。車中にてアンケート用紙を配布し、旅行終了後アンケート記入を条件に地域通貨（ももりんカード 500 円×4 枚）2,000 円分を渡す。この地域通貨は今回特別に旅館内の各自の飲物やお土産品購入に使ったり、最後の福島県観光物産館（コラッセふくしま）でのお土産を購入する際に使うことができる。福島に到着後、まず始めに昼食場所「エスポアール」へ向かう。



このレストランでは自家栽培の 100%天日干しの低農薬自家米を使用しており、平成 12 年新規就農者永山乃里江氏とも交流がある店でもある。昼食後、永山氏の農業体験談をレストラン内で聞き、その後、永山氏の圃場を見学した。その後ディスカバリー農産物加工所と直売所に向かう。



その後 福島市民家園をボランティアガイドによる施設案内を受けた後、宿泊地である飯坂温泉の松島屋旅館に向かい夕食をとる。



10月23日、あいにく朝からの大雨により、屋外作業のメインのリンゴの葉摘み体験ができず、急遽予定を変更し、屋内作業でできるリンゴジャムの製造体験を午前中かけて行う。



午後は小雨になり、ようやくリンゴの葉摘み体験ができるようになる。

28名の参加者が6組の担当受け入れ農家の農園に向かい、それぞれリンゴの葉摘み体験を行った。農家により、それぞれ3～6名の参加者を受け入れた。雨も降っていたため、1～2時間程度しか作業ができなかった。終了後、受け入れ農家の方から地域通貨（ももりんカード500円×4枚）2,000円分を渡した。



この日の関係者との交流会は受け入れ農家の方々、福島市の関係者等も参加し、盛大に盛り上がった。



10月24日、すりかみ浄水場、摺上川ダムで、福島市の防災体制を視察した。



視察終了後、福島市茂庭出張所にて昼食、その後、アンケートの回収と震災疎開パッケージの案内を行う。その後、福島県観光物産館（コラッセふくしま）で、各自地域通貨を使ってお土産品等を購入した。

イ 2回目 平成 18 年 11 月 20 日（月）～22 日（水）

リンゴの収穫補助またはモモの漬け物加工体験

11 月 20 日、荒川区役所を 8:00 に出発して福島市へ向かう。

参加者は合計で 37 名。福島西 IC で降り四季の里の昼食場所、いなか亭に向かう。いなか亭は福島市で生産された食材を使い、「安心・安全・新鮮」にこだわっており、福島の風土に育まれた食文化を守り「農」を通じたメッセージを来園者に発信することをコンセプトにしている。レストランいなか亭ランチセットで、100%地元産のそば粉を使ったそばを堪能した。

食後、今回も特別に地域通貨を使えるようにした四季の里で、地元産の野菜や果物等を購入する参加者もいた。



その後、平成 16 年新規就農者須藤陽子氏の圃場へ向かう。

到着後、須藤氏の自宅で農業体験の講話を聞く。講話終了後、圃場を見学した。（自宅の目の前の土地を購入して圃場になっている）



その後、白鳥の飛来地へ向かい、全員で白鳥に餌付けを行う。東京ではなかなか見られない光景の為、参加者からは好評であった。



宿泊所の観山荘に到着。この日は終日雨だった。到着後、各自部屋で休憩を取る。
その後、林会長が社会実験参加者震災疎開パッケージを説明し、加入手続きを行う。



夕食前に、福島民話茶屋の会の渡部八重子氏による福島の民話を楽しんだ。



11月21日、これまでは雨に見舞われていたが、この日は晴天となり、農作業体験が予定通り行われた。リンゴの収穫補助に28名、モモの漬け物加工体験に9名が参加した。四季の里の産品室にてJA新ふくしま女性部吾妻支部の氏家氏が中心となり、数名のスタッフの指導の下、モモの漬け物加工体験を行った。



リンゴの収穫補助（28名）は受け入れ農家7組の農場へそれぞれ分かれた。受け入れ人数は担当農家によって異なり、2～6名に分かれて体験を行った。各々真剣に取り組んでいた。



農作業体験終了後、受け入れ農家（リンゴの収穫補助）、JA新ふくしま女性部（モモの漬け物加工体験）の方から地域通貨2,000円分を渡した。

この日の関係者との交流会は受け入れ農家の方々、福島市の関係者等も参加した。会場ではモモの漬け物等の商品の販売を行ったりと、盛大に盛り上がった。



11月23日、観山荘から福島競馬場へ向かう。ここで災害時貯水槽、パドック、ウィナーズサークルの視察を行い、その後、福島市大町出身の有名作曲家、古関裕而記念館を見学した。



その後、防災時の貯水槽がある保険福祉センターを視察後、最上階で昼食（弁当）を取った。昼食後、参加者全員からアンケートを回収した。最後に福島県物産館（コラッセふくしま）で、各自地域通貨を使ってお土産品等を購入した。



ウ 3回目 平成19年3月13日（火）～15日（木） モモの摘蕾体験

3月13日、荒川区役所を8:00に出発して福島市へ向かう。当日1名の欠員が出て参加者は36名。バス車中にてモニターツアーのアンケートをお渡しして、二本松ICで降り、昼食場所の「ど田舎水原郷」に向かう。昼食は地区オリジナルの藤八そばと天ぷら。食後、福島市松川町水原地区でグリーンツーリズムに取り組む「ど田舎水原郷」の立花正清会長から同地区の概要や水原郷設立の経緯などについて説明を受けたあと水原地区を散策する。



その後、福島市写真美術館通称「花の写真館」を見学し、今回の宿泊施設の叶やに早目の到着となった。

ホテル内にて3回目参加者に対して震災疎開パッケージの説明を叶や大宮常務から行い加入する。



飯坂観光協会会長（叶や大宮社長）の挨拶の後、夕食会を行う。



3月14日、雪はなく天気は晴れているものの冬の寒さが身にしみる1日。
今回の受入農家7組。受入人数は担当農家によって異なるが4名～7名となった。
作業内容がモモの摘蕾体験ということもあり、滑り止め用の本格的な軍手を着用して
の作業だった。寒さが身にしみる1日であったが各自真剣になり体験を行う。
終了後、地域通貨券2,000円分を受け取る。



その後宿に戻り、この日は受入農家の方を囲んでの関係者との交流会。参加者の中には今回自分が摘蕾したのが無事モモに出来るのかを改めて見に来たいという声もあがり盛り上がる。



3月15日、叶やから親水公園に向かい、参加者に食パンを渡し、白鳥の餌付けを行う。かなりの数の白鳥に驚かれる。



この後、花見山へ移動する。花見山山頂まで行き、帰りに花見山の所有者である阿部一郎様の自宅に向かい、講話をいただく。ここで急遽、瀬戸福島市長が飛び入りで挨拶されたこともあり、参加者の皆様は大変驚かれると同時に満足される。



昼食場所の割烹料理の万松で昼食をとりここでアンケートを全員回収。最後に福島県物産館（コラッセふくしま）にて最後の地域通貨を使い、土産購入をされる。



買物終了後、帰路荒川区役所へ向かいバスは出発して無事終了となる。

(4) アンケート調査結果

ア モニターツアー参加者アンケート調査結果

(ア) 対象者：モニターツアー参加者

(イ) ねらい

今回のテーマに関心の高い都市住民が、疎開先を前提として援農体験をすることにより、以下の点を検証、分析する。

- ・ モニターツアーに参加した都市住民の福島市に対する希望及び意識確認
- ・ 都市住民の長期滞在、援農、災害時の疎開先としての需要分析

(ウ) コンセプト

- ① アンケート回答者属性
- ② モニターツアー参加理由
- ③ モニターツアーの評価（満足度、内容評価、継続可能性評価等）
- ④ 福島市と荒川区の交流についての認知度
- ⑤ 援農についての興味度及び認知度
- ⑥ 援農についての評価（内容評価、継続可能性評価等）
- ⑦ 震災疎開パッケージの訴求についての評価（本事業との関連性評価、内容評価、継続可能性評価）
- ⑧ 地域通貨についての満足度評価
- ⑨ 福島市の観光についての認知度評価
- ⑩ 自由記入による事業評価（分析想定は以下の項目）
 - ・ 観光に関するもの
 - ・ 援農又は農業体験に関するもの
 - ・ 長期滞在に関するもの
 - ・ 災害時疎開又は震災疎開パッケージに関するもの
 - ・ その他

(エ) モニターツアー参加者アンケート集計結果

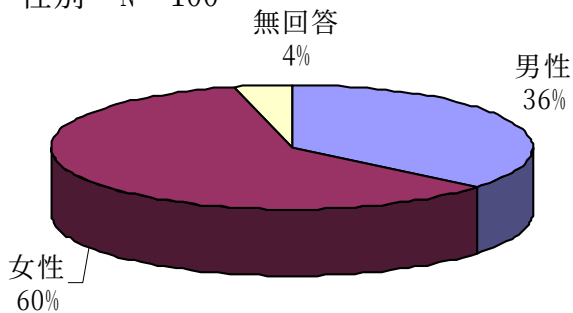
サンプル数 100 人

- ・ 1回目 (平成 18 年 10 月 22 日～24 日) : 27 人
- ・ 2回目 (平成 18 年 11 月 20 日～22 日) : 37 人
- ・ 3回目 (平成 19 年 3 月 13 日～15 日) : 36 人

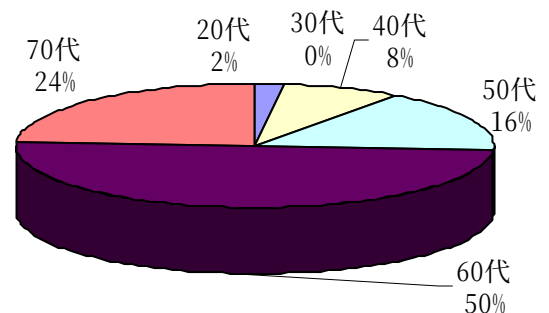
①参加者基礎情報

参加者は女性が 6 割であり、60 代以上が 7 割以上を占めている。福島市への来訪回数は 4 回目以上が 55%である。ツアー参加理由は「援農への興味」が 8 割弱である。ツアーリピーターが 6 割を占めている。

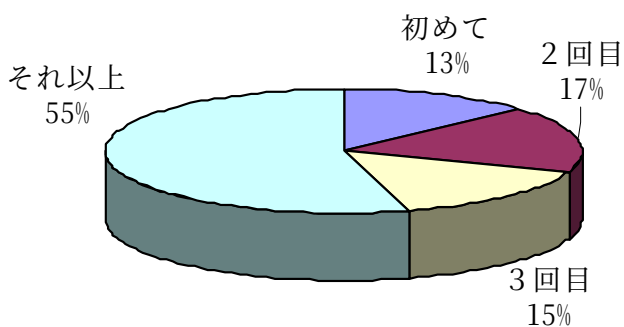
・ 性別 N=100



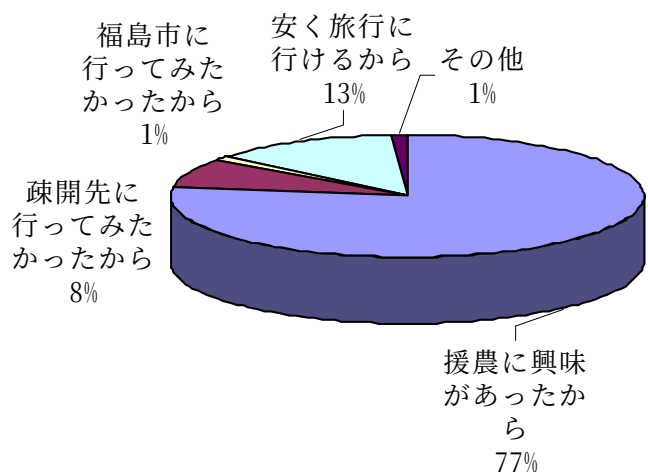
・ 年代 N=64



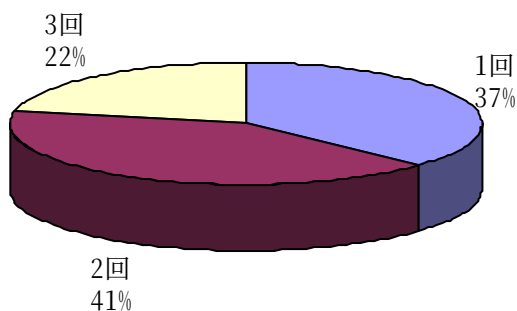
・ 福島市への来訪回数 N=100



・ 参加理由 N=93



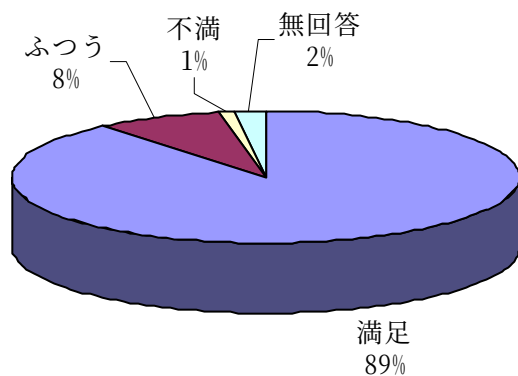
・ モニターツアー参加回数 N=100



②モニターツアー全体について

ツアー全体についてはほぼ 90%が満足と答えている。特に農作業の満足度が高い。宿に関しては、設備の状況やホスピタリティの面での不満が出ているが、宿泊場所は宿を希望する方が 52%と多い。ツアー形式での訪問を希望する方が 60%と多く、参加費は 3 万円以下と格安での滞在を希望している。今回、農作業時の昼食は弁当を用意したが、ツアー形式を取らない場合、食事の提供については地域内の協力を検討する必要がある（ワークショップ内容を参照）。

【モニターツアー全体の満足度】 N =99

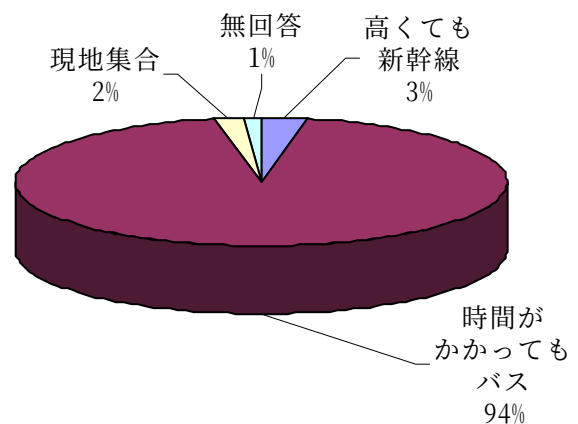


(理由)

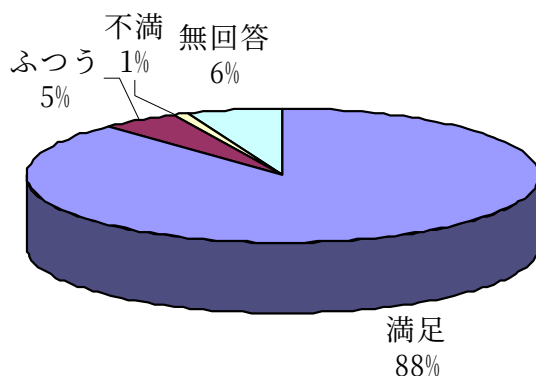
満足：もっと農作業が多くてもよかった

不満：もう少し来客待遇でなくてよい

【交通手段の希望】 N =100



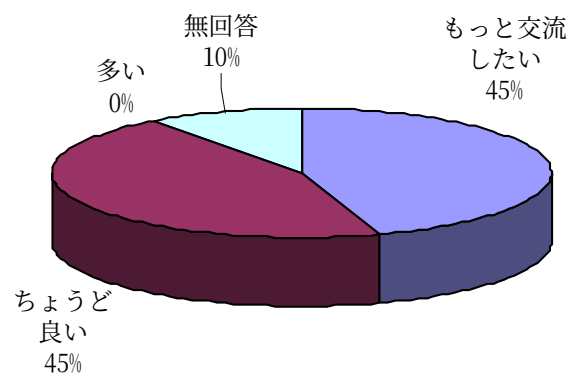
【交流の満足度】 N=100



(理由)

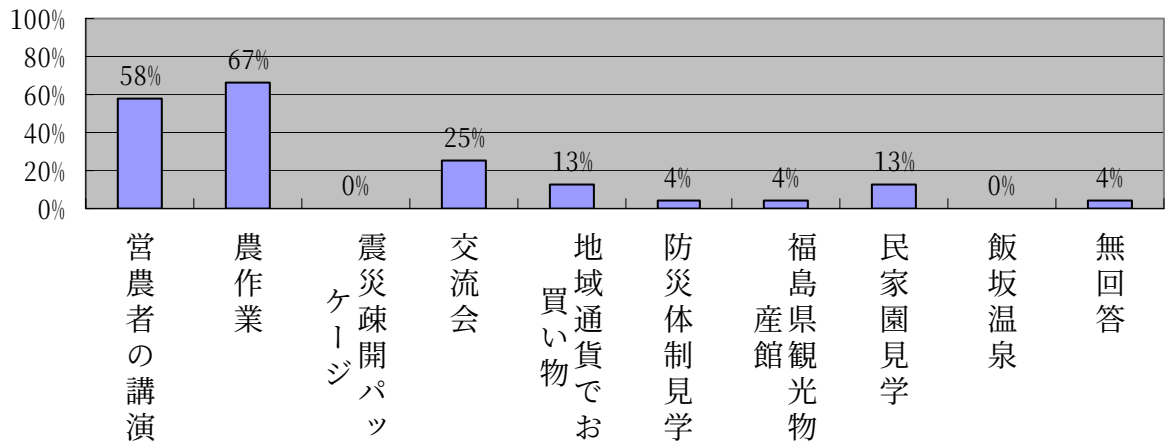
満足：とても穏やかで親切でした。

【交流の程度】 N=100

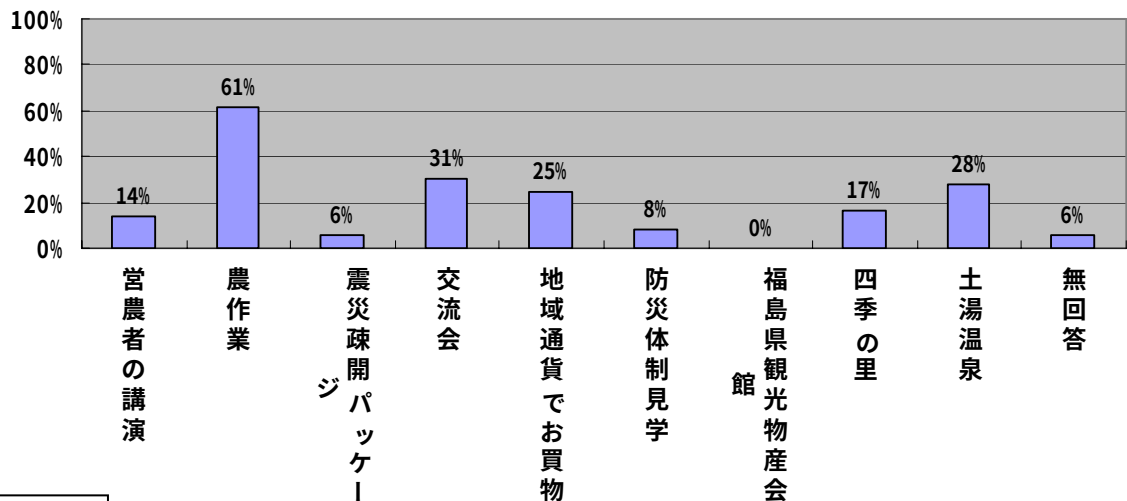


【モニターツアー内容でよかったもの】

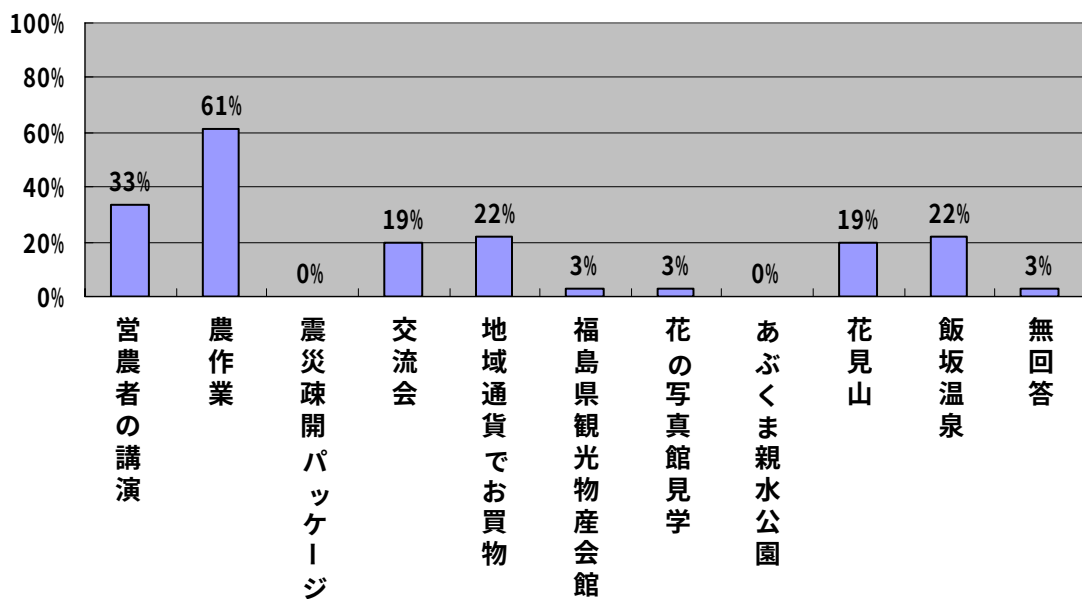
1回目 N=24



2回目 N=36



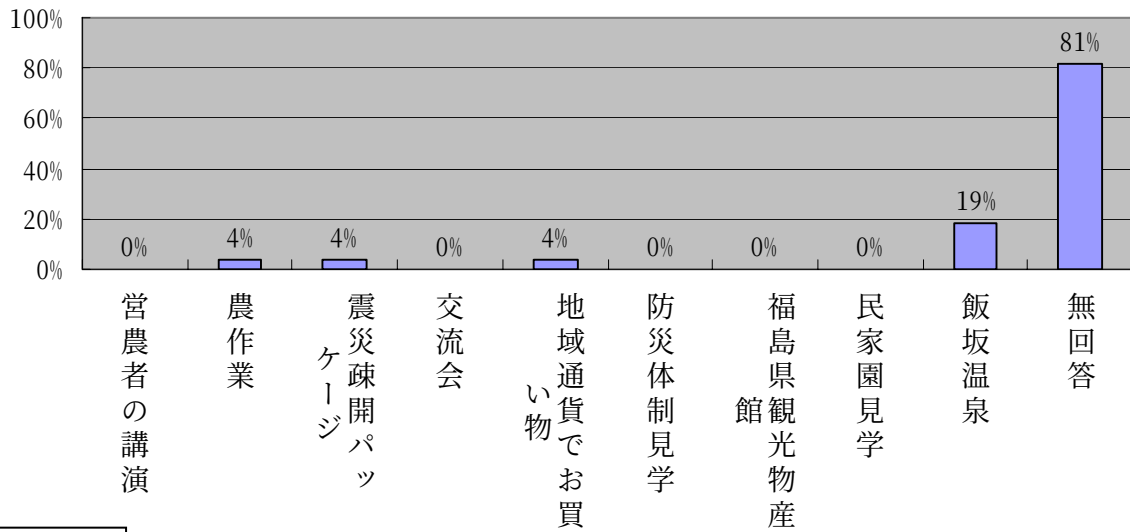
3回目 N=36



【モニターツアー内容で悪かったもの】

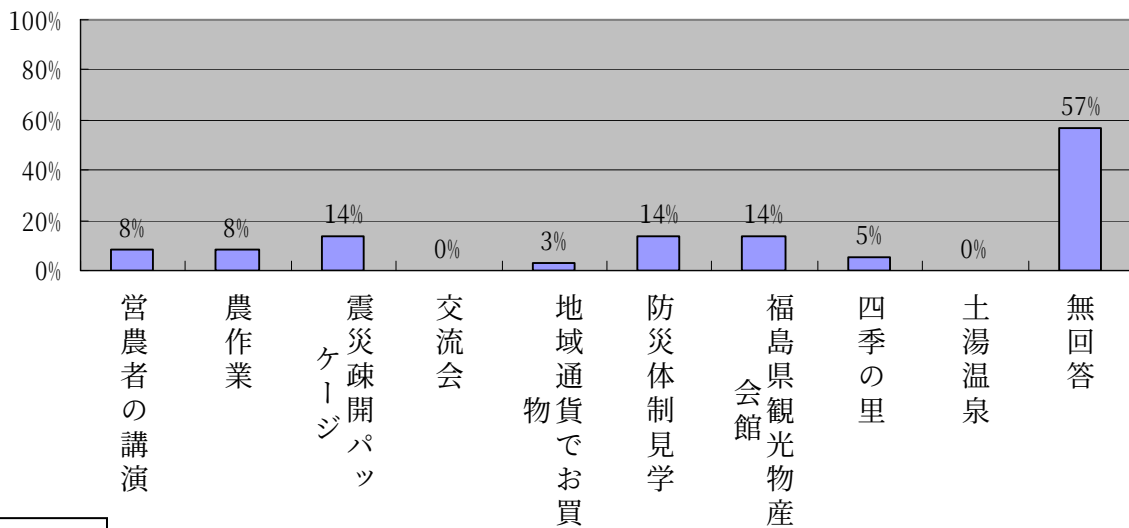
1 回目

N =27



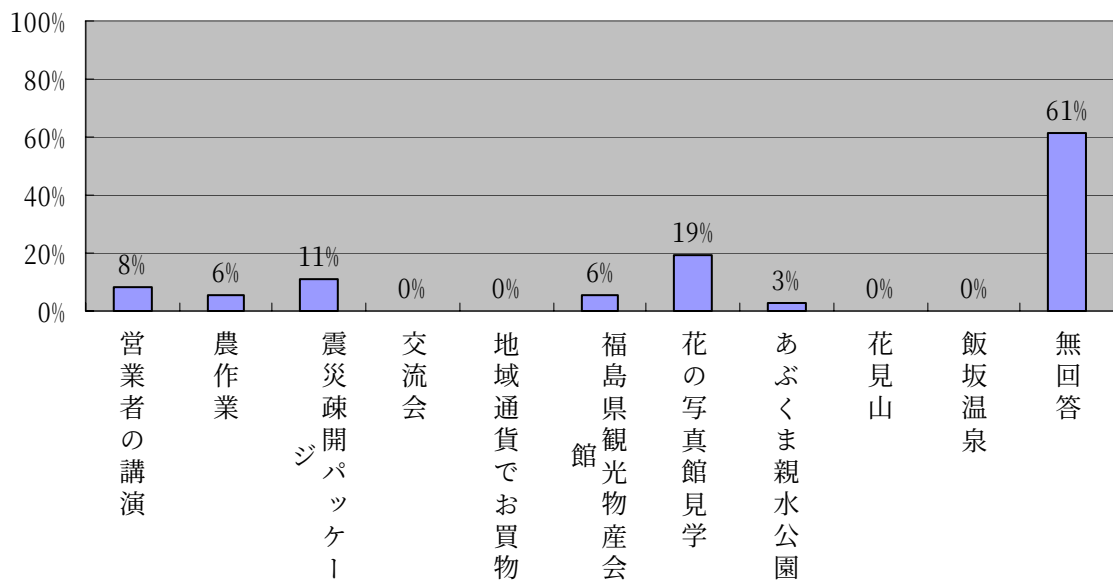
2 回目

N =37

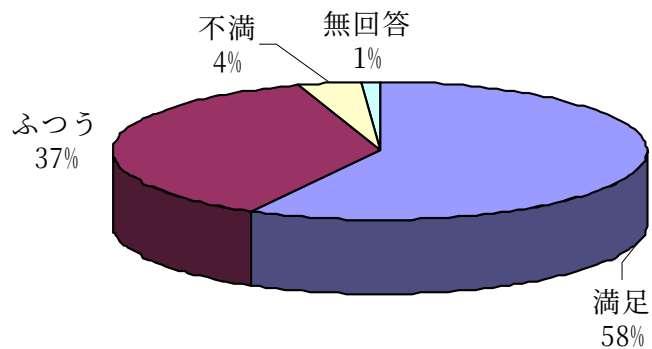


3 回目

N =36



【昼食（援農作業時の弁当）の評価】 N =100



(理由)

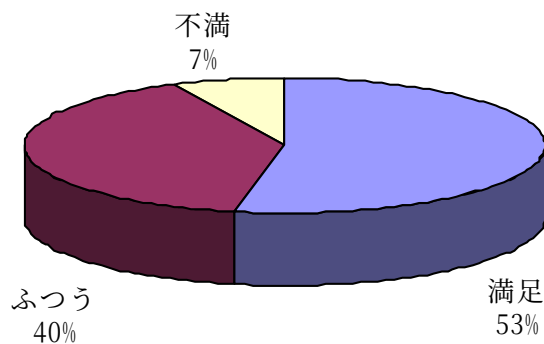
満足：少し量が多かった。

普通：まあまあだった。

不満：弁当の内容がよくない。

【宿泊施設について】

・ 宿泊施設の対応 N =100



(理由)

満足

- ・ かなり努力した様子が伝わる。

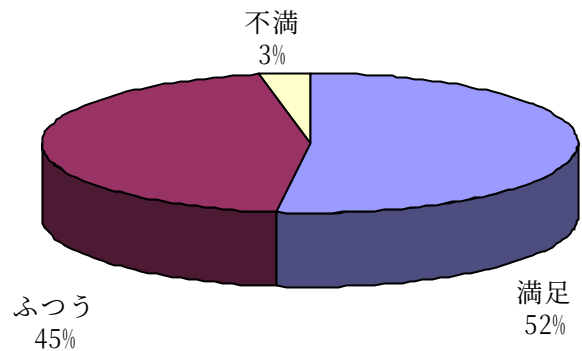
普通

- ・ 風呂の水の出が悪い。洗い場が少ない。
- ・ 食事会場の人手不足

不満

- ・ 水、湯の出が悪い。
- ・ 2日目も同じ浴衣のままだった。
- ・ トイレが冷たい

・ 旅館の食事の評価 N =99



(理由)

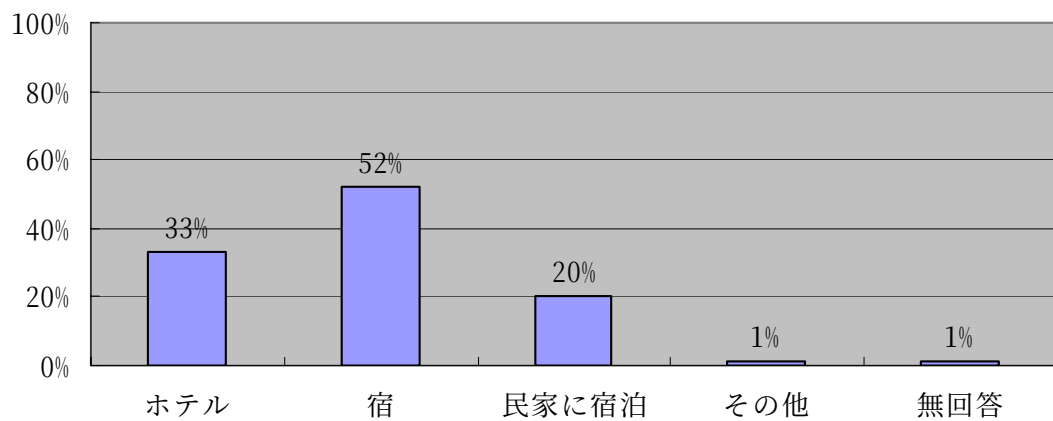
普通

- ・ 2名での接待は人手不足
- ・ 味付けが濃い。

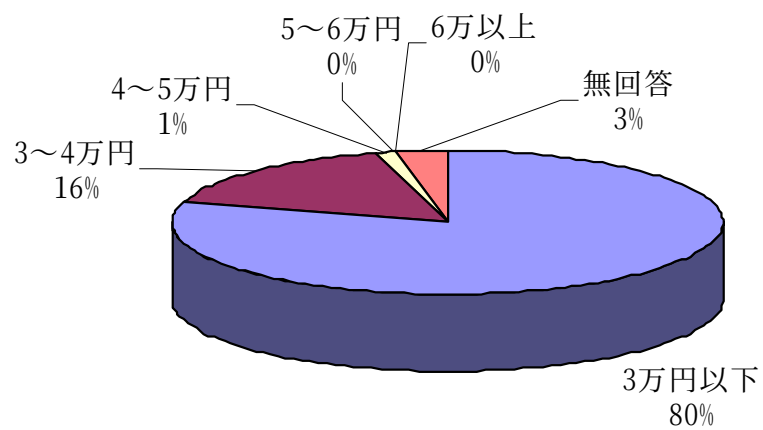
不満

- ・ 1日目は口に合わず、2日目は美味しかった。
- ・ もっと地のものが欲しい。

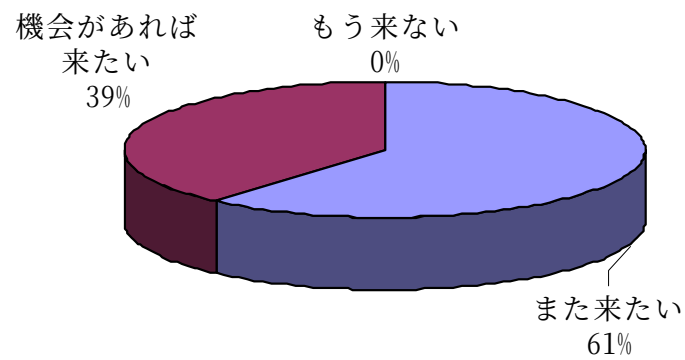
【宿泊場所の希望】 N=100、複数回答



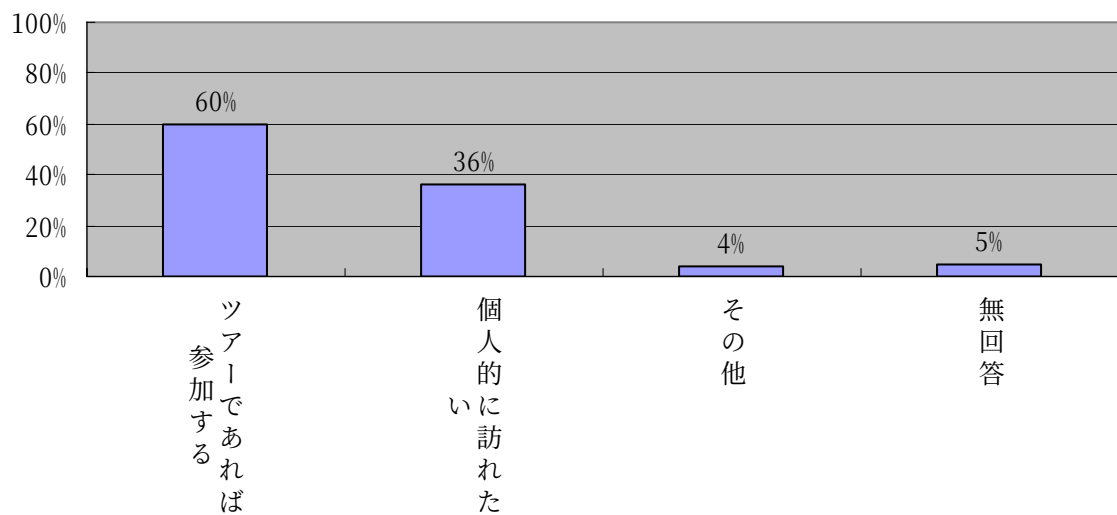
【ツアー金額の妥当性】 N=98



【再訪の意向】 N=100



【訪問形式】 N=100、複数回答



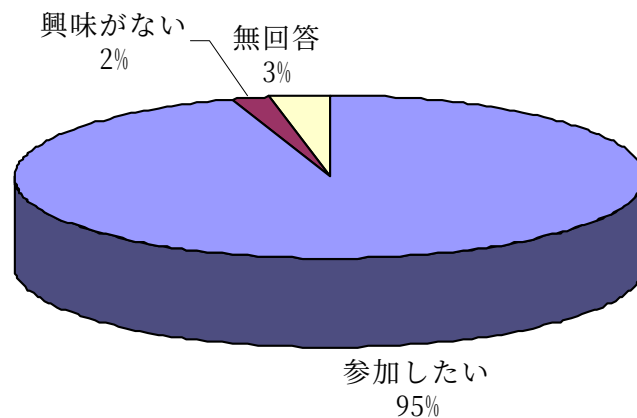
その他

- ・機会があればいつでも
- ・特別イベントがあるとき
- ・個人でもツアーでも機会があれば行きたい

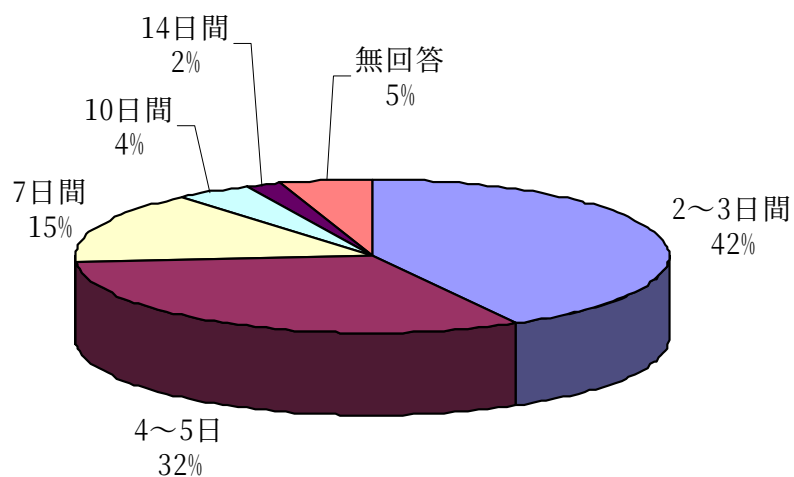
③滞在型ツアーへの関心

滞在型ツアーへの参加意欲は95%と高い。滞在日数は2～3日が42%と高くなっているが、1週間以上の希望もあり、幅広い需要が見込まれる。

【滞在型ツアーへの参加の意向】 N=100



【滞在希望日数】 N=100



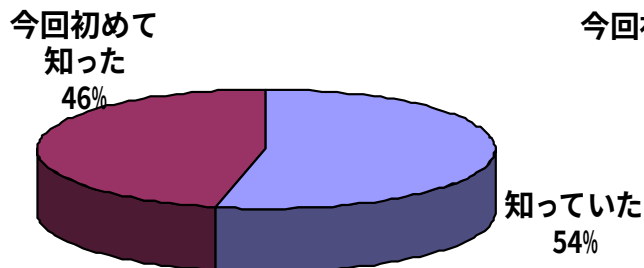
意見

- ・ 3日間：観光ではなく農家の仕事として参加したい。
- ・ 5日間：往復に2日間取られるので、3日分は十分に楽しめる。
滞在してみたいが、現状では無理。

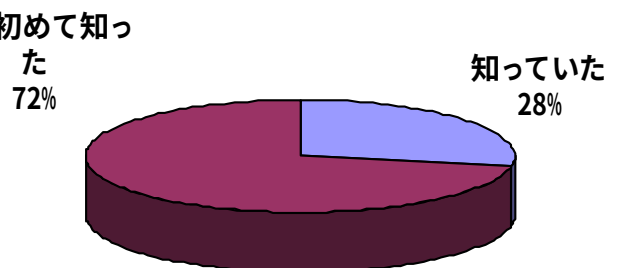
④福島市と荒川区の交流の認知度

友好都市関係を知っている方が5割強に対し、防災協定の認知度は低い。

【友好都市の認知度】 N=54



【防災協定の認知度】 N=54

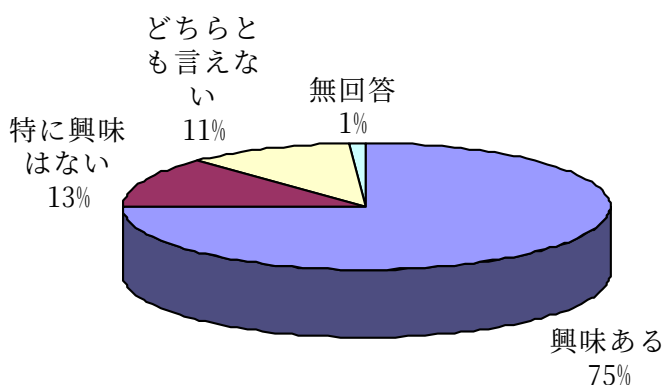


※複数参加者は1回目の参加時のみ集計

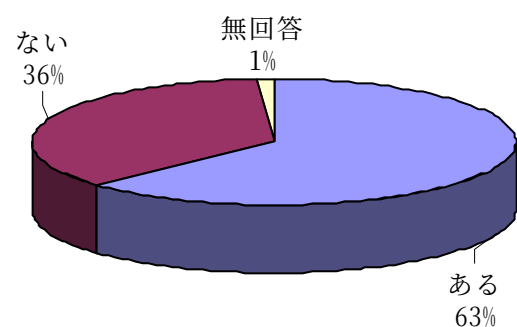
⑤援農について

農業に興味を持っている方は75%と多い。農業経験は、1日体験レベルの内容から長年家庭菜園に取り組んでいる方等経験日数に差はあるが、経験者は63%と多い。農作業内容の感想は「楽しかった」が88%と多い。作業内容、指導についても満足度は高く、適度であったと評価は高い。援農の対価を地域通貨で支払われることに関しては、80%が「よい」と答えている。妥当だと思う対価金額は、設定に困る方も多く、具体的金額では0円～1万円と意識の差が見受けられる。

【農業への興味】 N=99



【農業経験】 N=100

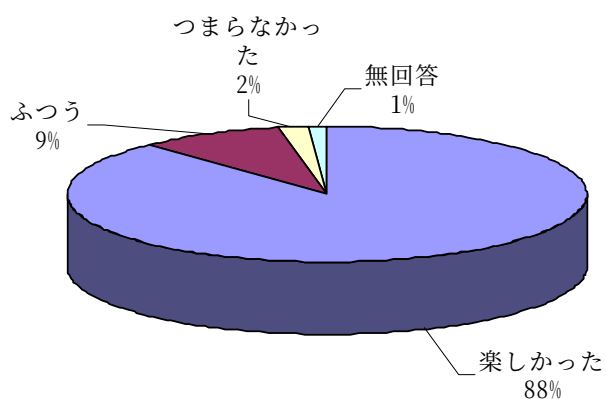


【(経験者) 農作業経験内容、日数】

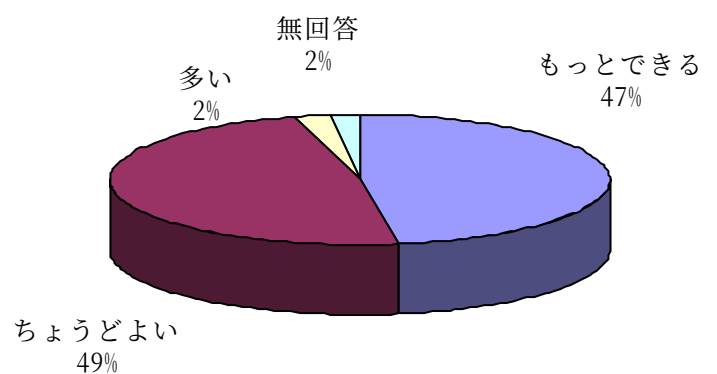
作業内容	日数
リンゴの葉つみ	1 日
リンゴ	1 日
リンゴの葉摘み	1 日
米作り	1 日
前回のリンゴ収穫と箱詰	1 日
リンゴ ・ スイカ ・ いちじく	1 泊 2 日
葉摘み作業	2 日
田植え	2 日
リンゴの葉摘み、収穫	2 日
葉摘み、摘らい	2 日
にんじん、リンゴ、スイカ	2 日
スイカ、リンゴ	2 泊 3 日
ブロッコリー、トマトの収穫	3 日
リンゴ葉摘み、リンゴ収穫、モモの摘蕾	3 日
モモ漬、モモの摘蕾、リンゴ葉摘み	3 日
田植えの手助で実体験はない（秋田にて）	3～4 日
梅・みかん収穫	7 日
北海道で酪農	7 日間
リンゴ摘果、大根引き	10 日
網を借りて作物を作っていた（千葉県柏市で）。生協で数回あり。	日帰りから最高で 10 日程
果樹、野菜、稲刈り	12、13 日
土起こし、肥料	50 日位
米作で代かきから脱穀まで、間伐、植樹	年間 50 日
畑	週 1 日～2 日
戦後、家の周囲で各種野菜を作る	2 年
戦中の稲作等	2 年
家庭菜園を 30 年前に経験	2 年
戦後、家の周りでいろいろな野菜、麦を作る。	2 年
家庭菜園を 50 坪位、今から 35 年前	2 年位
戦後、家の周りで、麦、野菜、10 種類	2 年位
田植え、取込み、茶の種まき、麦踏み、刈込み	3 年位
家庭菜園	3 年
農作業 米・野菜作り	5 年

野菜全般	5 年
稲刈り	8 年
家庭菜園で野菜を栽培したこと	よく覚えていない
リンゴの葉つみ	
区民農園を借りている。	
実家が農家だから	
畑を少し作っている	
葉摘み・農園	
今回のリンゴ体験です	
田植え・ビオトープ・農道整備	
田植え	
子どもの頃	
リンゴ収穫	
今回 3 回参加	
荒川区民農園を借りて作業している	
小さな土地を借りて家庭菜園程度	
リンゴ収穫	
畑を借りて作物を作っていた	
家庭菜園	

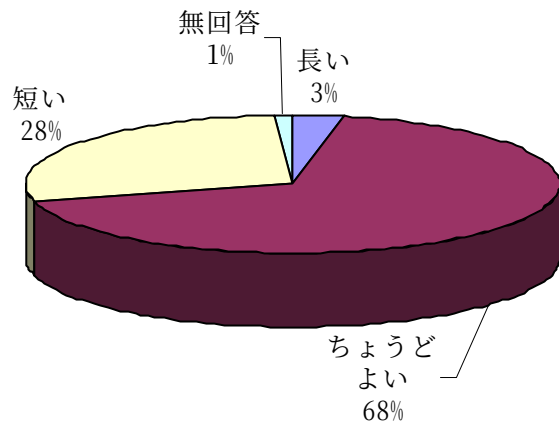
【作業内容の感想】 N=100



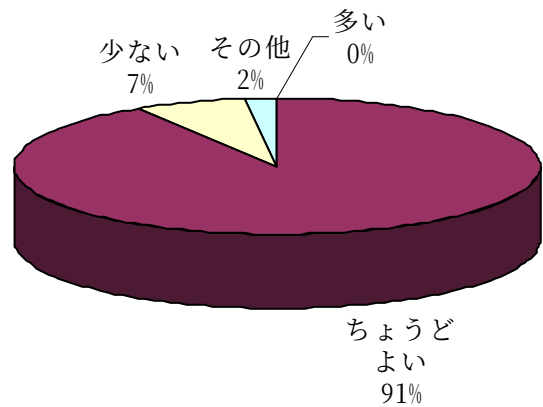
【作業量】 N=99



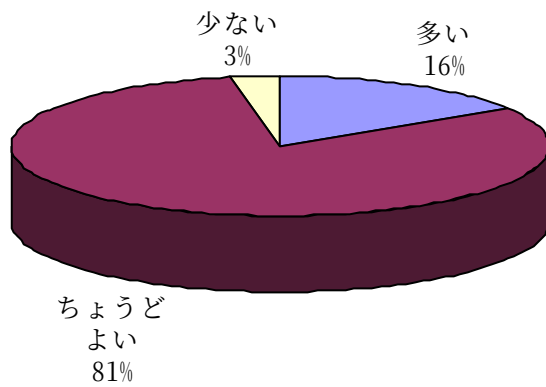
【作業時間】 N=100



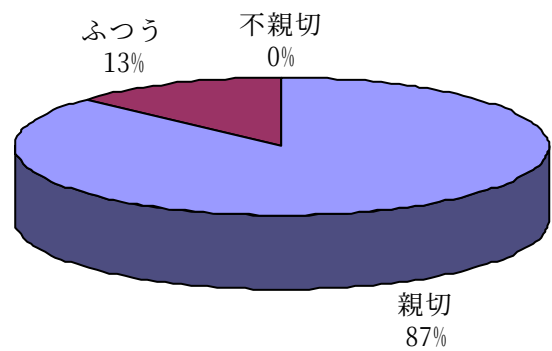
【作業人数】 N=100



【農作業用の個人の準備物の量】 N=100

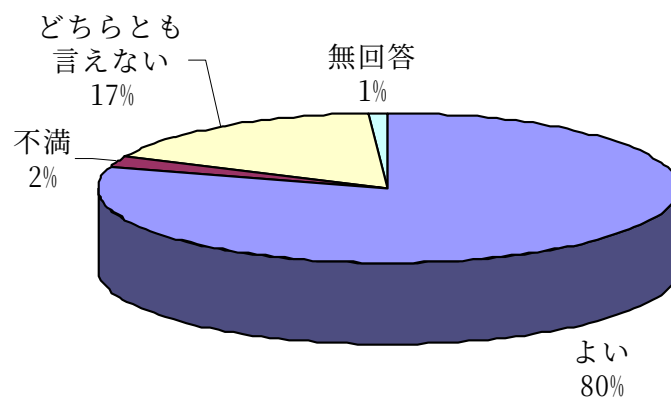


【農作業の指導】 N=100

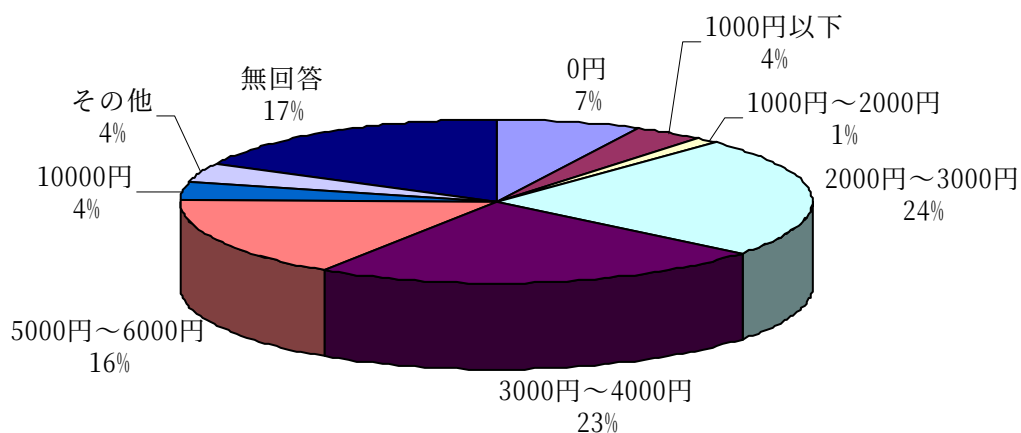


【援農の対価】

・ 対価を地域通貨で受け取ることについて N=99



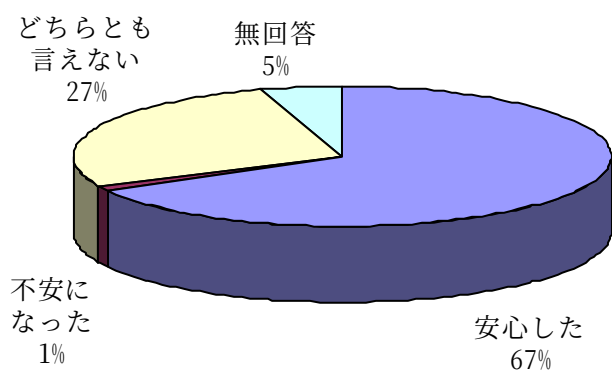
- ・ 1日の援農に対しての妥当な対価 N=100



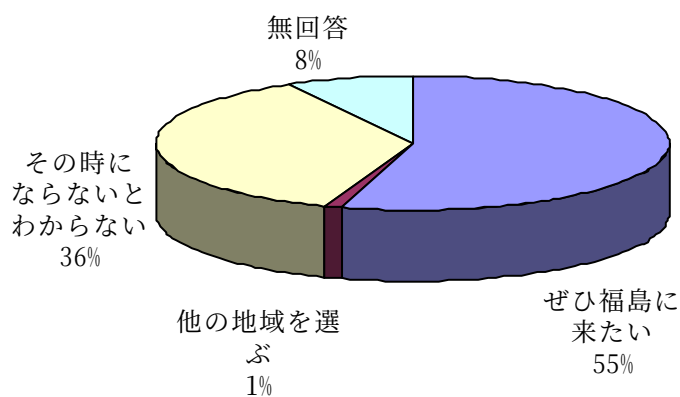
⑥震災疎開パッケージについて

交流を持つことが安心感につながっている。疎開先として福島市を選ぶと答えた方も6割弱と多かった。震災疎開パッケージについては、特産品の送付についての満足度が高かった。

【震災前に疎開先を訪れることで
安心感につながったか】 N=100



【どこを疎開地を選ぶか】 N=100

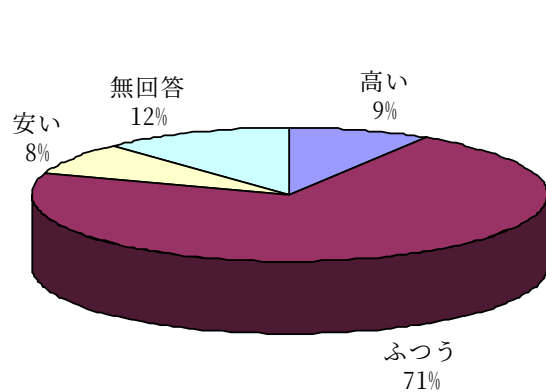


(理由)

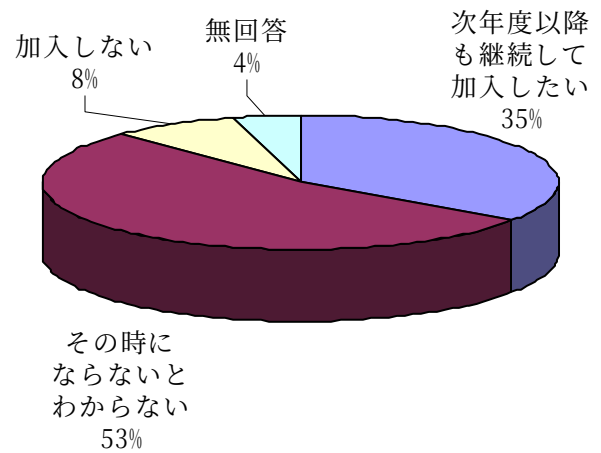
福島市に来たい：交通が可能なら

わからない：長野県にも疎開候補地がある

【震災疎開パッケージの金額
（年間 5,000 円）について】 N=100

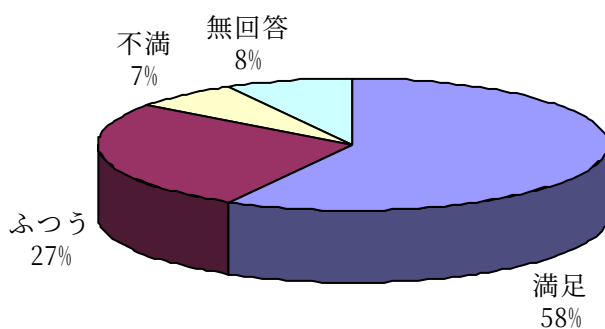


【震災疎開パッケージの継続加入】 N=98

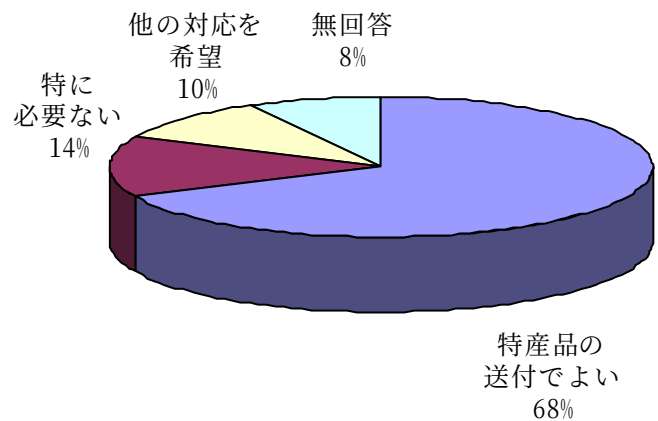


【保証期間 1 年間の間に震災が発生しなかった場合】

・（更新加入で）特産品 3,000 円分が
送られることの評価 N=100



・震災が起こらなかった場合に
希望する対応 N=100



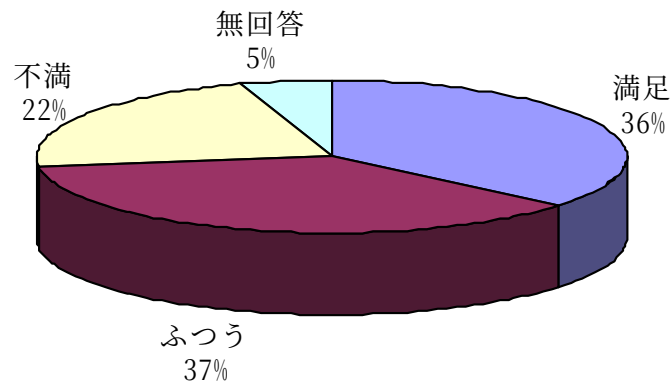
他の対応の具体案

- ・温泉招待
- ・通常料金より値引き
- ・年額 1000～2000 円で掛け捨て

⑦地域通貨（ももりんポイントカード）について

地域通貨を利用すること自体の評価は高いものの、利用できる場所が少ないとの不満も見られた。

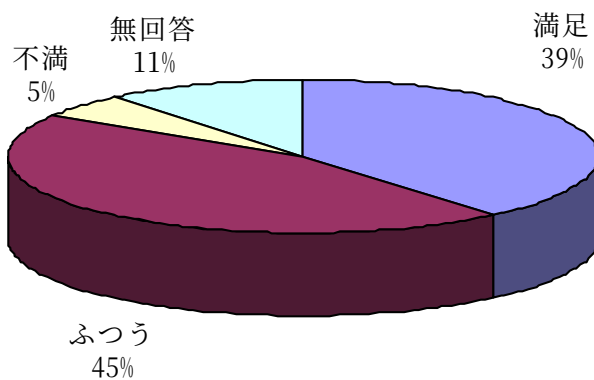
【利用可能な場所の満足度】 N=100



（不満理由）

- ・使える場所が少ない
- ・旅館の土産品が不足、不満

【使用可能な内容】 N=100



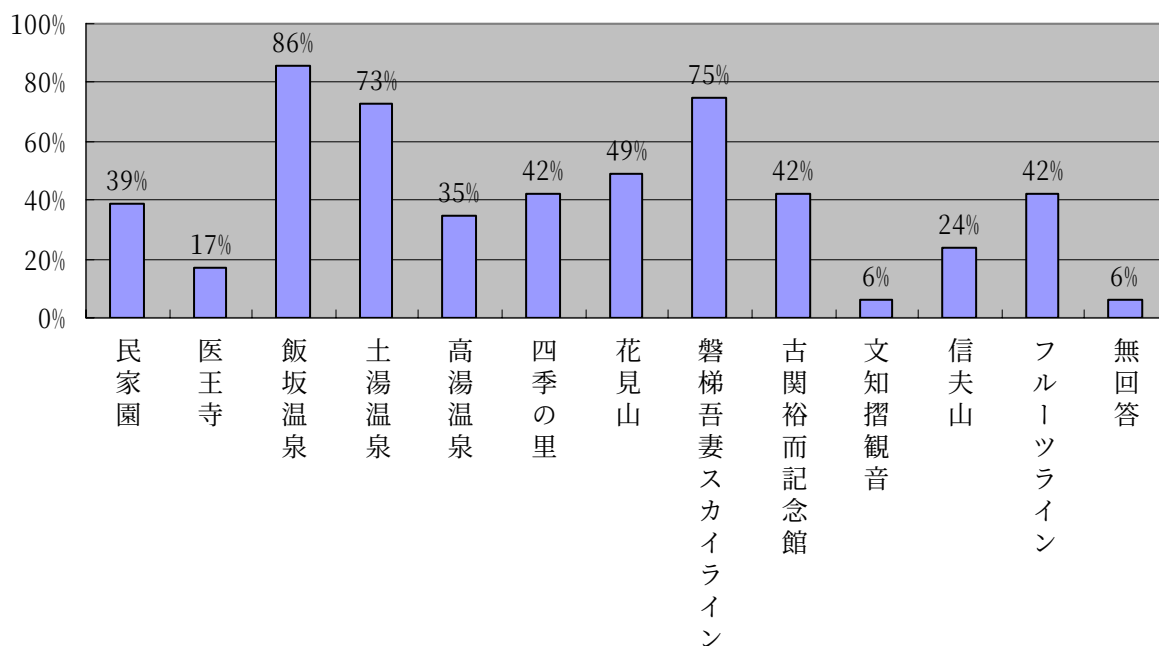
（意見）

- ・四季の里ならどこでも使えるようにしてほしい。
- ・つり銭も出してほしい。

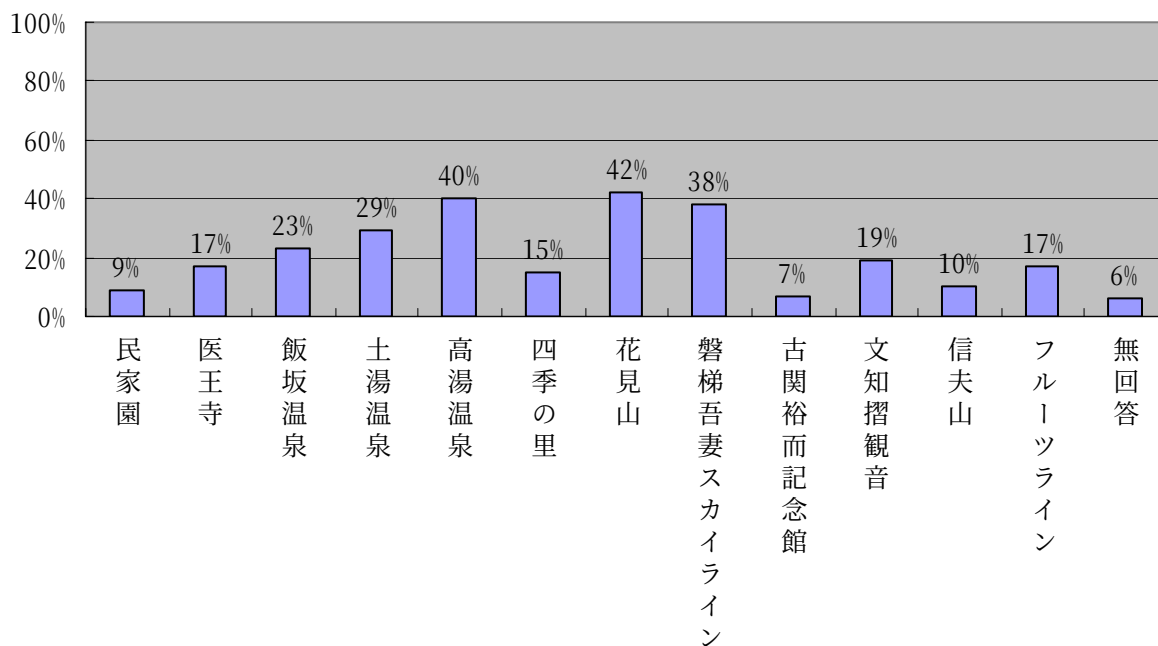
⑧福島市の観光について

行ってみたい場所は、「花見山」や今回ツアーで訪問していない「高湯温泉」の人気の比較的高い。福島市の良さを評価する声が多いものの、PR不足を指摘している方が多い。

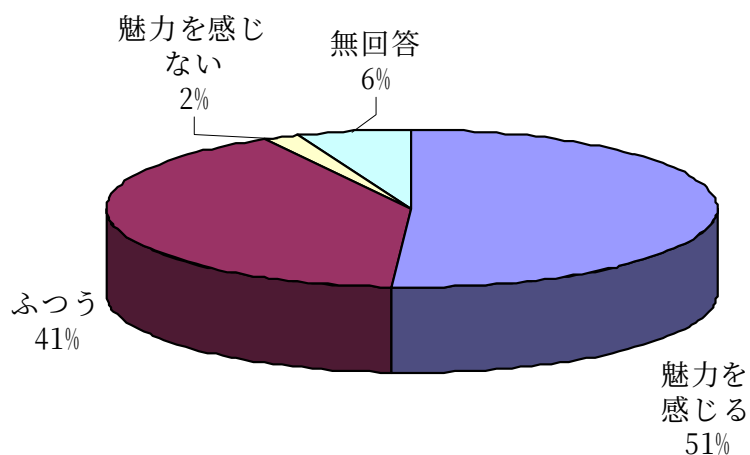
【福島市の観光地で知っている場所】 N=100



【福島市の観光地で行ってみたい場所】 N=100



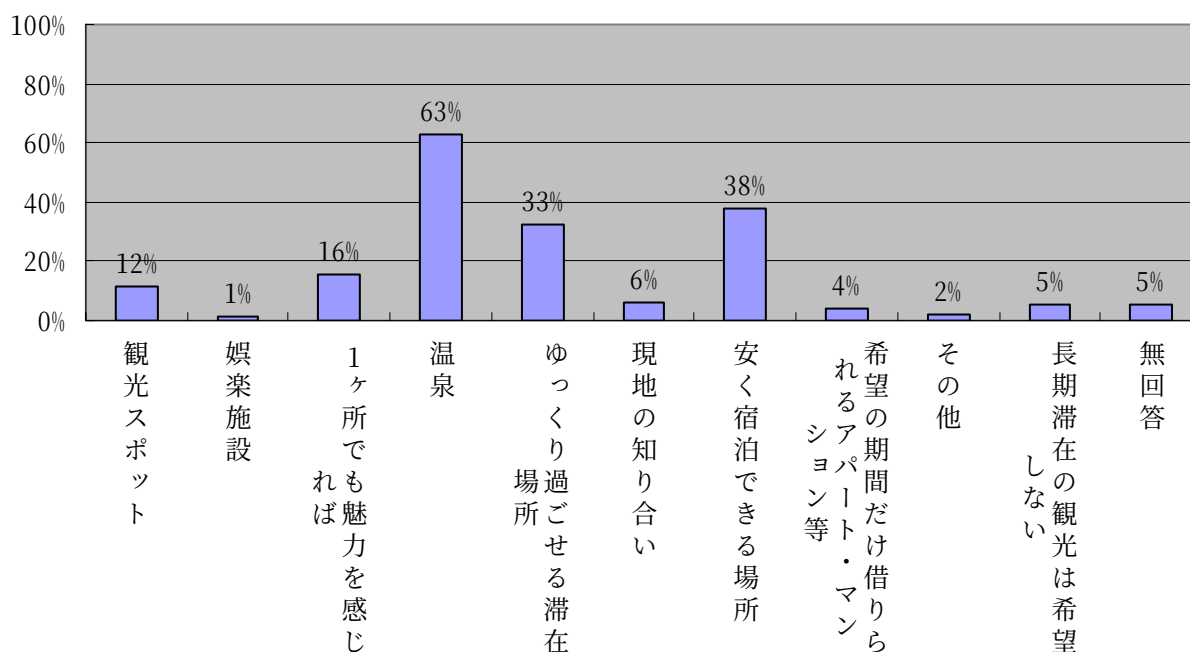
【旅行先、滞在先として福島市に魅力を感じるか】 N=100



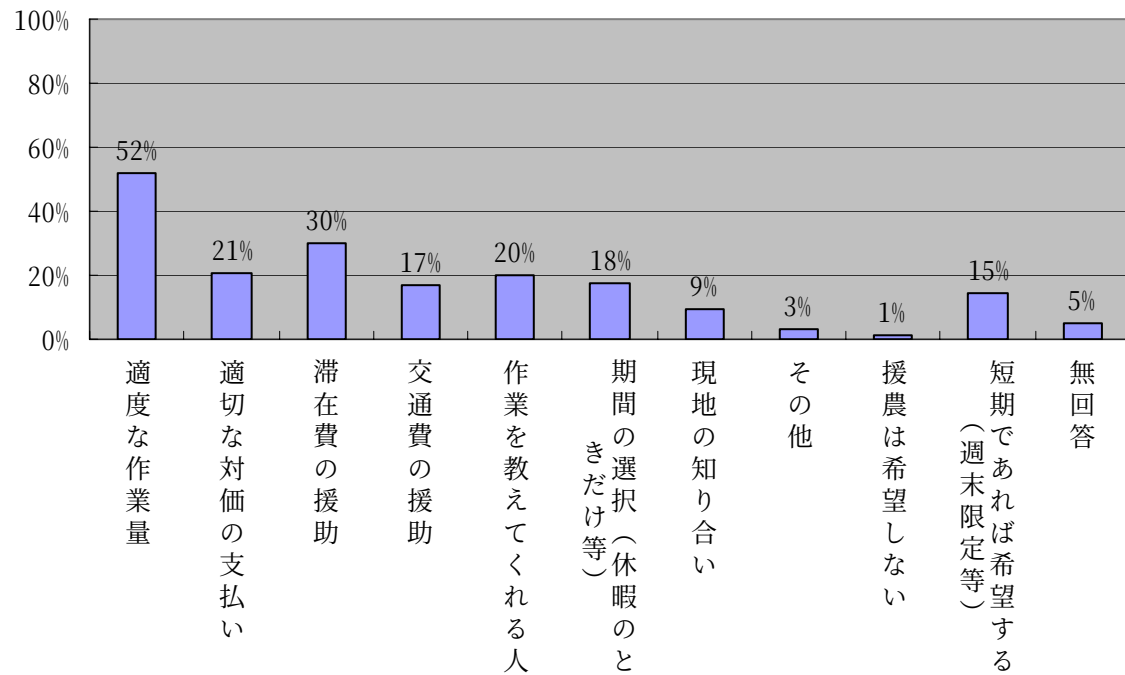
⑨長期滞在について

観光での長期滞在に必要なことには「温泉」「安く宿泊できる場所」、援農では「適度な作業量」「滞在費の援助」、災害時では「家族で独立して住める住居」「滞在費の援助」が上位に挙げられている。いずれの場合も、長期滞在する上では、滞在費が課題となっている。

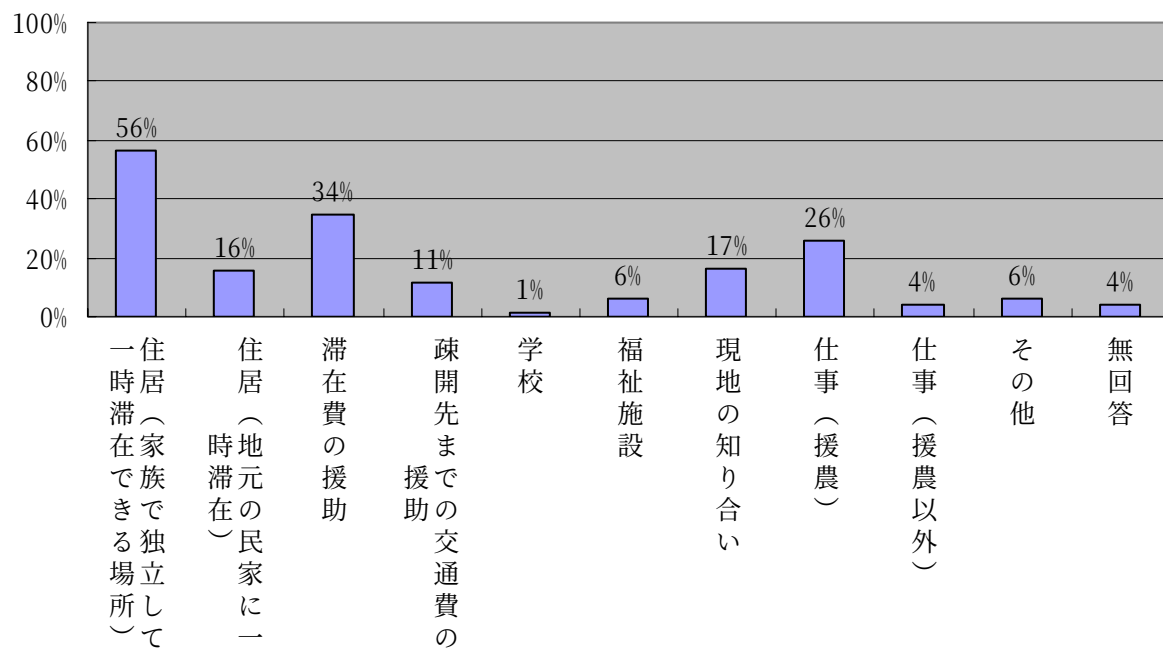
【観光で長期滞在する場合に必要なこと】 N=95



【援農で長期滞在する場合に必要なこと】 N=96



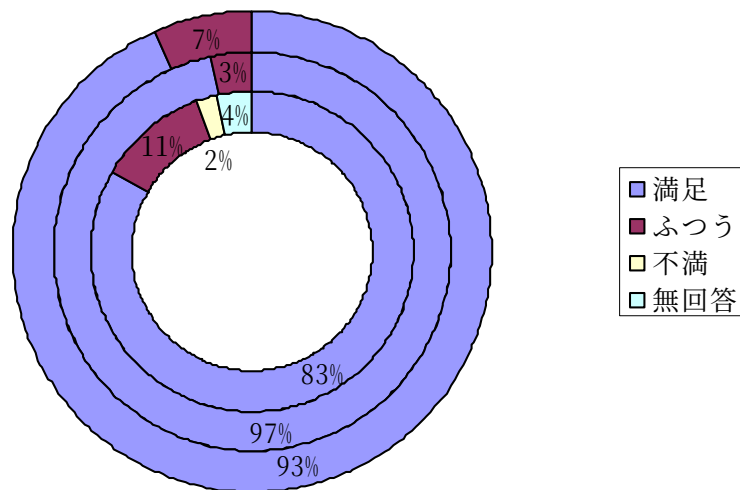
【震災時、長期滞在する場合に必要なこと】 N=96



⑩参加回数による意識の変化

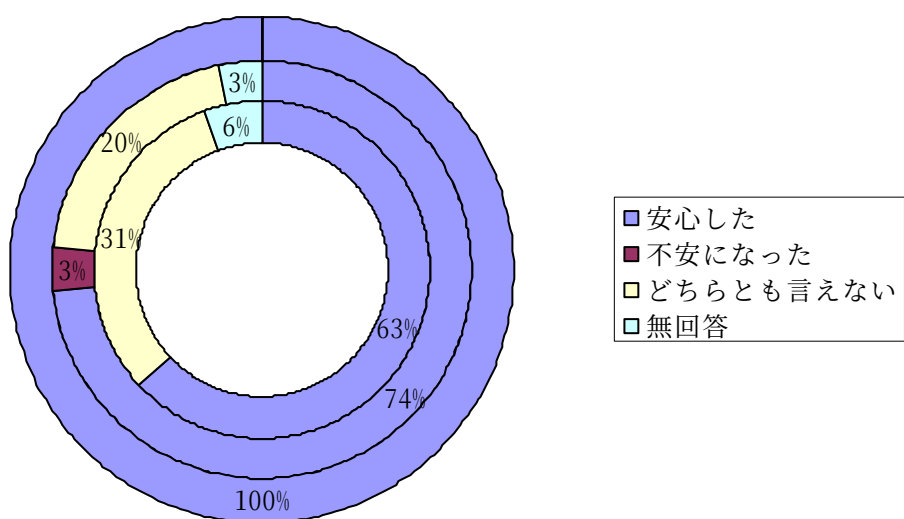
今回のツアーの参加回数によって、満足度や来訪手段等の意識に変化が見られた。参加回数が増えるほど、疎開に対する安心感が向上している。

【満足度の変化】（内側：初めて参加、中：2回目の参加、外側：3回目の参加）



【疎開先を訪れることで安心感につながったか】

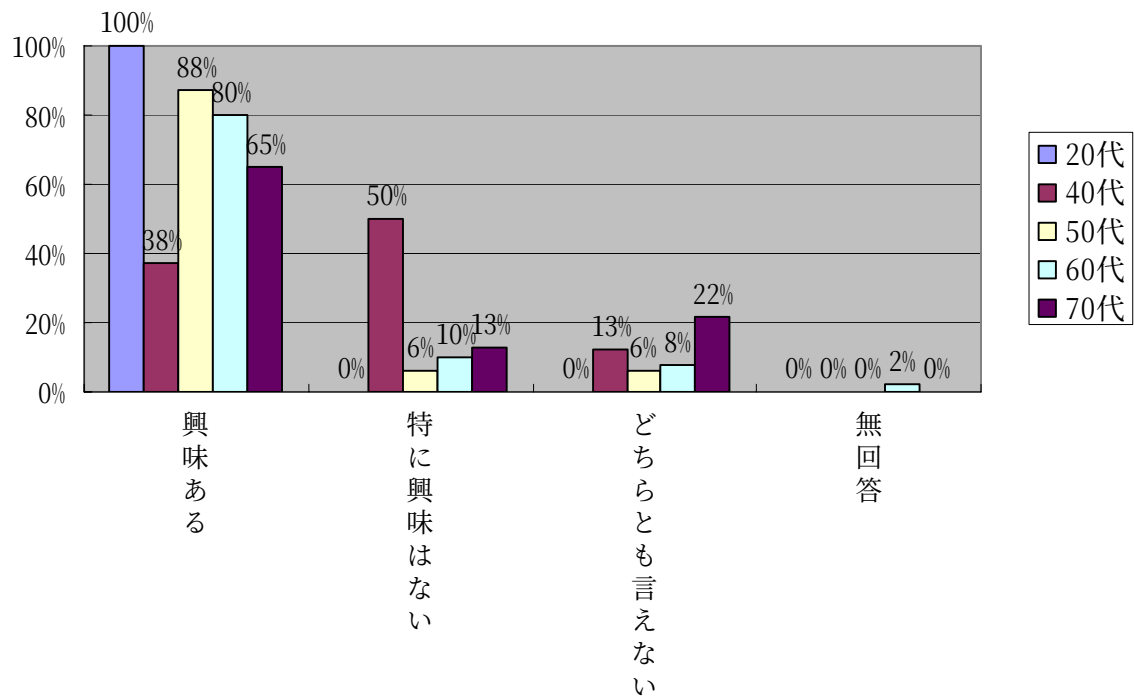
（内側：初めて参加、中：2回目の参加、外側：3回目の参加）



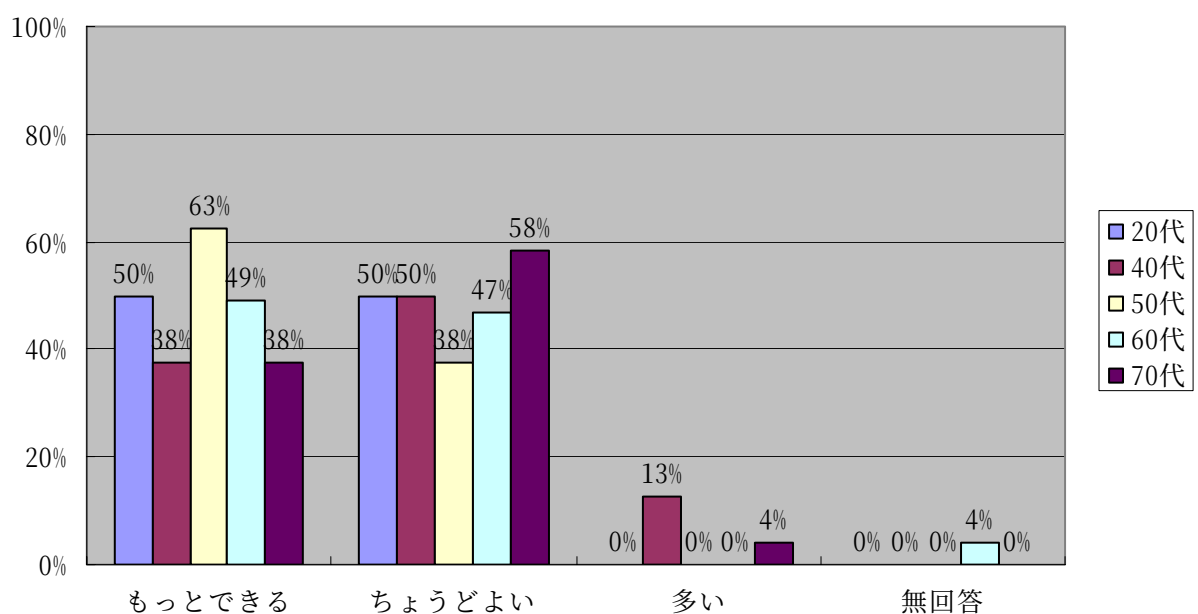
⑪年代による意識の変化

農業の関心については、20代、50～60代が高い結果となった。今回の援農内容においては、50代がやや意欲的であった以外、年代による意識の大きな開きは見られなかった。

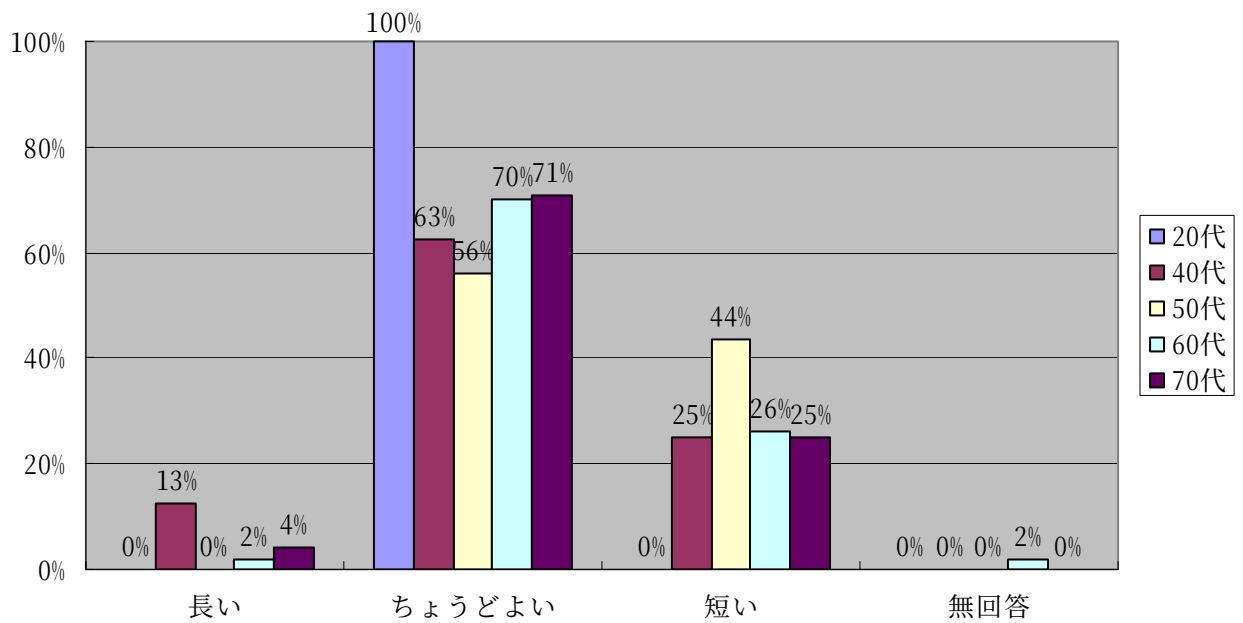
【農業への興味】



【今回の援農の作業量】



【今回の援農の作業時間】



⑫自由記入による事業評価

【宿泊先感想】

1回目

- ・ 食事がおいしかったです。
- ・ 料理（食材）の簡単な説明がほしい。ご飯を出すタイミング、あるいは注文をしなければ出さない旨の連絡不十分。
- ・ 料金にもよりますが朝食のご飯はもう少しおいしい米を期待します。
- ・ 気を使って頂きましたが、食事の際の給仕の方の数が少なかったと思います。
- ・ 安心・安全そして清潔感に配慮しているようだ。不特定多数の客を対象としている営業なので、今後共に更なる努力をしてほしい。
- ・ 安い料金で親切にして頂いた。
- ・ 大変よくしていただきました。
- ・ 心地よく過ごせた。
- ・ お風呂がもう少し広いとよい。お湯の出が細かった。
- ・ お風呂のお湯の出が悪い。洗い場が少ない。
- ・ 洗面所の場所がない。お湯も出ない。
- ・ 大浴場の湯の出が悪く石鹸をつけたら洗い流すのに時間がかかり気分が悪い。洗い場のカランが5つとは大浴場にはならない。日本人は温泉が好きな人種なのに温泉旅館とは言えない。
- ・ お風呂場に給水場があれば嬉しかった。ドライヤー1本では少ない。
- ・ 洗面所にティッシュペーパーをお風呂にドライヤーを増やしてほしい。
- ・ 2日目も新しい浴衣になっていて良かった。

2回目

- ・ 展望が素晴らしく、温泉も良かった。
- ・ 土湯温泉の中での好立地、1回目の飯坂温泉よりも格段によく満足。
- ・ 従業員の方々の対応がとてもよかった。会えば必ず挨拶や言葉があり、常に笑顔で接する態度に心地よく過ごせた。食事もおいしくお風呂も大変満足しました。
- ・ お風呂が非常に良かった。
- ・ お風呂が良かった。
- ・ 皆様感じ良く、とても親切であたたかく迎えていただき良かったです。
- ・ 温泉も良く料理も良かったです。
- ・ 従業員の方の対応は大変良かったし女将さんもステキでした。でも遊びの旅行で来るには選ばないかもしれない（建物が古くお風呂が良くなかった）特に若い人たちが頑張っていました（笑顔が良かった）
- ・ 設備が老朽化していると思います。
- ・ 風呂の位置が男女わかりにくい。
- ・ 静かで落ち着きました。良好。民話の話が聴けてよかった。次回も是非。

- ・ 清潔、挨拶対応にかなり配慮しているようだ。今の世の中いつ何が起こるかわからないときに、旅行者が求めているのは安心、安全そして快適である。
- ・ 男性用の浴場が狭い。入れ替えは、朝と夕の1日おきにして欲しい。
- ・ 齋藤清・こけしに興味があったのでその点では満足でした。浴衣等もやはり2泊目でも新しいものをおくべきではないか。これは宿の方針なのか、それとも教育がなっていないのか。
- ・ 従業員の皆さんの対応がとても感じが良かったです。景色もいいホテルだと思います。
- ・ 皆さん丁寧なお迎えをして頂き感動しました。
- ・ 一泊ごと別の旅館が良かった。
- ・ 夕食、お料理をもっと品数ではなく味の良いものにして欲しい。2日目は美味しかったです。
- ・ 宿泊した場所は少し古かったのですが、従業員がみんな感じが良く、美しい自然に感動しました。
- ・ 若い従業員が多いので良かった。

3回目

- ・ 気が行き届いている。
- ・ 気を使っていただき良好。
- ・ 部屋もきれいで従業員さんたちの接客も良かった。
- ・ 部屋が広くゆったりしてよかった。食事が郷土食豊かで大変美味しかった。
- ・ 叶やさんはとてもよかった。でも飯坂温泉がなんとなく寂しい。
- ・ 館内全般に防火・防災対策に十分な配慮が伺える。
- ・ 清潔・快適感が多分に感じられる。
- ・ 従業員皆さんの教育が行き届いているようだ。とても行き届いていて素晴らしい旅館でした。
- ・ 広い部屋と行き届いたサービスだったと思います。
- ・ 毎回違う旅館でしたが今回が一番良かった。食事良し。湯良し。
- ・ ゆっくりくつろげる、とても良い旅館でした。
- ・ きれいな旅館でお食事も美味しくいただきました。
- ・ 朝、新聞を各部屋に置いてくれて嬉しかったです。1日目ご飯をテーブルで炊いたとき、おねばが吹きこぼれて畳に落ちてしまいました。お膳の端でなく、もう少し中側に置いた方が良いと思いました。
- ・ 浴場内の給湯設備、保守点検の欠陥
- ・ 7階からお風呂が遠かった。露天風呂がなかった。
- ・ 料理に創意工夫が足りない。早朝、風呂場で従業員に挨拶をしたが返答が無かった。
- ・ ビール、酒が高い。サービスは良かった。
- ・ どの宿もお食事が美味しく量も沢山ありました。珍しい料理には材料や作り方などの質問に丁寧に返事をして頂きました。もてなしも他にはない温かみを強

く感じ、どんな時でも親切に対応してくれました。お風呂も最高です。

- ・ 1 回目より良かったけど露天、サウナなし、まあまあ女性なら良し。清潔で安心感があり、社員・職員親切でした。
- ・ 係の方の対応が親切でよかった。皆、感じよく接客してくれました。
- ・ 温泉も食事もたいへんよかった。
- ・ 良くしていただきました。
- ・ 清潔感があって良かった。
- ・ とても良かったです。
- ・ 施設もリニューアルしてあり、気分がよかった。温泉も快適。二泊目も浴衣を新しくしてあり、これもよし。今回は新しいものが用意されていなかったの。
「おぼんでございます」のカードはグットアイデア。安心感があります。

【援農の感想・要望】

1 回目

- ・ 初めての体験で勉強になりました。
- ・ 大変ありがとうございました。今回はお客ではなく本当の援農として参加したいです。今回はそれでも労働の充実感を体全体で感じ、命に対して改めて考えさせられました。
- ・ 都会に住んでいる人が農業についての知識を垣間見ることが良いと思います。
- ・ 貴重な体験で楽しかった。
- ・ 援農農家の受け入れ体制に格差があるので、評価の高い水準を合わすよう話し合いをお願いします。
- ・ とてもよい経験をさせていただきました。また機会があれば援農に伺いたいと思います。
- ・ 作業についてももう少し詳しく教えてほしかった。途中で、来年の芽を取らない様に言われましたが、始めの説明で教えて頂きたかった。
- ・ 悪天候のため、あまり援農は手伝えず申し訳ないと思う。もっと現実的に動かしてほしい。目的意識をはっきり持ちたい。
- ・ もっと長い時間希望。午前 2 時間、午後 2 時間位。
- ・ もう少しお手伝いしたかった。
- ・ 私達は楽しみに仕事でしたが時間少ないので申し訳なく思った。
- ・ 食育が昨今、農業の目玉として言われているが、草木の一本を植えたり刈ったりすることに、農業のありがたみを身をもって知ることができるので、援農の根っこはここにあると思う。機会を捉えて行政主催の行事なら参加したい。
- ・ 援農の対価は作業内容にもよるのでは…。今回は十二分でした。
- ・ 果樹農家の体験は初めてでしたが、親切に指導くださって何とか作業をしましたが、菜摘みの意味等の話をしながら楽しく交流をすることができました。受け入れ農家の方はあまり気を使わないでください。
- ・ 大変楽しかった。雨のため時間が短かったから残念です。作業内容にもよりま

すが金額はよくわかりません。

- ・ リンゴについて、知らないことを聞き、勉強になりました。
- ・ 最初は指導されたようにリンゴを運んでいたが、気がついたら胸に抱いて運んでいた。いつの間にリンゴが愛しくなっていた。菊田様にお礼の俳句。

いつの間に 胸に抱いて リンゴ摘み

嫁ぐ娘の 親の思ひを リンゴ摘み

2回目

- ・ 初めての体験でしたがとても楽しくできました。機会があればまたやりたいです。
- ・ 援農だけでなく別のことも体験したい。
- ・ 今回はモモの漬物加工でしたので、初めての体験はいろいろ勉強になり非常に良かった。
- ・ 果物を育てる為にとっても愛情を注いでいるのがとても強く感じた。仕事にあたっての注意や果物の扱い方を親切丁寧に教えてくれた。
- ・ とても良くして頂きました。
- ・ 自宅で少し畑をしていますが、これほど一生懸命したことはなかった。本当に楽しく働けました。
- ・ 準備等大変ですが、どうぞ続けてください。
- ・ 指導も適切で、作業内容・量とも適当で楽しかった。
- ・ 大変でしたが楽しかったです。とても一生懸命お手伝いさせて頂きました。
- ・ 今回、援農体験が始めてで、どのようになるものかと心配しておりましたが、援農家の方が親切で感じよく受け入れてくれましたので和気あいあいと体験ができました。そして荒川のスーパーでは何も考えずリンゴを買っていましたが、大変な苦勞をして育てていることを思い出して買うと思います。
- ・ 農作業は好きなので、もっと日数を長くしても良いと思っています。
- ・ 良い試みだと思います。援農家の方々も大変だと思いますが、お互いが分かり合える良い機会だと思います。
- ・ 今回は充実していました。
- ・ 将来援農支援ができる条件が成立するように要望する。
- ・ モニターツアーであり、今後農家の方が安定・確実な援農の方法を確立する必要があると思います。(物見遊山、老人の暇つぶしであってはいけない。したがって年齢も 70 歳以下にすべきだと思います。)
- ・ いい体験ができました。農家の人が喜んでくれれば嬉しいです。
- ・ 初めての体験で楽しかった。60 歳以上の人には良いと思う。このような機会があるのは良いと思う。
- ・ 新鮮な気持ち、生まれて初めてこういう仕事で自然を相手に楽しいことと思いました。
- ・ とにかく楽しかったの一言に尽きる。
- ・ スタートは早めにし、各農園にて一日作業にしてはどうか。

- ・ モモの漬物加工、リンゴジュース加工も親切に指導してくださり勉強になりました。
- ・ 物づくりの大変さを痛感。選別の厳しさ、ロスの多さにびっくり。リンゴの価格をもっと上げて良いのではとさえ思った。今後はもっと味わって食べるつもり、リンゴ以外のものも。
- ・ ちょっと手伝うだけなので楽しかったのですが、仕事としてやることはできません。
- ・ 長期滞在が希望（5～7日）
- ・ 初めてなのでちょっと心配しましたが、なんとかお手伝いを無事終わりました。
- ・ 色々なことがわかって良かった。
- ・ 農業の手伝いでどの程度できたら援農になるのか。地元の人々の手間ばかりを取らせてしまい、1回だけで終わってしまっは残念に思うので、今後このような機会を作って欲しい。
- ・ 素人なので大切な果物を無駄にしまいそうなのがする。

3 回目

- ・ 農家との会話、生活の一部に触れる。和気あいあいが良い。
- ・ 農業体験ができて自然の中で健康的で素晴らしい。
- ・ 今日は寒さがこたえました。今回の摘蕾は難しかったです。
- ・ 今回の適度の援農体験ならばよいと思います。
- ・ 楽しくできました。今後も計画されたら参加したい。
- ・ 結果の见えない仕事で結実が不安。
- ・ 知らないことを知ることができてよかった。
- ・ 食育の一端である援農作業、3回により快汗に触れたことを小さな誇りに思う。今回手塩にかけた桃が初夏の頃どんな顔をして消費地区に運ばれるか、機会があったら会いたいものです。
- ・ 受入農家も結構気を使っていると思う。通貨を出さなくても収穫のときに果物等を現品で送っていただければ思いもよらず大変嬉しい（通貨分）
- ・ 果樹作業の人手のかかることを実感した。
- ・ 果樹生産者と直接顔を合わせ交流できたので、今後も継続する方法を考えたい。
- ・ 自分の仕事の結果が皆心配しているのに同感。良し悪しがわからず、迷惑なのではないかと思ってしまう芽摘み仕事でした。
- ・ 金額：作業内容、時間によると思うので、ど素人で短時間なのでちょっとわかりづらい。はじめは難しいと思うが、慣れれば手助けになると思うが、この経験を生かす機会があるよう希望する。
- ・ 東京で暮らしていたらできないとても貴重な体験をさせてもらえてよかった。たった何時間か援農作業しただけだが、私たち消費者の所まで届くのに多くの時間とたくさんの人々の協力があることを、身を持って体験でき、農業の大変さがよく分かった。
- ・ 担当農家さんの方々には大変お世話になりました。色々と沢山の事について

質問しましたが、その度に親切に説明してくださり、指導も大変丁寧でした。本当に感謝しています。

- ・ 農家の方がとても気を使われているので、かえって申し訳なく思いました。作業時間もぴったりの時間で昼、おやつ等声をかけてくださって、あっという間の1日でした。
- ・ 楽しみにしていたので、とても良いと思います。
- ・ 楽しかった。作業が難しかったから簡単な方がいい。
- ・ 送り迎えのロスタイム、もったいないので農家の家に泊まって一日中手伝いたい。
- ・ 初めてのことなのでもっといろいろな体験がしたい。もっと汗を流したい。
- ・ わずかな時間での作業なので、これで本当に良かったのかどうか不安が多く残りました。お手伝いではなく損害を与えているのではないかとさえ思います。こんな私たちだったのにもかかわらず、優しく接してくれた農家の方々には頭が下がります。また、こんなに手をかけて出来る果物に対して今後は粗末にできません。たとえ値段が高くてもそれなりに理由があるのだと納得しました。
- ・ 農家の方がOKなら協力したい。
- ・ 素朴な人柄に触れて心が和んだ。
- ・ 初めての経験で楽しくできました。
- ・ 1日でしたがたいへん勉強になりました。また、農家の方々の大変なことがわかりました。
- ・ 作業はどれも大変楽しかった。もう少し時間が長くても良かった。
- ・ 農家の方のさりげない心遣いが心地よかった。
- ・ とてもよかった。
- ・ 生産者の苦勞が身にしみました。生き物（人間を含めて）を育てるのは大変なことだと実感。教育一本で過ごしてきたので。3歳から99歳までの方を計数千名と接した経験から育てる苦勞・楽しさはわかっているつもりです。

【震災疎開パッケージの感想・要望】

- ・ 良いと思います。
- ・ 人と人のつながりを大切にしたいです。
- ・ 災害が震災のみが対象。
- ・ パッケージの証書はもらえますか。
- ・ 内容について、もっと知らせてほしい。
- ・ よくわからないので知らせてほしいです。
- ・ その必要性は認めるが、保険内容等を明確にすることが大切と考える。いざという時の安全弁が保険だと考える。
- ・ 安心のための保険と思ってかけるくらい。
- ・ 災害があっても安心できます。
- ・ こういう所があるという安心感ができました。

- ・ 福島に強い味方の親戚ができた様で心強いです。
- ・ 都民にとっては願ってもない対策であり、何よりの安心です。
- ・ 田舎のない私にとって楽しみをもてる地域ができるのはとても心強いことです。
- ・ いざという時、お世話になる場所があるということは心強いし、有難いことです。ただし少々距離的に問題がある。
- ・ 特産品の金額に関係なく心遣いが嬉しいです。
- ・ 大変良い案だと思う。
- ・ 特に考えをもっていない。
- ・ そのときにならないとわからない。
- ・ 震災パッケージを使わないことを祈るのみ。
- ・ 加入したことより安心感が持てた。この体験ツアー参加したことで、地元の人たちとの交流により信頼も生まれている。
- ・ まだ実感がないのでわからない。
- ・ 日頃から親近感を持つことができて良い案だと思う。
- ・ 今回初めて疎開パッケージを知りました。もし震災があったとき等には安心感があり、このようなパッケージはとても良いと思います。そして更新した時の特産品の送付も良いと思います。(保険の掛け捨ての内容で特産品の送付があることがとても良いです。)
- ・ もっと全国展開をしてもいいと思う。
- ・ 特産品はお米がいです。
- ・ 東京で災害が生じた場合、加入金額の支払いが可能かどうか明確な根拠を提示して欲しい。
- ・ 初めて聞きました。良い企画だと思います。
- ・ 飲食代金において、当然の処置対応だと思う。
- ・ タイトルがわかりづらい。
- ・ 特産品等は不必要。その分金額を下げて欲しい。
- ・ 安心感を持ちました。
- ・ あまり必要としない。
- ・ 震災が起こったとき、目的地に移動できるかが疑問。
- ・ 入ったばかりなので特に感想はないが、特産品はうれしい。
- ・ 安心
- ・ 何事も忙しい時期にご配慮いただき感謝しております。
- ・ 荒川区民にとって安心です。
- ・ パッケージのこと自体わかりません。
- ・ 福島らしいよい思い出である。
- ・ とてもいいアイデアだと思います。
- ・ 災害はないことが好ましいが治にあって乱を忘れずの言葉通り日常の安全弁としてこのようなパッケージは必要と考える。
- ・ 制度の発展に先々問題発生の要点を含んでいる如く見える。組合存続の主体性、責任等、会計の公開など先送りされている。

- ・ よくわからなかった
- ・ 大儀は結構だと思いますが、少々疑問が残る点もありました。
- ・ 地震は来ないと思っているのだが、発生しなくても少しでも特産品が送られてくれば魅力的になるでしょう。3000 円分でなくてもよい。
- ・ まだよくわからない。
- ・ 災害時に行くべき場所が確約されていれば、これからずっと安心していられるのが何よりです。
- ・ 更新加入しなくても特産品を送るべきだ。このように改定されれば更新する。

【地域通貨についての感想・要望】

- ・ 良いと思います。
- ・ 地域活性化にはとてもいいことです。
- ・ 更なる普及を期待したい。
- ・ 買物に大変良かった。
- ・ いいアイデアだと思う。三方一両得？
- ・ こんなにさせていただいていいのでしょうか。
- ・ 思い出になる物を買わせてもらいました。
- ・ 説明が不足だと思います。
- ・ 使い慣れていないので。
- ・ とても良いアイデアと思うし、地域に還元できるのが望ましい。
- ・ 多くの方に知ってもらい、今後の普及を望む。
- ・ 地域に利する良いアイデアと思います。
- ・ 福島県で使える様になれば嬉しい。
- ・ ホテルで使えるのはとてもいいです。使える場所をもっと増やしてほしい。
- ・ それ程のお手伝いができたか、申し訳ないと思った。
- ・ もっと使えるところを多くしてほしい。地域通貨の使用の期間を無期限にできるようにして欲しい。
- ・ 四季の里ならどこでも、という具合にして欲しい。
- ・ 確実に地元に還元されること、金額もちょうど良いと思う。また、地域通貨の普及を多くしてもいいのではないか。（買取させて使わせるとか）
- ・ 使えるところがもう少し多いと良い。
- ・ 楽しみがあって良いと思う。
- ・ とても良い案だと思います。
- ・ 使用できる場所が増えると良い。
- ・ 通貨であるのでおつりは出して欲しい。
- ・ 楽しいです。
- ・ 体験のお礼として地域通貨が頂けることは嬉しく思います。
- ・ 地域で買物して還元できるので良いと思う。
- ・ 広範囲に使えればもっと良い。

- ・ 特別な感覚で楽しい。
- ・ 今回のは何かしかなの対価的なポイントはあると思うが市民間の特性等を考えて大いに PR すべきと考える。
- ・ 現地にお金を使う方がいい。
- ・ もっと使える場所があると良い。コラッセ福島での買物時間が短い。
- ・ 使える場所を増やし、個人で再度来訪し、使う気を起こさせるようにすればよいのではないか。
- ・ お土産をたくさん買うことができた。
- ・ あまり効果がないのではないか。
- ・ おつりが出れば、尚いいと思います。
- ・ 大変うれしく使わせてもらった。
- ・ 面白い考え方。楽しい。
- ・ 特色があってよいと思う。
- ・ 今回始めてなので何とも言えません。
- ・ そのときはありがたい。
- ・ 温泉街でも使えると良い。
- ・ 便利なものと思う。
- ・ 地域通貨を援農受入農家に渡し、自分が体験した果物の収穫物を送ってもらえたら、より喜びが大きく、農家とのつながりも深まると思います。
- ・ 場当たりで補助金を私が無駄遣いしているようで心苦しい。
- ・ 使える場所が二ヶ所だけのようですが、福島市の他の場所で可能な店でも使えることを希望します。
- ・ 初めて利用したのですが面白かったです。
- ・ 使える場所が少ない。野菜等も欲しいので使えると嬉しいのにと感じました。
- ・ 市内どこでも使えるようにしてほしい。
- ・ 多くの店で利用できる方がよい。
- ・ ツアーのところだけでもいいのでもう少し使う場所を増やしてほしい。
- ・ 1 割引とか 2 割引とかで販売すればもっと利用する。
- ・ 非常に良いアイデアだと思う。確実に地域に還元されるから。
- ・ 使えるところが少ない。
- ・ ももりんポイントで買い物がうれしいです。
- ・ 良いと思います。
- ・ せめて福島市内の商店街でも使えなければ普及しないだろう。
- ・ 今回だけでなく、いつでも使えるようにしてほしい（震災の時でも使用できるように）。

【福島市の観光についての感想】

- ・ 見所があって良いと思います。
- ・ 何回か福島には来ていますが、山形と仙台の有名観光地の間で見過ごされていて

るような気がします。これからは自然を観光目的にしたり、生活が見直されることだろうから、がんばって力を入れてください。

- ・ 最近の力の入れ方について、敬意を表します。
- ・ PR の仕方がうまい。今後もどんどんしてほしい。
- ・ 民家園、鮭の産卵が見られて良かった。
- ・ これから旅行をしたい。
- ・ 花見山にはぜひ一度行ってみたいと思っております。
- ・ 春に 1 度来てみたい（花の咲く頃）。
- ・ 範囲が広く、各々特色があり好きな場所の 1 つです。何よりも人間的に暖かい味のある所。
- ・ 広いのでゆっくりと廻って見たいと思いました。
- ・ リンゴ、温泉だけでは、時の流れに遅れると思う。新しい時代に新しいアイデアを搾り出して対処・対応することが大切です。大好きな福島、何かを掘り起こしてほしい。
- ・ 立ち寄る所々に地方の方々の温かさをとても感じました。今回は観光に十分な時間がとれなかったが、見るところは沢山あるので次の機会を楽しみにしています。
- ・ 親切な方々が多いので嬉しいけれど、もっと産業を知りたい。
- ・ 福島県には結構来ていますが福島市には初めてでいい体験になりました。福島市をもっとアピールした方がいいと思います。穴原温泉にも行ってみたい。
- ・ 初めて知った観光地が多いので、援農機会共々、観光地を紹介する良い機会だったのではないかと思います。
- ・ ちょっと見には地味だが、福島市の本当の良さは、長期滞在してこそわかると思う。
- ・ 素敵などころが多くあります。
- ・ もとよりの感覚で、郷土の有名人を始め、生き様を見た気がする。
- ・ とても景色がよく楽しいと思います。
- ・ 同じ場所でも都会から離れられるのだから良い。どんな所でもそれなりに良いものです。
- ・ 温泉と果実の里として力を入れていいと思います。
- ・ 21 世紀です。果物、温泉を売りにするのもよいが、工場誘致などを拡大して、福島ならではの工業製品の発信を期待する。
- ・ 福島県というと即座に思い浮かぶのは会津方面です。福島市を観光地として知らしめる為には修学旅行など若い時から何となく親しみを感じる仕掛けが必要だと思います。
- ・ 叶やさんは中心でよろしいですが、他の温泉の出ているところであればどこでもよろしいと思う。観光地はどこを取ってもそれなりに価値があるので、沢山発掘してください。
- ・ 皆さんが観光事業に熱心に取り組まれていると思った。福島市のアピールがよくされていると思う。

- ・ 素敵な場所なので、もっともっとアピールして沢山の人が福島を知れたらよいと思います。
- ・ こんなにたくさんの花とフルーツがあるところとは知りませんでした。またぜひ花を見に来たいと思います。
- ・ 観光場所がもっとあるとよい。
- ・ モモ、リンゴの果物の他に地域の特産物（野菜、きのこ類等）を開発したらどうでしょうか。また花見山だけの花ではなく、温泉街全体で町中をいろいろな花で埋め尽くす意気込みでやったらどうですか。
- ・ 大変いろいろ見るところがあった。けっこう充分な観光施設があるように思う。
- ・ バスから通りすがりに見る住宅街は都会と違って庭のあるしっかりとした綺麗な家が並び、とても羨ましく思います。立ち寄る施設も立派でした。市内だけでも観光する場所が多くあり、楽しませてくれます。
- ・ 福島といったらお花見に来てみたいですね。
- ・ 今までの思っていた福島市と比べて、今回体験をさせていただいて、とっても素敵な市、福島になりました。絶対にまた来ます。何回も。
- ・ リピーターとなるよう、少しは知恵をしぼってはいかがか。建築物より自然を大いに売り込むことを考える（それも本気で）必要あり。

【モニターツアー全体の感想・要望】

1回目

- ・ 天候が2日目、3日目は悪かったので、いろいろなことが体験でき、良かったと思います。
- ・ 体験ツアー、農家の皆さんにいろいろお世話になりました。皆さん笑顔で迎えてくださったことに、心から感謝をいたします。福島市と荒川区、交流ですから、お互い訪問できるといいですね。一方通行にならないよう震災疎開という枠を外して、お互い理解し合える関係が、今後もっともっと築けていけたらいいと思います。
- ・ 初めての経験、見学ができたこと。（摺上川での）鮭の産卵、果樹園農作業、ロックダム見学と。
- ・ 農家の方々の心暖かい気持ちの中で、楽しく有意義な援農体験ができたこと。福島市、ボランティアグループの方々の積極的な態度。特に市役所の関係部課の連携は頭が下がります。参加者は女性で高齢者が多い中で、適当なコース、時間割は大変良かった。荒川区の中学生の課外授業の一つとして、この援農体験を取り入れれば時代を担う青少年の健全育成にも寄与。
- ・ 受け入れ農家が素晴らしかったので今回のツアーの感想は大満足です。
- ・ もっと多くツアーをしてください。
- ・ 福島の方がとても一生懸命、親切にしてくださって、とても良い経験ができました。これから荒川区民と大切に交流していただきたいと思います。
- ・ 初めてツアーに参加し、福島の方々の熱意と発展的な考え方に感心させられま

した。天候が悪く、作業は短時間でしたが、農家の方の日頃の苦勞がよくわかり、大変な事だと考えさせられました。

- ・ 援農という事で参加してみました。雨のためあまり農作業もできませんでした。3日間とても楽しく過ごさせていただきました。
- ・ 農水省の後援という事ですが、もう少し厳しくても良かったのではないかと思います。お客様扱いが多過ぎると思います。企画としては、賛成ですが、対象地域でのPRも不足の感もありました。お世話になりました。
- ・ 雨が降って少し不満な点もありましたが、リンゴの花摘み、またお花見ツアー等があったら参加したいです。
- ・ 数々多難も多いと思うが、荒川区と内容を詰めて、例えば援農隊として本当に努力・協力してくれるメンバーのリスト等を作成しておいて、猫の手も借りたいシーズン（年間通して）に4~5日程度お手伝いを依頼し、メンバーの何人かは、これまた当人の諸般の事情が許せば気持ち良く参画できるという制度のようなものを今回の催し3回を通して考慮するのも何かの暖かい人間同志の連携の基礎づくりになることと思い、提言します。
- ・ 受け入れ先の家庭の事情があって、中途半端な体験だったような気がする事と、温かい人達に感謝するが、今回初めてづくしでお互いが交流し合ったせい戸惑いがあるがスムーズにいかなかったのが残念です。ただとても楽しかった事は事実です。福島の方々のとても熱心で誠実で気配りの多さは感謝致します。次がとても楽しみです。よろしくお願い致します。福島弁が聞きたいですね。関わられた方々全ての方にお礼を申し上げます。お疲れさま、ありがとう、ご迷惑かけました。
- ・ 農業初体験でドキドキしながら参加致しました。リンゴの葉摘みでしたが、丁寧に葉の摘み方をお教え頂き、楽しみながらリンゴをくるりとまわしてあげたり、葉を取ったりさせて頂きました。いつもスーパーで買っているリンゴも、この様に手数をかけて市場に出てきているのだな…。大変なお仕事だと思いました。リンゴジャム作りも初めてでした。朝から私達のために協力してくださった農家の方々に感謝致します。ありがとうございました。市の職員さん達のお気遣いに感謝致します。ありがとうございました。
- ・ 全体としてよくできて、気を使ってくださった企画でした。農作業に感心ある都会の我々と人手が少しでもほしい農家が交流して、互いの状況と農業問題に関心をもつのはよいことと思います。第1回目の不備な点を修正して、長く継続して、個々の農家と都民が顔の見える関係が築かれると故郷ができたような気になると思います。この企画の場合、全くの独立採算は難しく、ある程度の予算の補填は必要かも知れません。
- ・ 福島市の方々には大変気持ちよく迎えて頂いて感謝致しております。また参加したいと思います。福島市をPRするには観光は必要です。
- ・ 援農させて頂いて農家の方が心をこめてリンゴ作りに取り組んでおられるのに大変さと安心、安心なものと、思っていること。時間があればもっと葉摘みしたかった。菊人形も見たかったです（二本松）。永山さんの大豆作り、それにお

菓子美味でしたね。

- ・ 農作業の日数をもっと入れてほしかった。
- ・ スケジュール的に困難であったことは理解するが、金額の振込期間が短い。このような場合は現地（当日）支払いにする方法が良い。また、振込料（銀行）が高いので郵便振替も OK にしてほしい。貴重な体験をさせて頂き感謝します。リンゴをこんなに愛しく思えたことだけで十分満足です。ありがとうございました。農業の本格的に希望する都会の若者を受け入れる窓口のようなものを福島市に望みたい。後継者のいない農地もあると思うので。
- ・ 大変なところが見られた事がとっても良かったです。この様な時に参加ができた事が良かったです。
- ・ 初めての体験ツアーとても楽しかったし勉強になりました。一個のリンゴだが、単に一個ではなく、一年かけて手間ひまかけて育った一個のリンゴと改めて見直すことができました。機械を使わず全部手作業で大変だとつくづく思いました。初日には、思いもよらず鮭の産卵を見る事ができて、本当に感動いたしました。お世話にくださった福島市地域の皆様、本当にありがとうございました。
- ・ 福島市の皆様の優しさが伝わってくる旅でした。大変お世話になりました。有難うございました。
- ・ 農家の方々の親切さがとても嬉しかった。ツアーに携わった役所の方々、及び旅行会社の方、農家の方々、皆さん一生懸命に取り組んでいる姿に素晴らしい事だと感じました。空気が良く、のんびりしていて、体の中まできれいになったような気がします。本当に今回参加させて頂きありがとうございました。

2回目

- ・ リンゴを食べていても、もぎ取りをした事がなかったので楽しかった。リンゴの芯の先が丸っこい大きいのが真中の良い品でおいしいと聞き、これからリンゴを選ぶ時の目が違ってくると思った。選別箱詰も体験し楽しかった。
- ・ 青空の下で真っ赤なリンゴが大きくなると知った。リンゴの木の下で食事をし、始めはどうなることかと思いましたが、段々慣れてうまく取れるようになり楽しかったです。
- ・ 今回このような計画を立ててくださった福島市、荒川区の関係者の方に感謝いたします。
- ・ 低料金で大満足のリンゴ収穫でした。大満足でした。
- ・ 10月のときの旅館は湯の出が悪く洗い場が少なかったが、今回の湯は非常に満足した。温泉大好き日本人のキャッチフレーズがあるので今回は落第だ。福島市の宣伝をしたいのなら設備を完全なものにしないといくら宣伝をしても意味がない。
- ・ 全体として大満足。次回の帰路、アサヒビール工場見学を考えておいてください。
- ・ 2回目の参加ですが、今回も前回同様とても楽しく過ごさせて頂きました。今回は仕事をさせてもらいましたがやはり、経験のない事だったのでお役に立て

なかったと思います。市の職員の方や農家の方々の誠実な対応にはとても感謝します。援農の対価としては必要ないと思います。お金を得るほどの仕事はしてないし、むしろ、こちらがお支払いをしたいくらいです。交流会においては主権者側の方々の楽しく工夫された企画に大いに楽しみました。援農体験のこの企画は今後も是非、続けて欲しいと思います。また、援農に限らず福島市の色々な行事でのツアーにも企画があったらよいのではと思います。ありがとうございました。

- ・ 希望する間に借りられるアパートがあり、援農をしながらゆっくりできたらい。福島の方は親切でした。
- ・ 元々農業ということではないが、畑を多少は作っているので作物を作るということに関心はありました。しかし、現実の農業はそんな遊び半分の気持ちでは続いていかない厳しいものを感じました。生活ということは農業に限らず大変なものです。農業に関しては今回本当に、体力精神力、知力とあらゆる面で一生懸命努力していることに楽しく援農のまねごとをしている私には、一種のショックを覚えました。
- ・ 前回の援農の方に出会えてとても楽しく交流会を過ごせました。何回か続けてお会いできれば嬉しく思います。
- ・ 2回目の参加です。援農については、今回天候に恵まれ及ばずながら摘果体験が出き、充実感がありました。労働量、時間も適当でしたし前回と同じ農家での楽しみもあり、楽しく作業できました。今回はモニターで安価での参加ですが、配慮も行き届き福島県人の誠実な人柄を見ることができ、防災時の預かり先として生きてくると思います。とても有意義な企画のツアーでした。
- ・ 初めての体験でしたが、リンゴの収穫のお手伝いができた事と、福島に親戚ができたみたいでとても楽しかったです。

3回目

- ・ 2回目ですが楽しかった。また機会があれば参加したい。同室の方々との出会い、談笑が良かった。
- ・ 役所の方、援農の方、JTBの方々お世話いただき誠にありがとうございます。福島は自然、人々にお会いでき楽しく過ごすことができました。また、個人旅行したいと思います。ど田舎の会長さんの話は都会育ちの者として大変勉強になりました。
- ・ 農業体験して農家の大変さがわかった。今後も続けてほしい。
- ・ とても楽しかったし援農農家との交流が良かったです。
- ・ とにかく援農体験ができてとても良かったです。
- ・ 顔さえ知らなかった区民同士が同種の援農、一宿一飯の語らいの中で、小さな協調の輪がレベルアップしたことは、ことのほか有意義だったと思う。この機を取り計らった福島市長、担当職員そしてJTBの諸君に礼を申し述べたい。
- ・ 3回通して参加しておりますが、こんなに安い価格で参加できて、とても良かったです。永く続けるには無理が生じるのでは、と思います。1回目よりも2

回目、2 回目よりも 3 回目と重なるうちに、双方とも見えて来るものがあると思います。ももりんカードの使い方、宿泊の件等々です。

- ・ 3 回とも参加し、安価な費用で貴重な体験をすることができました。関係者の方々との準備と配慮と熱意に感謝します。受入農家に負担をかけたのではないかと心配です。エコツーリズムとして大変良い企画ですので、今回はモニターでしたし、補助金がらみの大名旅行でしたが、民間ベースでの採算性と、地域、農家、参加者が満足できる息の長いものへとつなげてゆければ視野が広がり、日本の農業にも一筋の光になると思えます。アンケートの結果を生かしてくださることを期待します。ありがとうございました。アンケートの結果を知りたいので、ホームページなどで広報してくださると嬉しいです。
- ・ 国の補助は単年度制で、農業者にとってはあまりメリットが無いのではないかと。旅館や主催者（JTB、市観光課）、保険屋等は当然だが、私ら荒川区の申し込み当選者はありがたいが何か釈然としないところがあるのではないかと。少なくとも私個人は他の区民に申し訳ないと思う程の優遇を受けたと思っている。工業零細業者であった私としては生産者が最もメリットがあってしかるべきと思います。次は農水省の補助で稲刈り体験モニターツアー1 年 3 回なんて飛び出すのではないのですか。
- ・ 宿泊、土地の観光が不十分なのが残念でした。例えば飯坂温泉の街中を説明しても良かったかと思います。荒川区はこの企画の結果を報告してもらいたい。定年退職者にとって、モニターツアーがもっとあることを希望します。
- ・ 2 泊 3 日で援農や温泉、観光など福島を満喫できました。このようなツアーにもっと同年代の若者にも参加してほしいと思った。20 代の人たちだけなのにびっくりしました。観光も大切ですが、援農をもう少し取り入れたら農業体験したいという実感がわくと思いました。どうもありがとうございました。
- ・ 正直、年齢層にびっくりしましたが、3 日間大変楽しく体験させていただきました。援農体験では、普通の旅行では味わえないような大変有意義な企画でした。充実した 3 日間を過ごさせていただきました、大変満足しています。ありがとうございます。
- ・ もっと農作業をしなくては申し訳ないなと思いました。食事もおいしかったし、サポートして下さる皆様も大変だったろうと感謝しております。ありがとうございました。
- ・ 今回の昼食はとてもおいしかったです。
- ・ もっと農業体験をしたいので観光はなくてもよい。もっと高くてもよいから、いろいろな企画をしてほしい。
- ・ 3 回も参加致しましたが、いずれも飽きることなく観光めぐりをし、美味しい食事と楽しいゲームに楽しく過ごすことができとても感謝しています。受け入れてくれた農家の方々、福島市の職員の方々、旅行会社の方々、それぞれが工夫をこらしての 3 回でした。皆様の温かいお気持ちが常時伝わり私たちの多くが非常に満足し、次の川の手祭りの開催が楽しみになっています。
- ・ 震災の時安心して住める所があるとよい。今日の援農作業のモモの摘蕾作業、

モモの花を取りすぎてしまったか不安でした。これからも授業催しがあれば参加したい。

- ・ 今回このような機会を与えていただいたことにとっても感謝です。我が家のこともちょっぴり心配でしたが、それ以上にとっても楽しい体験を致しました。普段旅行には良く来ますが、私は東京生まれ東京育ち、主人もそうなので田舎がない分このような体験ができたことを心より感謝いたします。またぜひ体験したいです。
- ・ 前回も書いたが温泉の風呂の湯が飯坂はだめで、まして風呂の上り湯が1回は出がちょろちょろ、石鹸が使えない。2回目の上り湯は良かったが今回の上り湯は熱くなったり水になったりと、熱くなったり的时候は「やけど」するかと思う程で安心をして上り湯が使えない。まったく危険そのもの。東京から観光客を招き入れるのですから、旅館を調べて観光客を呼んでももらいたい。飯坂温泉の名折れで名前だけの観光地はだめ。

イ 援農受け入れ農家・加工業者アンケート調査結果

(ア) 対象者：援農受け入れ農家・加工業者

(イ) ねらい

今回の社会実験において都市住民の受け入れを行った農家・加工業者にアンケートを実施することにより、以下の点を検証、分析する。

- ・ 今回のモニターツアーの評価及び事業内容の検証
- ・ 援農体験受け入れ農家の都市住民・関係諸団体に対する希望および意識確認
- ・ 農家の長期滞在、援農、疎開受け入れ先としての課題分析
- ・ 受け入れ基盤強化に向けた検証

(ウ) コンセプト

- ①担当した作業内容の確認
- ②援農の評価（満足度、内容評価、継続可能性評価等）
- ③震災疎開パッケージについての評価（認知度、内容評価等）
- ④地域通貨についての評価（対価の妥当性の検証等）
- ⑤都市住民への要望、課題分析
- ⑥関係諸団体への要望、課題分析
- ⑦交流拡大可能性の検証（体制・期間・援農内容等の検証）
- ⑧自由記入による事業評価（分析想定は以下の項目）
 - ・ 都市住民受け入れに関するもの
 - ・ 援農に関するもの
 - ・ 震災疎開パッケージに関するもの
 - ・ 関係諸団体に関するもの
 - ・ その他

(エ) 援農受け入れ農家・加工業者アンケート結果

サンプル数：23

- ・1回目受け入れ：6名
- ・2回目受け入れ：10名（4名重複）
- ・3回目受け入れ：7名

①今回のモニターツアーについて

受け入れ人数は少数を対象とするのが適当との評価である。参加者側の農作業に対する意識に差異があり、熟練度が低く、援農意識も低いため、体験農業の域を脱していないことが課題として浮き上がった。対価の支払いについては作業内容と金額との整合性を図る必要がある一方で、金銭ではなく収穫物等での対応案も出された。

【担当した作業内容の確認】

1回目（2006年10月22日～24日）

	作業内容	作業時間	参加人数	スタッフ人数 (含準備)	受け入れ人数	作業時間	作業量
1	リンゴ摘葉	2時間	4人	2人	適当	適当	適当
2	リンゴ収穫 収穫補助	1時間半	6人	4人	多い	短い	少ない
3	葉摘み	2時間10分	6人	—	適当	短い	適当
4	リンゴ加工 リンゴ摘葉	体験としては適当	—	—	少ない	短い	適当
5	摘葉作業はしるしのみ 圃場の見学 リンゴ栽培の勉強	3時間半	3人	3人	適当	適当	適当
6	リンゴ摘葉	2時間	3名	—	適当	適当	適当

	受け入れ準備	準備の手間	作業の指導
1	脚立の用意	たいした手間ではない	容易
2	なし	たいした手間ではない	容易
3	屋外用トイレの設置 50,000円	大変手間になった	難
4	なし	たいした手間ではない	容易
5	—	たいした手間ではない	容易
6	なし	たいした手間ではない	容易

2 回目（2006 年 11 月 20 日～22 日）

	内容	作業 時間	参加 人数	スタッフ 人数 (含準備)	受け入 れ 人数	作業 時間	作業量
1	桃の漬物加工、リンゴ ジュース作り	6 時間	9 人	5 人	適当	長い	適当
2	桃の漬物加工 リンゴジュース絞り、 ビン詰	9：00～ 15：30	9 人	4 人	適当	適当	適当
3	桃ずきんちゃん（桃の 甘酢漬）の袋詰め、ジ ャムづくり	4 時間半	—	—	—	—	—
4	リンゴ収穫	4 時間	4 人	2 人	適当	適当	適当
5	リンゴ収穫補助	3 時間	2 人	3 人	適当	短い	少ない
6	リンゴ収穫	9：30 ～15：15	5 人	—	適当	短い	適当
7	リンゴ収穫	体験とし ては適当	5 人	—	適当（こ れ以上 は無理）	適当	適当
8	直売所手伝い、柿収穫、 リンゴ収穫	5 時間	3 人	3 人	適当	適当	適当
9	リンゴ収穫	4 時間 （休憩昼 食別）	4 人	3 人	適当	適当	適当
10	リンゴ収穫、 リンゴ選果、箱詰、 出荷（荷造り）	4 時間	3 人	—	適当	適当	適当

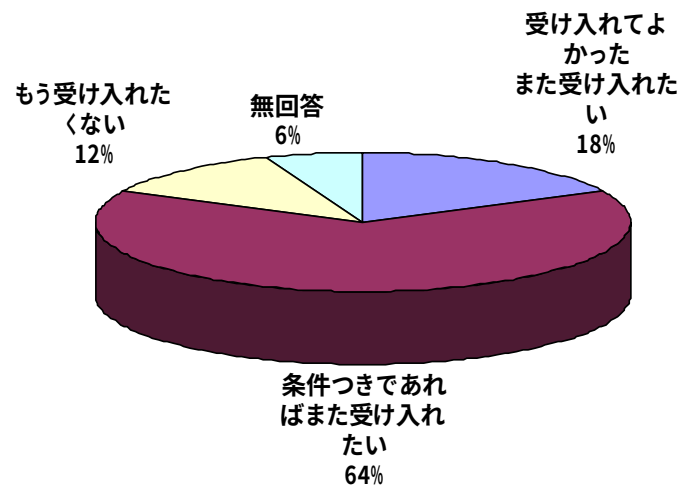
	受け入れ準備	準備の手間	作業の指導
1	桃の塩漬の塩抜き、本漬け作業、手袋帽子等衛生面の準備、加工桃は販売できないので、桃の加工以外に何をしてもらうか考えるのが大変だった。リンゴの手配、職員の手配	大変手間になった	準備をして臨んだ
2	—	大変手間になった	準備をして臨んだ
3	—	—	—
4	収穫かごの用意 収穫用コンテナの手配	大変手間になった	容易
5	なし	たいした手間ではない	容易
6	収穫かごを新規調達した。	大変手間になった	難
7	なし	たいした手間ではない	容易
8	—	たいした手間ではない	容易
9	一服の準備（リンゴジャム、アップルティー、漬物）コンテナ、おみやげ（リンゴ）、我が家のチラシ	たいした手間ではない	容易
10	日程に合わせて仕事を調節した。	たいした手間ではない	容易

3回目（2007年3月13日～15日）

	内容	作業時間	参加人数	スタッフ人数 (含準備)	受け入れ人数	作業時間	作業量
1	モモの摘蕾作業	3.5時間	—	2人	適当	適当	適当
2	モモの摘蕾作業	4時間	—	6人	適当	適当	適当
3	モモの摘蕾作業	4時間半	—	—	—	—	—
4	モモの摘蕾作業	—	—	—	多い	適当	適当
5	モモの摘蕾作業	6時間	—	2人	多い	短い	適当
6	モモの摘蕾作業	4時間	—	3人	適当	適当	適当
7	モモの摘蕾作業	3.5時間	—	2人	適当	適当	適当
8	モモの摘蕾作業	4時間	—	3人	適当	適当	適当

	受け入れ準備	準備の手間	作業の指導
1	一服の用意。お菓子、漬け物、おひたし等。昼食の味噌汁とお茶。	たいした手間ではない	準備をして臨んだ
2	寒いので防寒の準備をしていました。長ぐつ、帽子、ズボン、手袋等。	たいした手間ではない	容易
3	食事のみそ汁、漬け物、おやつ	たいした手間ではない	容易
4	トイレ設置	たいした手間ではない	容易
5	味噌汁と一服用のお菓子作り	—	容易
6	脚立の準備。寒かったのでたき火の用意をした。	たいした手間ではない	容易
7	摘蕾作業の目的、実施方法のプリント	たいした手間ではない	準備をして臨んだ

【今回の援農内容の評価】



(理由)

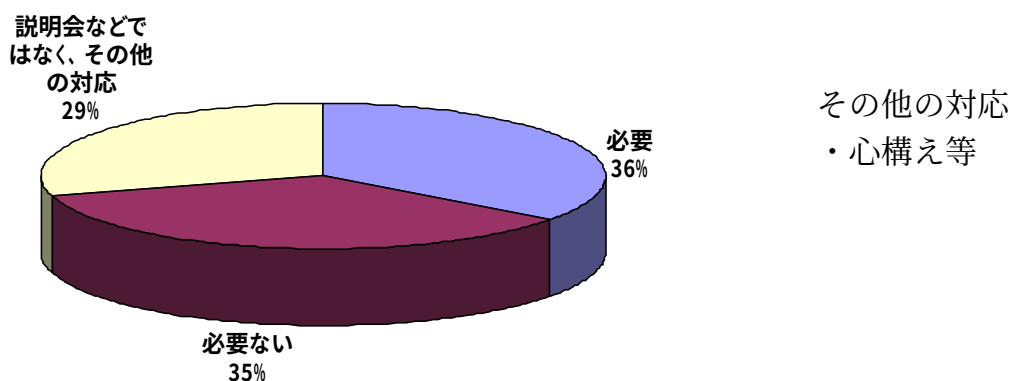
条件つきであればまた受け入れたい

- ・ 収穫期は手伝っていただき大変助かった。葉摘は楽な仕事のようなのだが、力の入れ方によってはリンゴが落果するので訓練が必要。
- ・ 雨天時は難しい（実際リンゴ詰では無理だと感じました）。
- ・ 体験型であれば協力できる。

もう受け入れたくない

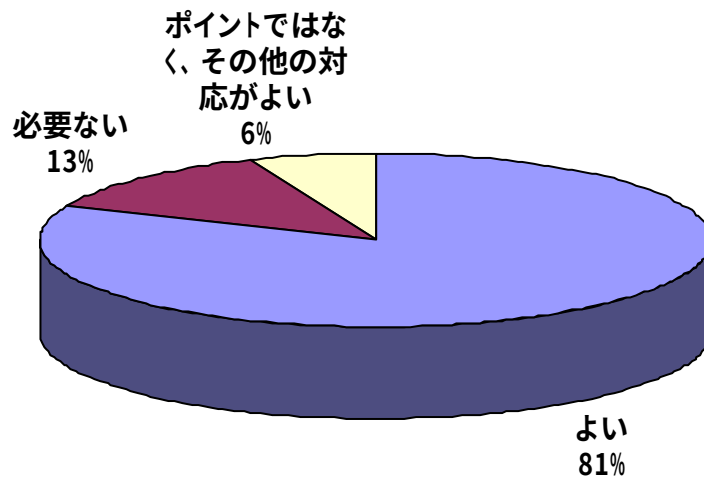
- ・ 直前まで受け入れ人数がはっきりせず困った。
- ・ 部会以外の方が加工したものは他に販売できないため、内部で処理できるように調整するのが大変だった。
- ・ 行政側とJAとの協議がなく、作業内容の相談がないままに進んだ。
- ・ 農作業は一般の方々が考えているように簡単ではない。誰にでもできるような仕事は何一つない。援農と言うより体験だと思う。

【事前説明会や研修等の必要性】



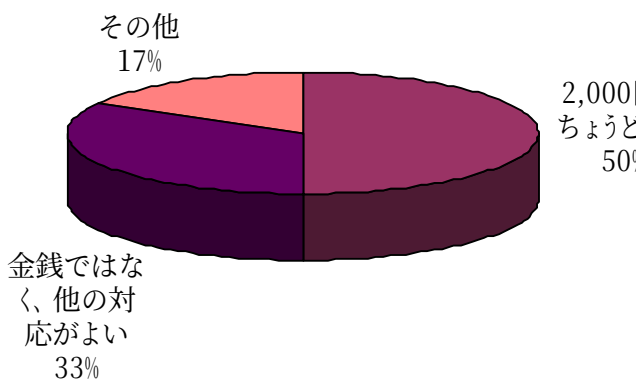
【援農の対価】

- ・ 今回の援農の対価として 2,000 円を支払うことについて

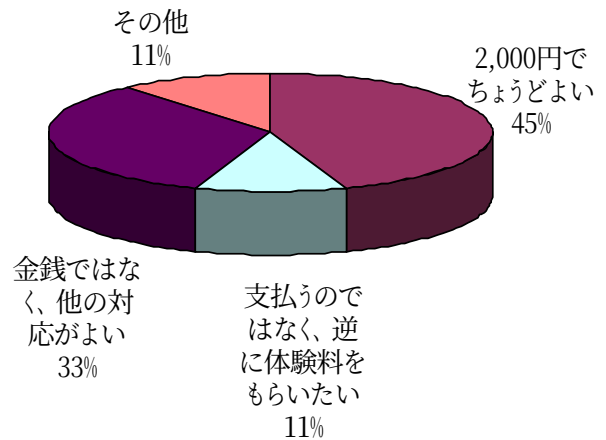


- ・ 対価の設定について

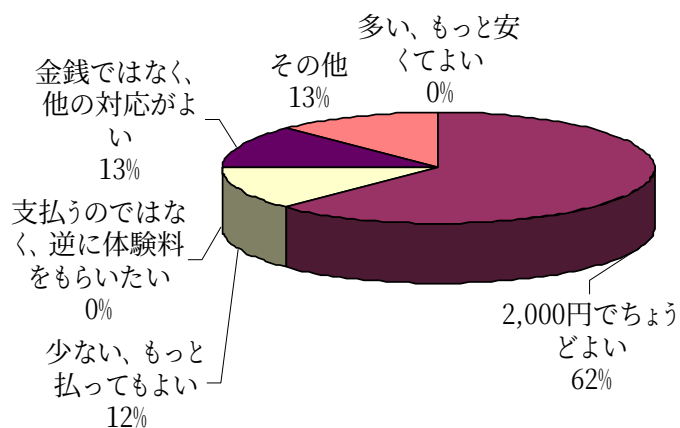
1 回目



2 回目



3 回目



金銭ではなく他の対応がよい

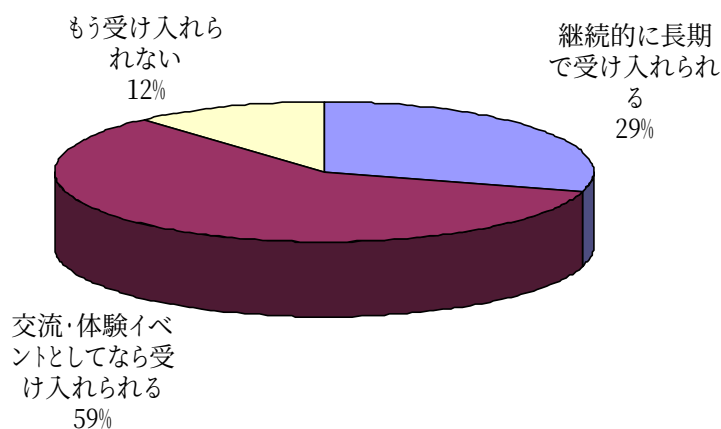
- ・ 手入れをしていただいた農作物
- ・ 2,000 円分のリンゴを送る

その他

- ・ 内容と支払い額のミスマッチがなければよい

②援農の評価（満足度、内容評価、継続可能性評価等）

【援農の継続可能性】



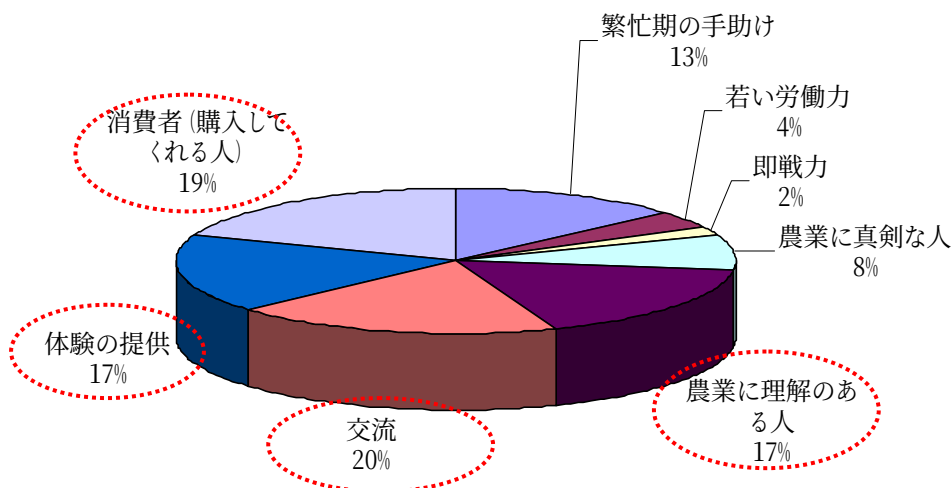
継続的に長期で受け入れられる期間

- ・ 4～11 月
- ・ 内容による

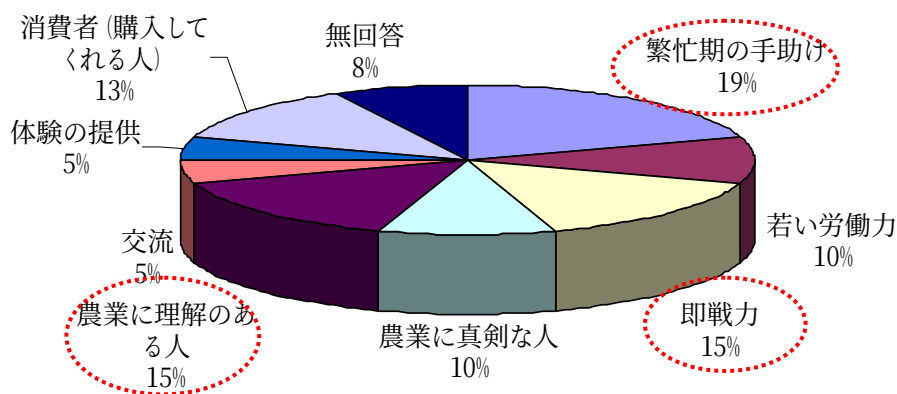
もう受け入れられない

- ・ 加工品は商品になるまでの行程が 大変なので、本来の意味での大変なところは見ることができない。

【援農ボランティア（無料のお手伝い）に求めること】



【作業料を支払って援農に来てもらう場合に求めること】



【人手を必要としている時期、仕事内容】

時期	内容
3月～4月上旬 5月	モモ摘蕾 リンゴ輪摘花、予備摘果
果樹、5～6月、10月	予備摘果、葉摘み
4～5月 6～8月 9～10月 11月	モモ、リンゴ摘蕾、摘花、摘果 サクランボ、ブルーベリー収穫、モモ収穫 リンゴ摘葉 リンゴ収穫
5月中旬～ 6月 6～7月	リンゴ摘果 モモ摘果 ブドウ摘粒、袋かけ
野菜・果物の収穫時期	収穫箱詰め
収穫期	収穫
4～6月	モモの摘蕾、摘花、摘果、受粉、ブドウの花切り、摘粒
5月上旬～中旬、11月中旬	リンゴの摘果（花）、リンゴの収穫
—	モモ・リンゴの摘果（花）、葉つみの時期
4～5月、10月	リンゴの摘果摘花、リンゴの摘葉
5～6月、9～10月	リンゴの摘果、ふじ摘葉
—	春先の摘花（果）作業、モモの収穫期

【提供可能な援農メニュー】

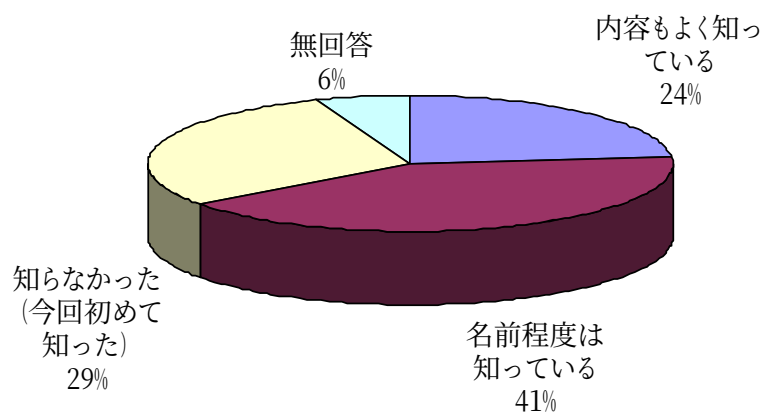
時期	作業内容	受け入れ 可能人数	受け入れ 可能期間	援農の対価
3月	モモ摘蕾	3～5人	2週間	時給 600円
3月	モモ摘蕾	1～5人	1日7時間 10日間	1日 5,000円
3月下旬	モモ摘蕾	1～4人	1日7時間 1週間	1日 6,000円
3月下旬	モモ摘蕾	3人	1日7時間	1日 3,000円
4月	モモ摘蕾	4人まで	1日7時間 1週間	即戦力となる場合のみ支給
4～5月	リンゴの摘花	4～5人	1週間前後	普通に仕事ができる人は1日 5,000円
4～5月	モモ摘蕾 リンゴの摘花・摘果	5人	いつでも	1日 2,000円

時期	作業内容	受け入れ 可能人数	受け入れ 可能期間	援農の対価
4～6月	モモの摘花・リンゴの摘果	4人まで	1日7時間 1週間	即戦力となる場合のみ支給
5月	リンゴ、モモ予備摘果	3～5人	2週間	時給 600 円
5月上旬	摘果	3人	1日7時間	1日 3,000 円
5月上中旬	リンゴの摘果（花）	1～4人	1日7時間 1週間	1日 6,000 円
5月	リンゴ1輪摘果（花）	1～5人	1日7時間 2週間	1日 5,000 円
5～6月	リンゴの摘果	1～4人	1日7時間 1週間	1日 5,000 円
5～6月	リンゴの摘果	3～5人	1週間	3,000～5,000 円
6月	ブドウの摘すい	4人まで	1日7時間 1週間	即戦力となる場合のみ支給
6～8月	サクランボ収穫 ブルーベリー収穫 モモ収穫	2人	いつでも	1日 2,000 円
7月下旬 ～8月	モモの収穫	1～5人	1日7時間 1週間	1,000 円徴収
9月	ナシの収穫	1人～5人	1日7時間 1週間	1,000 円徴収
9月 10月	リンゴの摘葉	2人 10人	いつでも	1日 2,000 円
10月	摘葉	3～5人	2週間	時給 600 円
10月	リンゴの摘葉	1～5人	1日7時間 10日間	1日 5,000 円
10月	リンゴの摘葉	5人	1日8時間 3日間	1日 5,000 円
10月頃	野菜の収穫	5人	1日7時間 1週間	1,000 円徴収
11月	リンゴの収穫	3人	いつでも	1日 5,000 円
11月	リンゴの収穫	1～4人	1日7時間 1週間	1日 6,000 円
11月	リンゴの収穫	3人	いつでも	1日 2,000 円
11月中旬、20 日頃	リンゴの収穫	4人	1日4時間	1日 2,500 円 ＋リンゴ10kg家庭用

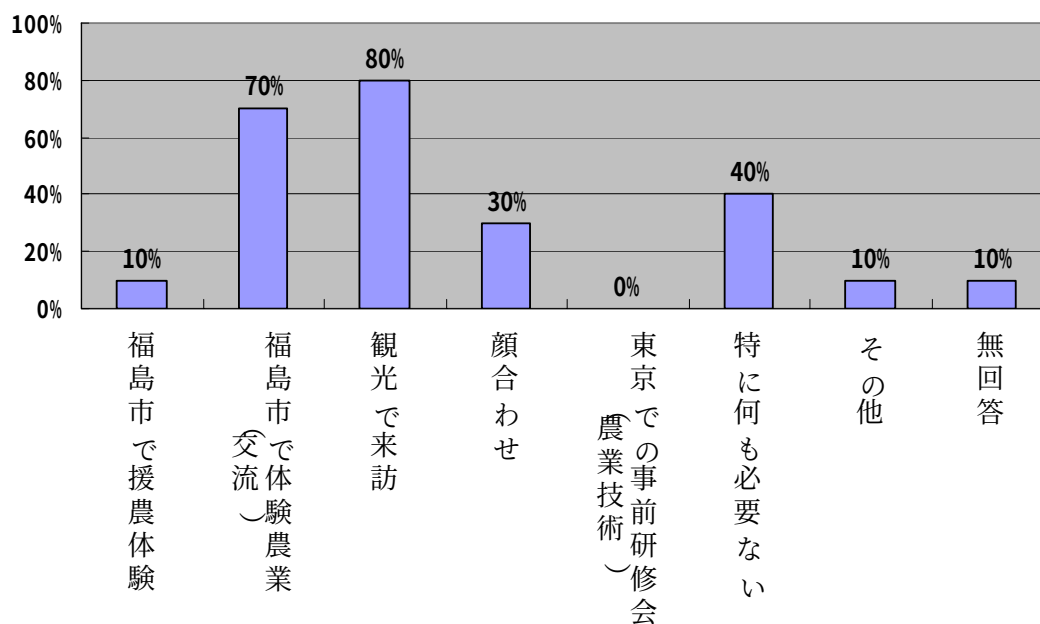
③震災疎開について

震災前には、援農や農業研修よりむしろ、観光や体験農業（交流）を経験しておいてもらいたいとの結果が出た。

【震災疎開パッケージの知名度】



【震災前に荒川区民に取り組んでおいてもらいたいこと】



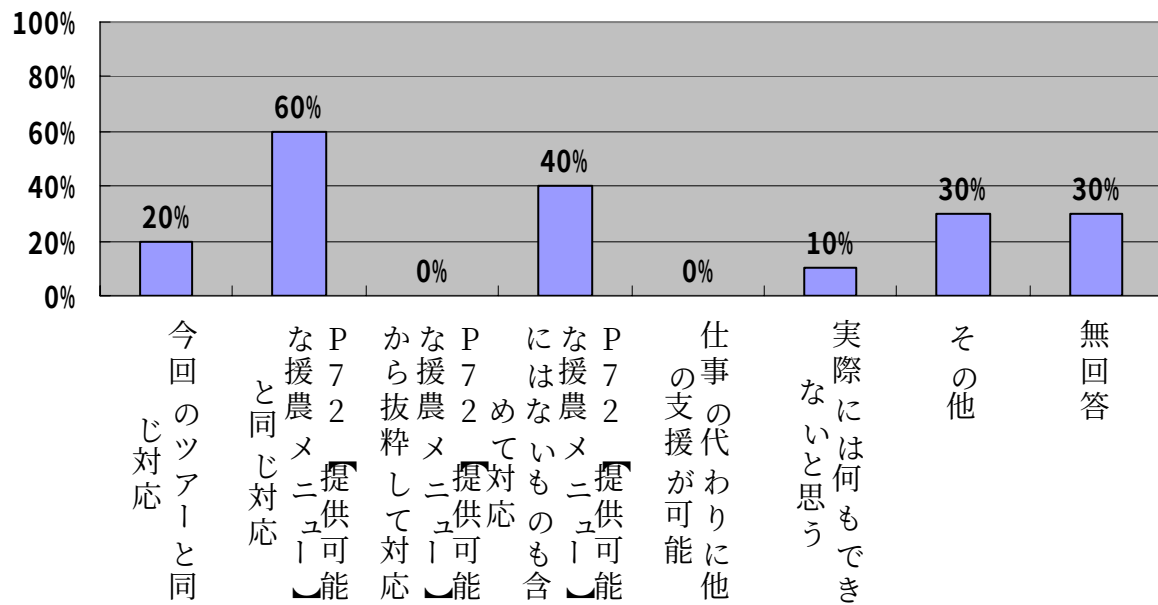
観光で来訪

- ・桃の花見ツアー等をあわせたもの

その他

- ・防災訓練をして欲しい

【震災が起こった場合の対応】



援農提供メニューにはない内容

- ・農作業はいろいろあるので、そのときに対応できる
人数：3人位がよいと思う
時間：やりつけない仕事なので1日で5～6時間くらいが適当と思う
- ・どんな仕事でも真剣に取り組む人であれば可能。
人数：2人
時間：1日で7時間

④自由記入による事業評価

【援農についての感想・意見】

- ・ 大人数でやった方が効率よく仕事はかどる。作業に来ていただいた方が農家側としても助かると思う。
- ・ 東京から来られる方も収穫作業は興味あることと思う。
- ・ 今回のツアーの援農について、私のところは漬物加工でしたが、参加者の中には懸命に働く人、やる気のない人、たまにきり手を出さない人、人それぞれに違いますけれど1日5,000円の支払いをすると、このへんのところを少し考えなければと感じました。（お金だけの問題ではないと思いますけど）
- ・ 素人の方なので、よくよく、農業に理解のある方の参加が望ましい。
- ・ 社会実験では成立するが、その他になれば問題が山積み
- ・ 農作業を理解してくれて作業の効率がよかった。低賃金の対価であれば受け入れを行いたい。
- ・ お互いに無理をしないで長期的にできる方法を見つけていく努力が必要です（金銭的、労力的）。都会の方々が「第二のふるさと」のような感覚で気楽に年に1回でも良いので、行事化できれば・・・まずは今回のリンゴ収穫のようなものを少人数から始めてみてはどうでしょうか。
- ・ 忙しい時期を記入しましたが、援農は簡単にできるものではないと思う。農作業一つとってみても本当に難しい。農家の雇用人だって長年のキャリアがある方々です。体験に重きをおいた方がよいと思います。実際に疎開になった場合は、そのときに農家に対応できます。今は体験をしてもらったり、観光をしたりして、この地域を少しでもわかっていただければよいと思います。
- ・ 対価についてですが、即戦力になる場合であるなら、賃金という形で支給できるが、慣れていない方の受け入れは難しい。やり方を指導しているうちに1日が終わってしまう。
- ・ 今日の作業はとても寒くて大変でした。皆さん一生懸命でとても感謝しています。真剣に取り組んでいただける方ならどんな作業も大丈夫です。
- ・ 総合的に見れば、作業当たりの単価がとてつもなく高くつく。

【震災疎開パッケージについての感想・意見】

- ・ 震災時には兄弟や子どもの支援で手いっぱいになると考えられる。
- ・ 疎開地として被災者の受け入れを行いたい。被災地への必要とする支援を行いたい。
- ・ 金銭的に大変安いツアーなので、人も集まったが、今後継続するには難しいと思われます。助成金の出費、農家の出費、ツアー客の出費をどうするか、具体的に考えていけば道が開かれていくのではないのでしょうか。
- ・ このイベントは初めて知りました。交流をはかることは、お互いよいことと思います。実際に疎開することがないように祈ります。
- ・ 知らない人より知っている人のほうが受け入れやすい。
- ・ 自分の子供や兄弟の世話をすることが一番となり、そちらまでの対応が困難と考え

られる。

- ・ とてもよい商品だと思う。お互いにメリットがある。

【福島市、関係団体の支援について】

- ・ モニターツアーは悪いことではないと思いますが、汗を流して泥だらけになって、本当に農業の大変さを分かってもらえる内容にすると、より消費者にも農業の本当の姿が分かっていただけではないかと思います。
- ・ 福島市活性化の為には観光・援農を含め、都市と農村の交流をなお一層深めて行くことが大いに必要と思われます。
- ・ 飯坂に来て思い出に残るものとは・・・癒し（温泉）と農業が連携する企画を今後も検討してほしいと思います。
- ・ 市、関係団体の方々のご苦勞は大変なことと思います。
- ・ 私達もたくさんの方々との交流ができて大変勉強になりました。
- ・ 事務局になっていただきたい。
- ・ 民間同士よりも官が少しでも入っていると、荒川区の皆さんも安心しておいでいただけます。民間同士で自立できるまで応援して欲しい。
- ・ 受け入れ農家を増やすためには、熱心な事務局が必要。

【その他、感想・意見】

- ・ このツアーがどのようなツアーであるか知らないので何も言いようがない。このツアーは農業に従事している者も入った企画であったのか、もう少し農業している者の意見を取り入れたツアーにしてほしい。加工部分は前の段取りが大変で、当日に持っていくまでの行程を考えると、とても大変の一言に尽きる気がします。
- ・ 初めての試みであったのでとまどいもあった。参加された方々の大部分は目的意識もはっきりしていたように感じ取れた。役立つ仕事をしっかりとこなしたいとの思いははっきり伝わってきた。農家の副産物として新しい消費者開拓にも少しつながった。
- ・ 今回来てくださった方々、一生懸命で大変お疲れになったのではと思います。が、その後、家から写真を送ったり、果物を求めてくださったり、交流がありました。果物を通してお付き合いができることを嬉しく思います。
- ・ 農作業を誰にでもできると考えてもらっては農家にとっては非常に残念。
- ・ 体験ということであれば大変良いことです。援農ということは、なかなか両者にとって問題ありだと思います。高齢の方が多いので安全面で気を使います。若い方々であれば援農ということを考えることはできます。
- ・ 農業は天候に左右されます。援農となると悪天候の場合の対応も考えなければならぬ。対価の問題も含めて、検討する必要がある。
- ・ ホストファーマーとして、荒川区の方々が気軽に仕事を手伝いながら我が家を訪れてくれるようになって欲しいと思う。

ウ 宿泊事業者アンケート結果

(ア) 対象者：宿泊業者

(イ) ねらい

今回の社会実験において都市住民の受け入れを行った宿泊業者にアンケートを実施することにより、以下の点を検証、分析する。

- ・ 宿泊業者の長期滞在受け入れに関する課題分析
- ・ 宿泊業者の震災疎開受け入れに関する課題分析
- ・ 受け入れ基盤強化に向けた検証

(ウ) コンセプト

- ① 長期滞在の課題分析
- ② 災害時滞在の課題分析
- ③ 震災疎開パッケージについての評価（認知度、内容評価等）
- ④ 地域通貨についての評価（対価の妥当性の検証、継続可能性評価等）
- ⑤ 関係諸団体への要望、課題分析
- ⑥ 自由記入による事業評価（分析想定は以下の項目）
 - ・ 長期滞在受け入れに関するもの
 - ・ 震災疎開パッケージに関するもの
 - ・ 災害時受け入れに関するもの
 - ・ 地域通貨に関するもの
 - ・ 関係諸団体に関するもの
 - ・ その他

(エ) 宿泊事業者アンケート結果（サンプル数：3軒）

- ・ 1回目：松島屋旅館（飯坂温泉）
- ・ 2回目：観山荘（土湯温泉）
- ・ 3回目：朝ねぼうの宿 叶や（飯坂温泉）

①宿泊について

長期滞在の受け入れ、宿泊料金の割引は実施されている。食事提供については、今後長期滞在の受け入れを行う上での課題である。

【通常期・繁忙期の正規宿泊料金】

旅館	食事	通常期	繁忙期
A	1泊2食付	10,000円	12,000円
B	—	10,650円～	12,750円～
C	1泊2食付	10,000円	13,000円

【長期滞在（3泊以上）の受け入れ】

- ・ お客様のご要望通り受け入れている：3軒

【平日3日以上滞在する場合の1泊あたりの料金】

旅館	通常期	繁忙期
A	7,000円未満	7,000～8,000円未満
B	7,000円未満	8,000～10,000円未満
	7,000～8,000円未満	10,000～12,000円未満
C	7,000円～8,000円未満	8,000～10,000円未満

【長期滞在（3泊以上）時、対応可能な内容】

- A：食事の提供（日替わりメニュー）
- B：特に短期（2泊まで）と対応は変わらない
- C：食事の提供（日替わりメニュー）、送迎

【長期滞在を受け入れる際の課題】

- ・ 部屋と施設の都合上、部屋割り・自炊等の希望が多くあった場合（特に繁忙期）
- ・ 7泊位まではたまに受け入れており、特に問題なし。
- ・ 食事のメニューや滞在時の楽しみ方などの提供。しかし、このようなことは当ホテルにおいては少しずつですが、実際にやり始めておりますので、特にはありません。

【長期滞在について、宿泊客からの要望】

- ・ 気の合う人同士あるいは2名1室や1名1室の希望が多くあった。
- ・ 自炊がしたいとご要望もあった。

②震災疎開について

震災時の受け入れの素地はあるものの、地域としての取組み指針の策定が課題である。

【震災疎開パッケージの知名度】

- ・よく知っている：3軒

【震災時、東京都民（荒川区民）の一時滞在先としての宿の提供について】

- A：行政等の補助の範囲内で提供可能
震災疎開パッケージの保険料の範囲内で提供可能
災害時は特別料金で提供が可能
- B：無回答
- C：行政等の補助の範囲内で提供可能
震災疎開パッケージの保険料の範囲内で提供可能

【震災被害者を受け入れる際、対応可能と思われる内容】

- A：宿泊所の提供、食事の提供（宿泊者以外を含む）、
風呂の提供（宿泊者以外を含む）
- B：宿泊所の提供、食事の提供（宿泊者のみ）、
食事の提供（宿泊者以外を含む）、
風呂の提供（宿泊者のみ）、風呂の提供（宿泊者以外を含む）、
交通手段（送迎）
- C：宿泊所の提供、食事の提供（宿泊者以外を含む）、
風呂の提供（宿泊者以外を含む）

【実際に震災が起こった場合、どのような課題が想定されるか】

- A：無回答
- B：受け入れに関しては温泉地全体の問題であるため、今後、地域としてどのように受け入れるかをよく検討すべきと思います。
- C：東京まで被災者を迎えに行くことが本当にできるのか。また、行ったとしても長時間かけてこちらまでお連れすることが、本当に被災者のためか、それはわかりません。しかしながら、「困った人達を助けること」この一念でやりたいと思っています。
こちらにお連れしてからの滞在スケジュールや楽しみ、精神面のケアのための医療体制など、福島市全体での取組みが必要となっていくと思います。私どもとしては、少しでもゆっくりと落ち着いて過ごしていただけるよう、食事のメニューを考えたり、たまには飯坂町内観光にお連れしたりしたいと考えております。

④地域通貨（ももりんポイントカード）について

地域通貨の利用については継続して取り組むことは可能であるが、宿泊費への充当については課題である。

【今回の援農対価 2,000 円の利用についての感想】

- ・ お客様の購買意欲がそそられて、宿としても消費単価上昇につながりますから、ありがたいです。
- ・ 地元にいる者もあまり知らないももりんカード。できればもっとわかりやすく利用拡大の方法を考えてはどうでしょうか。

【宿でのポイント利用の継続性】

- A：継続して利用したい
- B：条件つきでならば継続して利用したい。（特に反対する理由はない）
- C：継続して利用したい

【地域通貨の利用範囲、対応可能な内容】

- A：冷蔵庫・飲料等の利用、土産品の購入
- B：冷蔵庫・飲料等の利用、土産品の購入
- C：宿泊費の清算、冷蔵庫・飲み物等の利用、土産品の購入

⑤自由記入による事業評価

【今回のモニターツアーの感想】

- ・ とても面白い試みで宿としてもいろいろと学ぶことができました。ただ、少数の方ではありますが、同室の方ともめたり、コンパニオンを手配しようとした方がいました。安い料金で様々なことが体験できるため、本来の目的以外の行動をとろうとした方々もいらっしゃいました。今後の課題だと思います。
- ・ 特に変わった感想はありません。

【震災疎開パッケージの感想・意見】

- ・ 中越地震の例を挙げるまでもなく、辛い思いをされている方々を少しでもお手伝いできますし、素晴らしいことだと思います。
- ・ 取組みについては、よく理解できる。

【福島市、関係団体の支援について】

- ・ 誘客に関して、花見山やさくらんぼ等集客が見込まれる時期に、首都圏エージェントに対し、企画商品を造成していただくようお願いするとともに、パンフレット代等の助成をしてみたらどうでしょうか。
- ・ 農業を主とした観光ツアーなどのモニターツアーをしてほしい。

エ 荒川区民アンケート

(ア) 対象者：荒川区民（117 町会からの依頼）

(イ) ねらい

荒川区の住民を対象とした広域アンケートを実施することにより、以下の点を検証、分析する。

- ・都市住民の福島市に対する意識の確認
- ・都市住民の長期滞在需要の分析
- ・援農を切り口とした交流事業需要の分析

(ウ) コンセプト

- ①アンケート回答者属性
- ②福島市と荒川区の友好関係についての認知度
- ③福島市の認知度及び訪問意向調査
- ④長期滞在需要調査
- ⑤援農についての興味度及び意識・需要調査
- ⑥災害時の都市住民の希望及び意識調査

(エ) 荒川区民アンケート結果

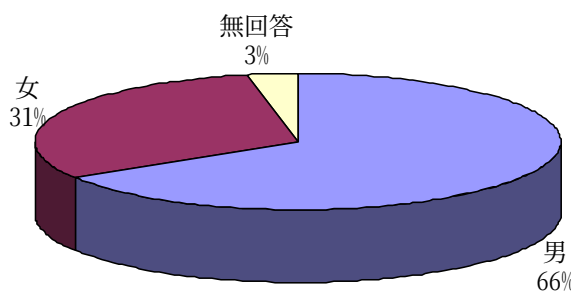
サンプル数：253 人

荒川区内 117 町会長より、1 町会 3 名の割り当てで 351 枚を発送した。（回収率 72%）

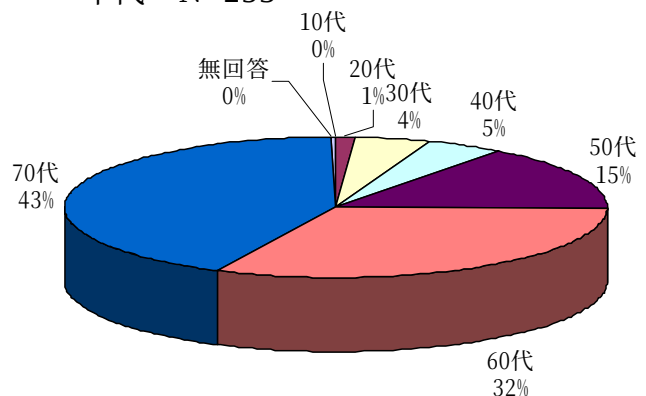
①回答者基本情報

男性が 70%弱、60 代・70 代が全体の 75%となっている。中には、実際に戦時中に疎開をして農作業を経験していた方もいる。

・性別 N=253



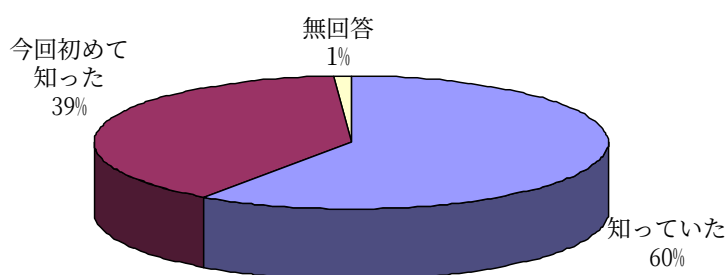
・年代 N=253



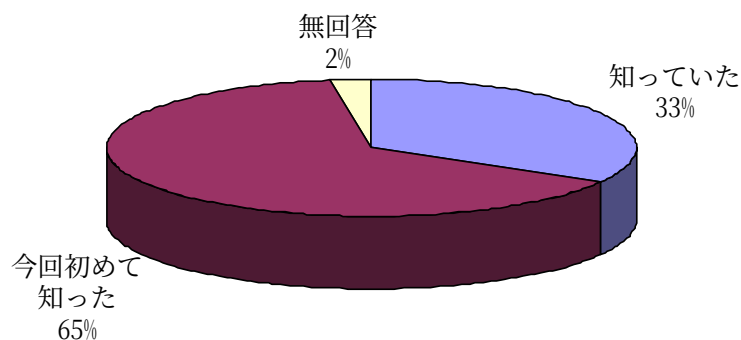
②福島市と荒川区の交流の認知度

友好都市の認知度は6割と高い。防災協定の認知度は比較的低い。モニターツアー参加者の認知度とほぼ同様の傾向にある。

【友好都市の認知度】 N=253



【防災協定の認知度】 N=253

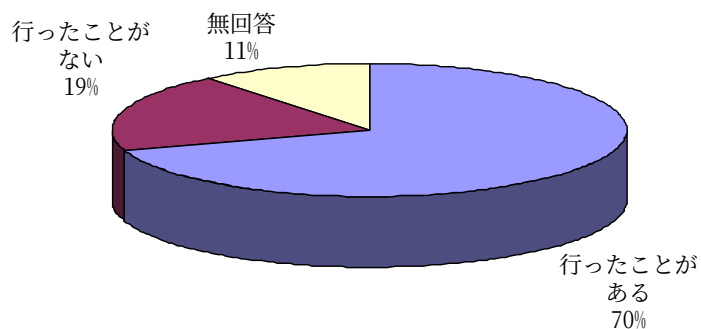


③福島市への訪問意向及び福島市の認知度

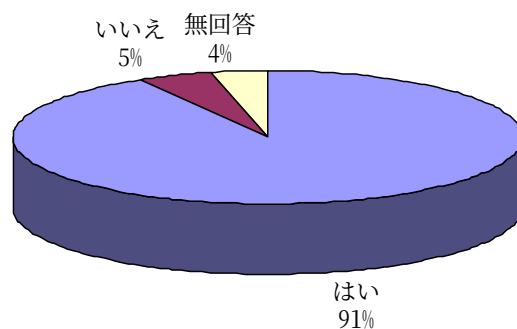
福島市への訪問経験者は7割である。訪問（再訪希望）者は9割と高い。飯坂・土湯温泉、磐梯吾妻スカイラインの知名度が高く、訪問経験も多い。行ってみたい場所は温泉地が上位に挙がる。

【福島市への来訪経験・訪問経験】

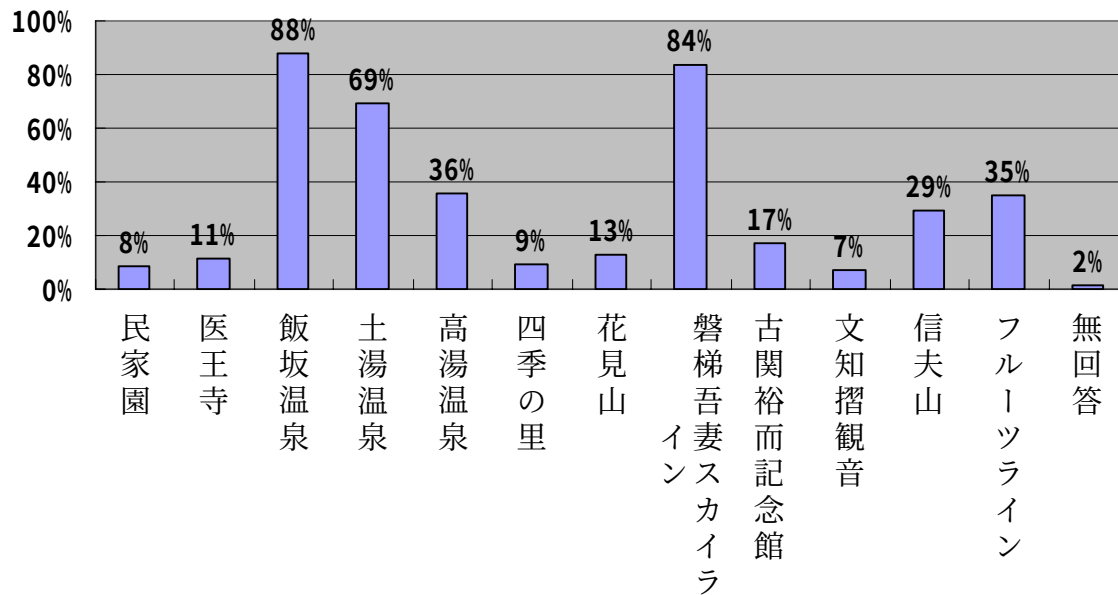
・福島市の来訪経験 N=252



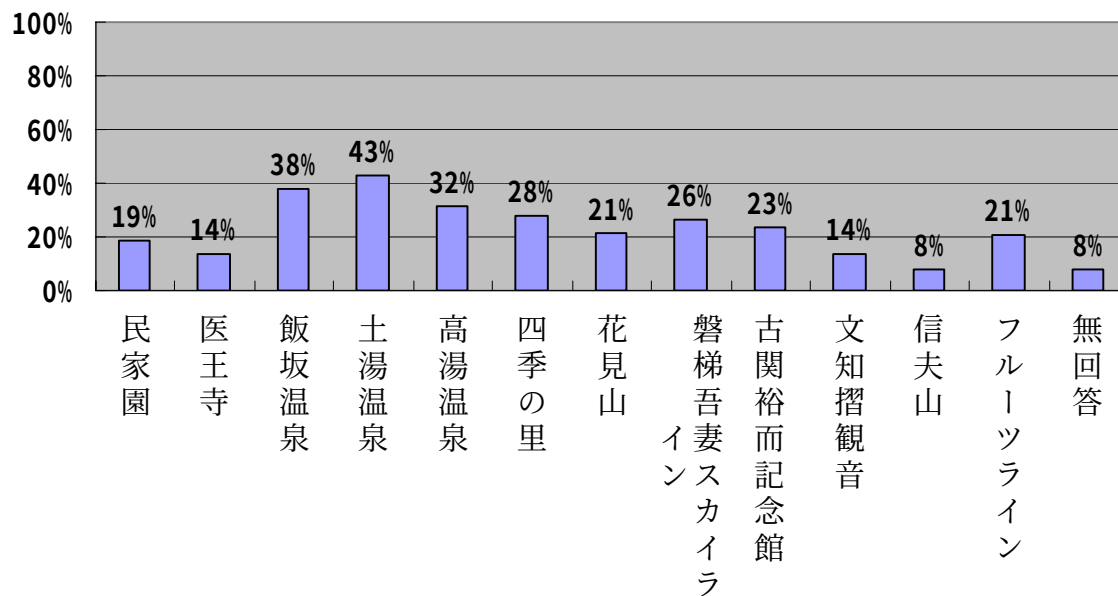
・福島市への再訪を希望するか N=253



【福島市の観光地で知っている場所】 N=253（複数回答）



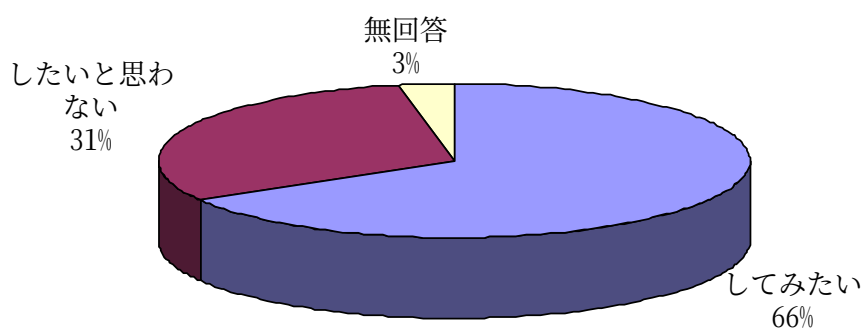
【福島市の観光地で行ってみたい場所】 N=253（複数回答）



④観光目的の長期滞在の需要

66%が長期滞在を希望している。長期滞在時の主な目的として、観光、温泉、交流、保養といったキーワードが上位に挙がっている。

【旅行や観光での長期滞在（3泊以上）の希望】 N=253



【長期滞在の目的】

自由記述の文章よりキーワードを抽出して、出現数をカウントした。出現数は以下の通りである。

	キーワード	出現数
1	観光	64
2	温泉	55
3	ゆっくり	29
4	交流	17
5	保養	17
6	のんびり	16
7	食事	14
8	気分転換	10
9	体験	10
10	自然	9
11	農作業	9
12	巡る	8
13	ハイキング	7
14	楽しむ	7
15	地域	6
16	見学	6
17	知る	5
18	山	5
19	果物	5

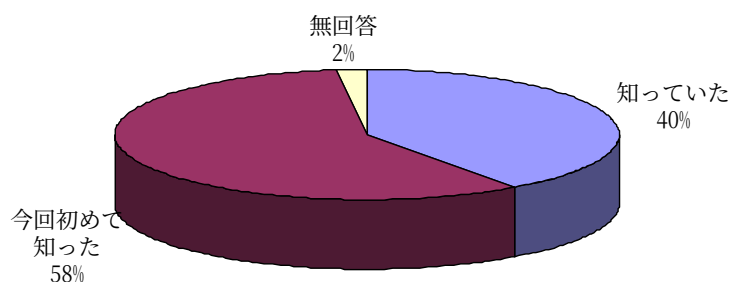
	キーワード	出現数
20	飯坂温泉	4
21	時間	4
22	子ども	4
23	妻	4
24	名所旧跡	3
25	文化	3
26	土地	3
27	田舎	3
28	疎開	3
29	宿泊	3
30	住む	3
31	近い	3
32	魚釣り	3
33	美しい	2
34	援農	2
35	登山	2
36	空気	2
37	セカンドハウス	2
38	生活	2
39	社寺	2
40	紅葉	2

※形態素解析により抽出

⑤援農について

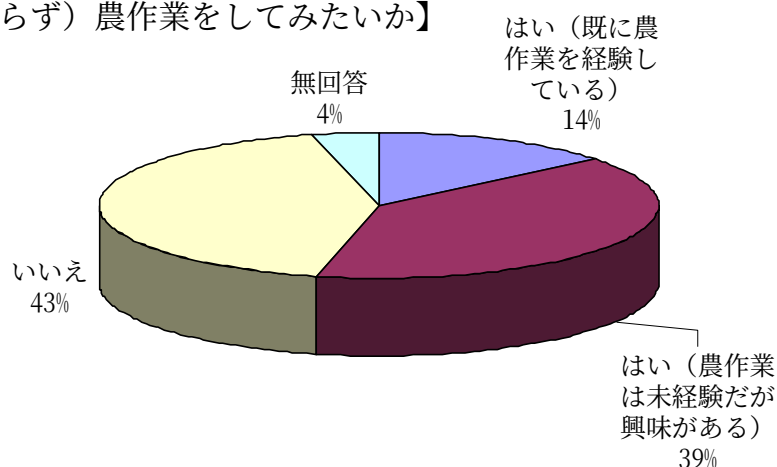
「援農」という言葉を知らなかった人が6割弱である。農作業を希望する方は5割強であるが、高齢であることや時間の余裕がないという理由で希望はしてもできないという理由も見られた。家庭菜園や気軽な農業体験の希望者が7割弱、ボランティアが16%と、対価の伴う援農や本格的な農作業の希望は少ない。また、農業経験者ほど家庭菜園等で個人的に楽しみたい傾向が強い。

【援農体験という言葉を知っていたか】 N=253

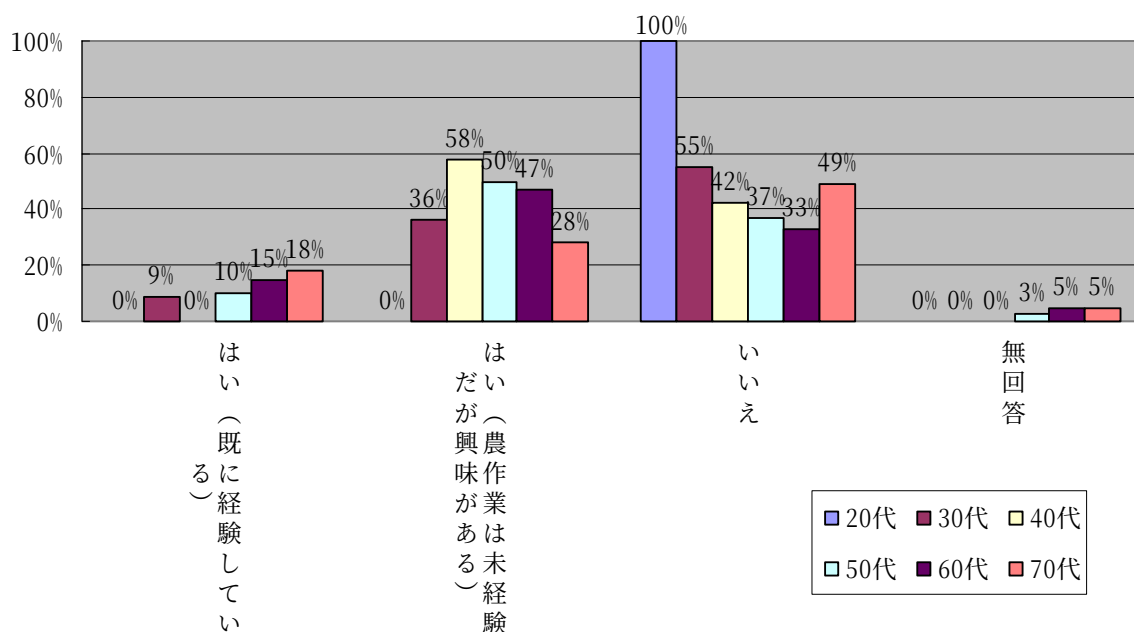


【(福島市に限らず) 農作業をしてみたいか】

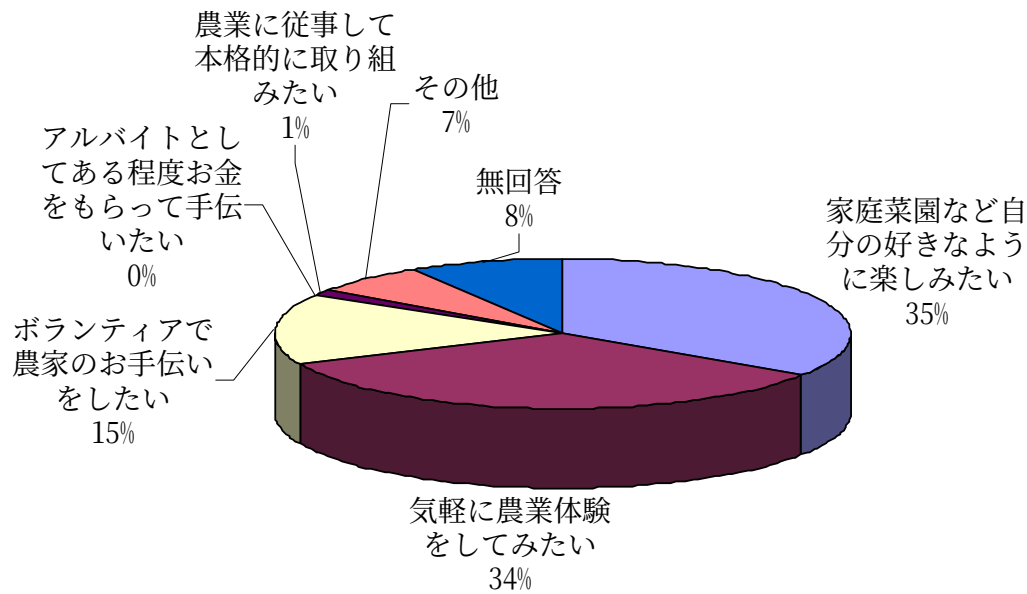
N=252



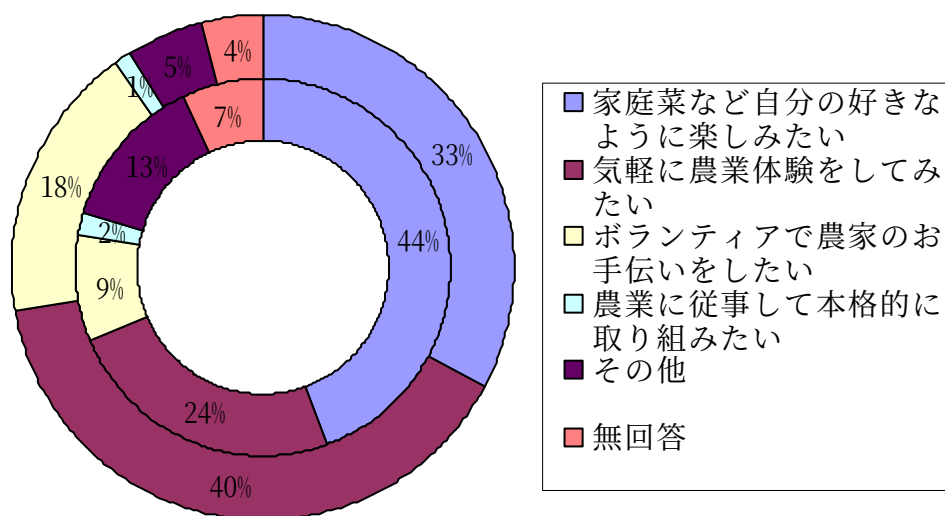
(年代別)



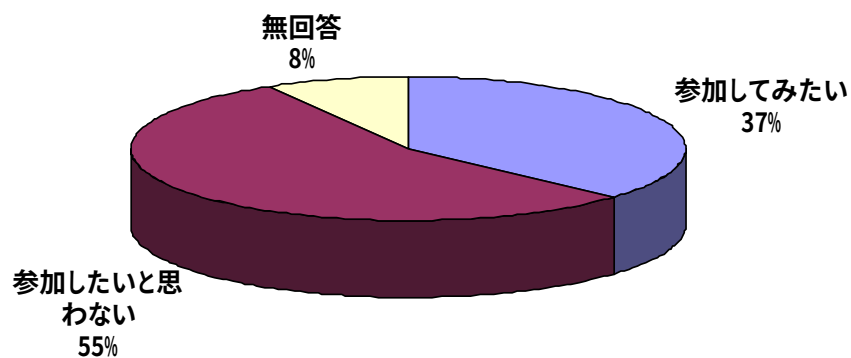
【どのような形での農作業を希望するか】 N=177（複数回答）



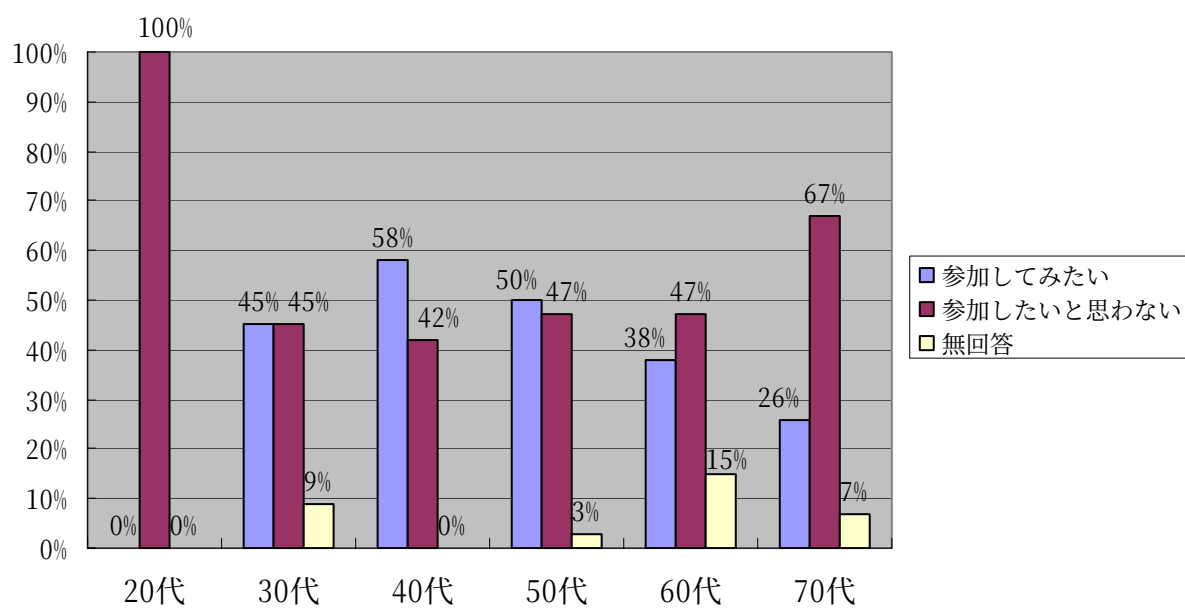
（農業経験別） 内側：農業経験者・外側：農作業は未経験だが興味がある



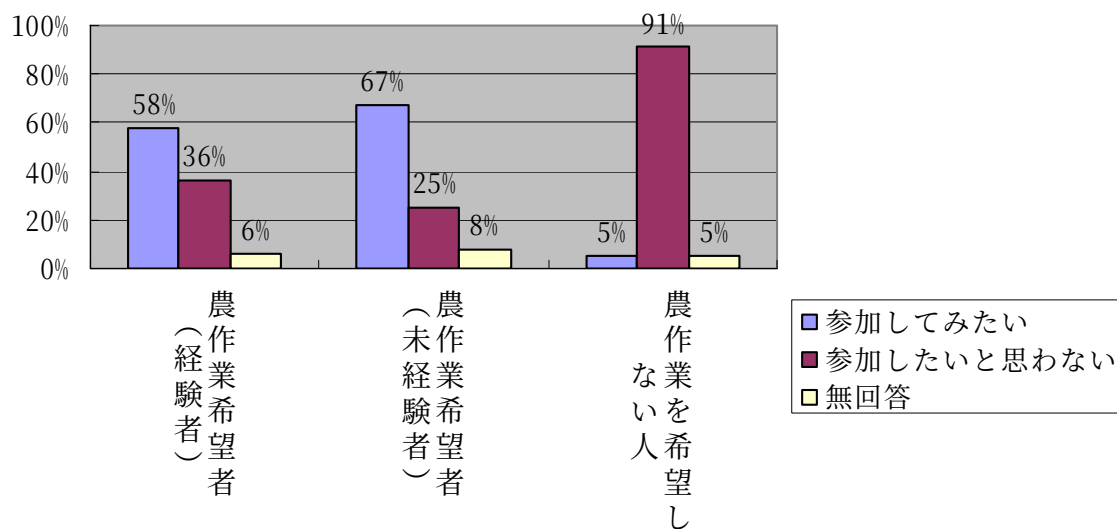
【援農体験ツアーへの参加希望】 N=253



(年代別)



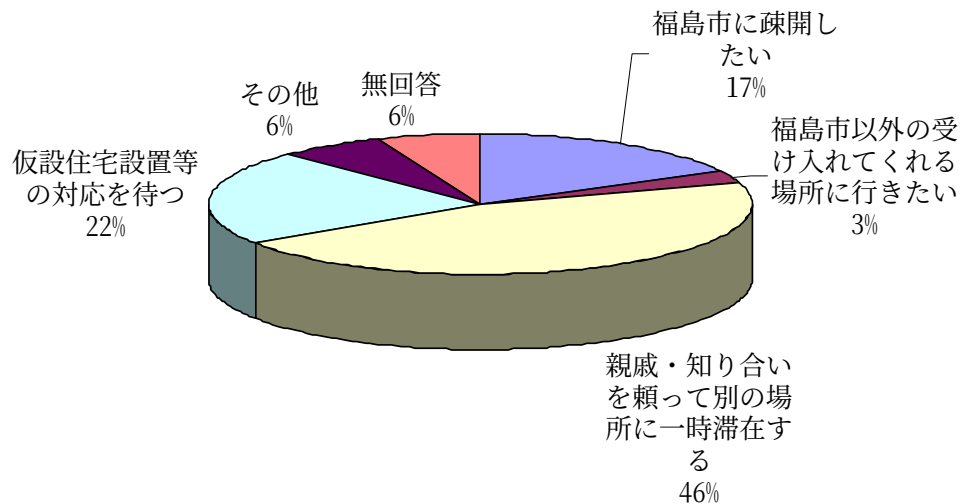
(農業経験別)



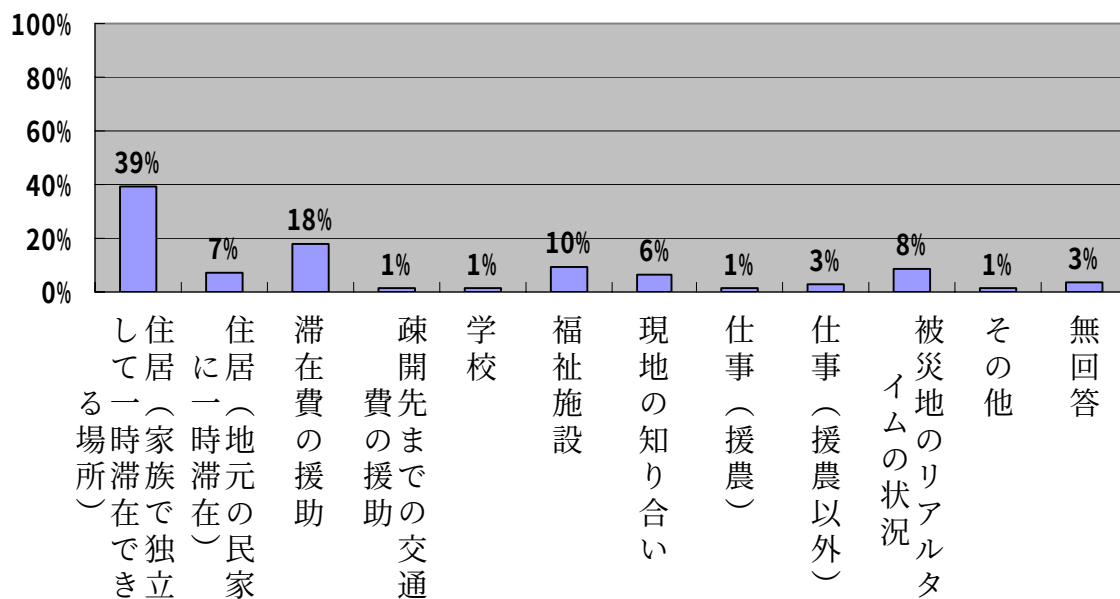
⑥災害時の都市住民の希望及び意識

被災した場合、親戚・知り合いを頼る方が 46%、次いで仮設住宅設置等の対応を待つ方が 22%となった。災害時の長期滞在時に必要なことをモニターツアー参加者の回答と比較すると、全体的に回答率も低く、防災想定意識が低いことがわかる。家族独立型の住居・滞在費の援助が上位に挙がることは同様であったが、仕事（援農）の必要性が低く、福祉施設の需要が高い結果となった。

【被災した場合、想定される行動】 N=249



【災害時、長期滞在する場合に必要なこと】 N=244



(5) 受け入れ基盤強化のためのワークショップの開催

ア ワorkshop開催概要

日時：平成 19 年 2 月 7 日（水）18:00～21:00

場所：飯坂学習センター

内容：「受け入れ態勢の整備」

①現状分析 ②課題の抽出 ③解決の手法 ④今後の方向性等

参加者

所属	参加者	備考
飯坂温泉観光協会 会長	大宮 行雄	
飯坂温泉観光協会 専務理事	安斎 忠作	受け入れ農家
同 ふるさと産品振興委員会 会長	菊田 透	
受け入れ農家	橘内 豊明	
〃	清野 正芳	
〃	永倉 浩子	
〃	安斎 さと子	
〃	佐藤 和子	
飯坂温泉観光協会 事務局長	宮田 潔	
飯坂温泉観光協会 事務局	畑中 靖	
観山荘 社長	斎藤 建一郎	
ふくしま NPO ネットワークセンター 副理事長	佐藤 和子	
花も“み”もある福島震災疎開交流会	林 克重	
福島市商工観光部 参事兼観光課長	高村 一彦	
福島市観光課 観光振興係長	長沢 善則	
福島市観光課 主査	佐藤 義孝	
JTB 東北本社団体課 営業推進課長	佐藤 一彦	コーディネーター
JTB 東北福島支店 営業課長	渡辺 正樹	
株式会社プロジェクト地域活性	望月 孝	コーディネーター
〃	三神 真澄	アシスタント
〃	菅井 美紀	アシスタント

イ ワークショップ内容

2 グループに分かれて、援農体験受け入れ基盤整備に向けて「目標（ありたい姿）」「課題」「解決策」について話し合った。

目標（ありたい姿）	課題	解決策
①参加者の交通費・滞在費の負担を軽減	交通費、滞在費が高い	・マイカー利用 ・格安で宿泊できる場所の提供 ・宿泊施設の協力数を増加（広い価格帯の中から参加者が自由に選択できるようにする）。
②長期滞在しやすい宿泊場所の提供、農作業と宿泊の受け入れ先を分離	宿泊料金と援農対価との格差、民泊は困難	・宿泊施設の協力数を増加 ・B & B (Bed&Breakfast)、食事なし、自炊可能等、滞在の自由度を高める
③宿泊と農作業の連携	宿泊施設と農家との協力体制・理解の構築	・参加者が作業に携わった作物を宿の食事に組み込む。 ・農家・宿泊施設の受け入れ可能時期を照らし合わせてスケジュールを組む（4～5月のGW時期以外等）
④参加者の農業技術のレベルアップ、農業に意欲の高い参加者、即戦力	参加者の農業技術・意識のばらつき	・事前講習会の開催 ・習熟度により内容を選択できるように、段階的な援農メニューを設定する
⑤少数の方と深い付き合い、リピーター、直売関係	収穫作業に人気が集中、参加者の意識のばらつき	・果樹農家以外との連携（1ヶ所の参加受け入れ数を減らす） ・収穫期以外の作業のメニュー化
⑥農繁期の手伝い（仕事のある時期が限定される）	同作物を栽培しているため、内容・時期が限定される	・果樹農家以外にも受け入れ箇所を拡大
⑦援農メニューの拡充	・受け入れ農家・メニューの不足 ・長期滞在の魅力不足	・受け入れ農家を増やす ・果樹農家以外の農家との連携（メニュー種類を増やす） ・農作業以外にも観光等の楽しさを提供する ・地域全体で長期滞在しやすいメニューづくりを行う。
⑧適切な受け入れ人数の設定	参加者の需要と一戸の受け入れ数の調整がで	・1人の指導者に対して参加者5人程度

	きていない（大人数の援農受け入れは困難）	・受け入れ可能農家数を増やして分散して受け入れる ・果樹農家以外との連携（1ヶ所の参加受け入れ数を減らす）
⑨適度な交流	1日中の対応は困難	・役割の分担化 ・過度な交流会開催等は避ける
⑩適切な援農対価	・参加者の農業技術、意識のばらつき ・対価設定の基準がない	・「体験」と「援農」の明確な区別をつける ・「体験」の対価は収穫物を充当 ・「援農」は技術の円熟度によって対価を段階的に設定する
⑪食事提供（内容・方法）の負担を軽減	食事の準備・設定が負担	・各自で食事をとってもらう ・地域内の食堂等との連携
⑫援農以外に、地域で多様なメニューを提供	受け入れ可能時期・作業内容が偏っている	・果樹農家以外の農家や他業種との連携（長期滞在時の提供メニューの幅を広げる）
⑬安全管理の徹底	・高齢者の参加 ・未熟な技術 ・受け入れ許容数の設定が曖昧	・事前講習会の開催 ・安全管理マニュアルの作成 ・保険の加入 ・受け入れ人数の制限
⑭窓口の設置	参加者側・受け入れ側共に集約窓口がない	・組織体制の確立 ・ネットワーク化（組織・機能・人）
⑮行政の支援	管轄が曖昧	・長期滞在者の生活相談窓口の設置 ・農政、観光等、行政区分の枠を超えての連携が必要
⑯各種機関との連携	他機関との連携が取れていない	参加者と受け入れ側の中間的役割を担う組織（JA、観光協会、旅行会社、NPO等を想定）を確立する

(6) 受け入れ基盤強化のための先進地視察

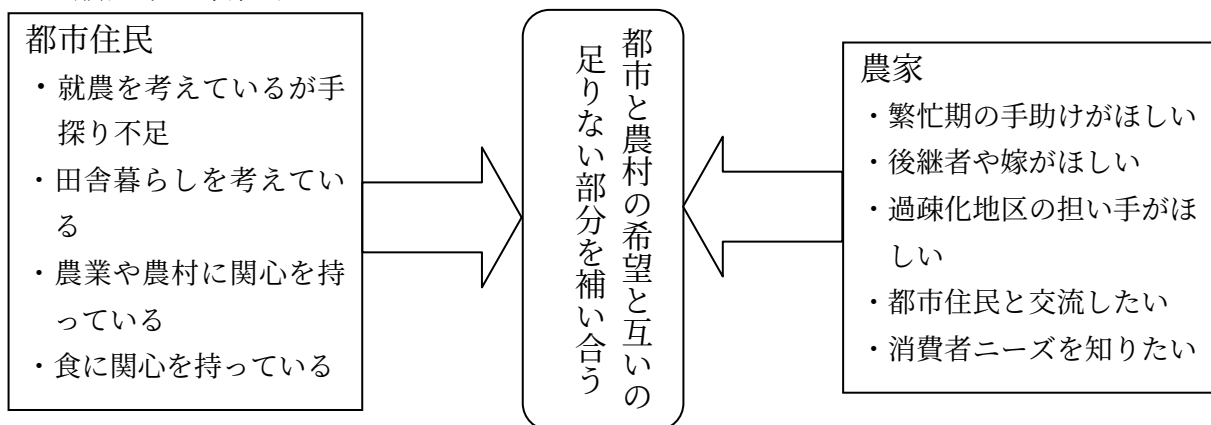
ア 視察概要

日時：平成 19 年 2 月 26 日（月）～27 日（火）

視察地：長野県飯田市

内容：当該社会実験実施の目的の一つとして、受入基盤の強化も実験の要素として
いることから、受入農家を対象に援農による都市と農村の交流の先進地である長
野県飯田市の「ワーキングホリデー」事業について視察し、福島市の新たな滞在
型農業体験活動の受入農家基盤強化の参考とすることを目的とした。

イ 飯田市の取組み



ワーキングホリデーとは、田舎で暮らしたい、本物の農業を経験したいという都市住民と繁忙期における人手不足や高齢により農作業ができない農家をつなぎ、お互いの足りないところを補い合う、金銭の授受等が発生しない援農のボランティア制度である。本事業により農作業の労力確保のみでなく、定住促進、後継者確保等が図られ、地域に新しい人材を受け入れる仕組みとなっている。

平成 10 年度から実施され、発足当時、受入登録農家は、10 戸、参加登録者は 20 人の募集に対して 50 人が応募した。

平成 18 年度の受入登録農家は、91 戸、参加登録者は 1,131 人となっている。

ウ 受入基盤強化につながる参考事例及び示唆

都市部に援農希望者が多く存在してもそれを受け入れる農家がいなければ、援農を切口とした交流事業は実施できない。受入農家の確保は受入基盤の強化を図る上で大きな要素となる。そのためには、農家にとって援農希望者を受け入れることにより享受するメリットがなければならない。

当該制度は、「繁忙期の労働力補完が期待できる。」「農家にとって負担がかかる受入はしない。」「素人が来ても農家自身の作業能率が下がる仕事はさせない。」「農家の繁忙期だけ受け入れ、労力補完が不要な時期は受け入れない。」「産地直送の発生が期待できる。」等、農家にとってのメリットが明確なことから、口コミ等により年を追うごとに受け入れ農家が増えている。このことから福島市の受入基盤の強化を図るためには、農家にとってのメリットの確立とメリット情報の共有化が不可欠であるとの示唆を受けた。